

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 新潟県・長野県・他 —

五十嵐 高志*

国立防災科学技術センター雪害実験研究所

Snow Damage in Winter of 1984/85 in Niigata and Nagano Prefectures

By

Takashi Ikarashi

*Institute of Snow and Ice Studies, National Research Center
for Disaster Prevention, Nagaoka, Niigata-ken, 940, Japan*

Abstract

Heavy snowfalls hit successively Niigata, Nagano and other Prefectures in late December, 1984. Depth of snow cover made the second or third record since the beginning of the observation, and various sort of damages broke out in those districts. Snow damage in Niigata and Nagano Prefectures was investigated on the basis of news paper and materials offered by railway offices, fire defence headquarters, the Headquarters of Police Region of Niigata and Nagano Prefecture and the Prefectural Office of Niigata from November 20, 1984 to May 31, 1985. Eighty four persons were killed and 143 persons were injured in Niigata Prefecture, and 46 persons were killed and 158 persons were injured in Nagano Prefecture.

目 次

| | | | |
|----------------------------|----|---------------------|----|
| 1. はじめに | 2 | 5. 2 人的被害 | 10 |
| 2. 1984～1985年冬期の気象概況 | 2 | 5. 3 建物・施設の雪害 | 11 |
| 2. 1 全国の気象概況 | 2 | 6. 長野県の雪害 | 11 |
| 2. 2 新潟県の気象概況 | 3 | 6. 1 調査結果 | 11 |
| 3. 調査期間および調査方法 | 6 | 6. 2 人的被害 | 11 |
| 4. 調査結果 | 6 | 6. 3 建物・施設の雪害 | 11 |
| 5. 新潟県の雪害 | 10 | 7. 鉄道の雪害 | 16 |
| 5. 1 調査結果 | 10 | 7. 1 調査結果 | 16 |

* 第1研究室

| | | | |
|------------|----|------------|----|
| 7.2 人的被害 | 21 | 8.2.1 観測方法 | 24 |
| 7.3 鉄道の雪害 | 21 | 8.2.2 観測結果 | 26 |
| 8. 災害現地調査 | 24 | 9. おわりに | 26 |
| 8.1 現地調査 | 24 | 10. 付表 | 34 |
| 8.2 積雪断面観測 | 24 | 11. 付図 | 98 |

1. はじめに

昭和59～60年冬期は、12月下旬から北海道、東北、北陸地方の日本海側で大雪に見舞われ、各地の12月の最深積雪が新潟64cm(観測史上第3位)、高田224cm(同第2位)、青森128cm(同第2位)、長岡241cm(戦後最高・国鉄調べ)などに達した。このため各地で積雪に伴う災害や被害(以下「雪害」という)が生じた。

昭和59～60年冬期の雪害について、新潟県と長野県を中心に調査した。

2. 1984～1985年冬期の気象概況

日本気象協会提供の1984年11月1日から1985年4月30日までの、毎日午前9時の天気図と気象概況を巻末に付図として示した。以下の全国の気象概況および新潟県の気象概況は、日本気象協会提供資料と新潟県気象月報にもとづいて述べる。

2.1 全国の気象概況

11月は上旬の初め北日本を中心冬型の気圧配置となって天気は崩れたが、その後は高気圧に覆われて晴天が続いた。中旬に入り日本付近を気圧の谷が短い周期で通り、天気も変わりやすく寒暖の差が大きかった。下旬の初めは大きな高気圧に覆われ快晴となり、放射冷却による厳しい冷え込みとなって各地で初霜、初氷を観測した。後半には冬型の気圧配置が強まるようになり、各地で初雪を観測した。

12月は上旬と中旬は天気の変化が速く、冬型の気圧配置がたびたび現われたが、長続きはしなかった。しかし、中旬半ば過ぎから低温の日が続いた。下旬は日本付近が一挙に強い冬型となり、稚内上空5000mで史上最低記録-53.8°Cが観測された。北海道から九州まで、太平洋側を除いて雪の日が続いた。各地で大雪被害が続出した。

1月はしばしば低気圧が日本海を東進し、一時冬型の気圧配置が弱まることもあったが、5日～7日、16日～17日、25日と29日～30日に弱い寒気が日本付近に南下したので、たびたび冬型の気圧配置が強まって大雪となった。気温は予想外の寒さで、月平均気温は沖縄で平年並の他は、北陸、北日本で1～2°C、その他も1°C前後平年より低かった。本州～九州の太平洋側は極端に降水が少なく平年を下まわり、平年の10%前後のところも多かった。

2月は、上旬には高気圧に覆われ、おだやかな日が多く、中旬にはたびたび冬型の気圧配置となり、旬の半ばごろ一時的に強まったが長続きしなかった。下旬前半も冬型の気圧配置

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

が続き日本海側は、雪となったが、後半から高気圧に覆われ冬型がゆるんだ。また、9日～10日、19日～20日と28日には発達した低気圧が本州付近または南岸を通ったので全国的に雨となった。降水量は北陸以北の日本海側で平年よりやや少なかった程度で、その他は150～200%を超えた所も多い。月平均気温は、北海道の内陸で2～3°C高く、その他はおおむね平均並。

3月は、上旬に菜種梅雨となり、上・中旬に西日本は日本海と南岸を通った低気圧の影響で大雨や強雨に見舞われた。関西以西で月日照時間が非常に少なく、東京では74時間で史上最少を記録、平年の41%であった。他に館山、八丈島、足摺も最少を記録した。月平均気温は中部地方以西で平年よりやや高く、東日本・北日本はほぼ平年並であった。

4月は、上旬に発達した低気圧の通過と前線の通過で、東北地方で大雨、南西諸島で強雨となったが、他は大型の高気圧に覆われて、晴天の日が多くなった。月日照時間は東北と道南を除き平年の100%を超えた。月降水量は本州の大部分で平年を上まわりその他はやや少な目であった。月平均気温はおおむね平年並で、ほぼ平常な天候の月であった。

2.2 新潟県の気象概況

11月は上旬初め、発達中の低気圧が沿海州付近から南東に進み、日本海や北日本は気圧の谷となり、気圧の谷の通過後日本付近は北日本を中心に冬型の気圧配置となって、気温は下がり北西の風が強まった。旬半ばは移動性高気圧と東西に延びる高圧帯に覆われて晴天が続いた。中旬の前半は気圧の谷通過後、北日本を中心に冬型の気圧配置となつたので雨が続いた。旬後半は低気圧の通過や高気圧に覆われたため、周期的な天気の変化がみられた。下旬は気圧の谷や低気圧の東進後一時的に弱い冬型の気圧配置となって雨や雪の日があったが、周期的に高気圧や高圧帯に覆われ晴天の日が多くなった。このため新潟はこのころ初霜、初氷、相川は初霜、高田では初氷をそれぞれ観測した。また、相川では25日、新潟・高田では27日にそれぞれ初雪を観測した。

12月は上旬初めから短い周期で天気が変わった。旬初めは日本海と紀伊半島沖にそれぞれ低気圧があって、日本付近は気圧の谷に入って雨となつた。旬半ばは北海道東方海上に発達した低気圧があり、一方、西から高気圧が張り出して、北日本を中心に一時冬型の気圧配置になつたので海岸、平野部で北西の風が強まり雨となつた。その後高気圧が本州を広く覆い晴れたが、再び冬型の気圧配置となつた。また、上空5000m付近に寒気が入つたため、雨または雪になった。気温は平年並かやや高く、日照はかなり多かった。中旬は初め本州南海上の低気圧が発達しながら三陸沖に進み、日本付近は気圧の谷となつたため雨、その後高気圧に覆われて晴れたが、発達中の低気圧が北日本を通過し、冬型の気圧配置となつたので気温が下がり、18日～19日にかけて雨のち雪になつた。旬末は佐渡付近と東海沖にそれぞれ発達中の低気圧があって本州は深い気圧の谷に入り天気は雨、気圧の谷通過後は冬型の気圧配置に

なり、北西の風が一時強く時々雪となった。下旬は旬初め気圧の谷が通過し、日本付近は次第に冬型になった。その後旬末にかけて冬型の気圧配置が続き時々強まった。このため旬初めは主に海岸、平野部と中・下越地方を中心に強い降雪となつたが、次第に大雪の中心が上・中越地方と山沿いに移つた。また、日本付近上空に非常に強い寒気が入つたため、一段と冷えこみ、県内各地で真冬日(最高気温 0°C 未満)を観測した。大雪警報が3回発表され各地で積雪が2mを越えた。気温は平年を 3°C 以上も下回る異常低温となり、日照は少なく、降水量は高田で多かった。

1月は旬初め日本付近は北日本を中心に弱い冬型の気圧配置で全般に曇りや雪であったが、沿岸平野部は一時晴れた。旬半ばから日本付近の冬型の気圧配置が次第に強まり、上空に強い寒気が入つたので、県内の上・中越地方の山沿いを中心に大雪となつた。4回目の大雪警報が発表された。旬末は日本海の高気圧が本州を覆つたので冬型が一時ゆるんだが、その後低気圧が中国東北区と日本海北部で発達し、日本付近は気圧の谷となり雨となつた。気温は新潟、高田で低く、降水量は相川で少なかつた。また、新潟の日照は多かつた。中旬は旬初め、冬型の気圧配置が弱まり、県内の天気は晴、曇、雨、雪などであったが、旬半ばから日本は冬型の気圧配置となり、上空に強い寒気が入つたため大雪と低温になつた。旬後半も北海道付近に発達中の低気圧があつて日本付近は再び強い冬型の気圧配置となり、このため上・中越地方を中心に大雪となつた。この期間に大雪警報が2回発表され、今冬では6回となつた。この旬の気温は低く経過した。

下旬には旬初めと後半に低気圧が日本海を東進し、日本付近の冬型の気圧配置がゆるみ雪、雨、曇りとなつた他は、相変わらず冬型の気圧配置となり、北西の季節風が強く雪が続いた。このため上・中越地方を中心に大雪となつた。高田測候所の積雪は12月30日に224cmとなり戦後での第1位を記録した。この旬も大雪警報が2回発表され、今冬では8回となつた。

2月の上旬は、気圧の谷や低気圧の通過で弱い冬型の気圧配置による雨や雪の日があつたが、日本付近は高気圧に覆われる日が多く曇から晴れの日が多かつた。旬平均気温は平年より高く、旬末は3月下旬並の暖かさとなつた。中旬は短い周期で冬型の気圧配置が現われたが長続きしなかつた。旬を通して天気はぐずつき、雪または風雨の日と曇り日となり、気温は新潟、高田、相川で平年の旬平均をそれぞれ 1.3°C , 0.5°C , 1.0°C 上まわつたが、新潟、相川の降水量は、それぞれこの10日間で20.0mm, 11.0mmと平年の5割にもみたなかつた。下旬は前半に強い冬型の気圧配置が続き、後半は冬型の気圧配置がゆるみ曇りで晴れ間が出た。降水量は新潟、高田は平年並、相川はこの10日間で11.0mm、平年の35%と少なかつた。気温は高田で平年より 1.5°C 低かつたが、新潟、相川は平年並であった。

3月は上旬にたびたび低気圧が本州南岸沿いを通つたが、冬型の気圧配置は長続きしなかつた。全般に曇り時々雨の日や雪の日が多かつた。気温は一時低い時もあつたが、新潟、高田、相川で平年より 0.5°C 前後高く経過した。中旬は本州南岸沿いを前線を伴つた低気圧が

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

たびたび通り、この影響で曇り時々雨となった。また、低気圧の通過後高気圧が日本付近を覆ったため周期的に晴れ間があった。気温は、前半は平年より低目、後半は高くなつたが、旬平均では新潟、高田、相川とも平年より $1.0 \sim 0.5^{\circ}\text{C}$ 低くなつた。下旬は短い周期で天気が変つた。気圧の谷、低気圧の通過に伴う雨や雪の日と移動性高気圧に覆われた晴天が交互にくり返される天候であった。気温は旬中頃高く、旬末には低くなつたが、旬平均は平年並であった。日照は全般に多く、相川では平年の15%多かった。

4月は、上旬では移動性高気圧に覆われて晴れ、低気圧の通過で曇り時々雨の天候が交互にくり返されて経過した。降水量は新潟で平年の5割以下と少なく、日照時間は平年より新潟で20%，高田、相川でそれぞれ15%多かった。気温は新潟、相川で平年を 2°C 前後上回つた。中旬は周期的な天候で経過した。気温はやや低い日があり、高田で旬平均 0.5°C 前後平年を下回つたが、新潟、相川で平年並であった。降水量と日照時間も新潟、高田、相川で平年値前後であった。下旬は前半日本海西部にある低気圧に暖かい南風が吹き込み、フェーン現象となり、県内最高気温は、新潟 24.9°C 、高田 26.5°C 、相川 22.4°C で今年1番の暖かさとなつたが、その後気圧の谷と前線が県内を通過し、大気の状態が不安定となり、曇りや雷雨となつた。後半は高気圧に覆われ天気は回復して晴天となつた。気温は全般に平年より高めであった。

今冬の気温の変化を、高田の昭和59年11月～60年4月の各月の旬平均気温(実線)と平年の各月の旬平均気温(点線)を図1に示した。

今冬、新潟地方気象台から発表された大雪警報を表1に整理した。また、雪崩注意報は、1984年12月25日10時50分に出され、133日後の1985年5月6日11時20分に解除された。

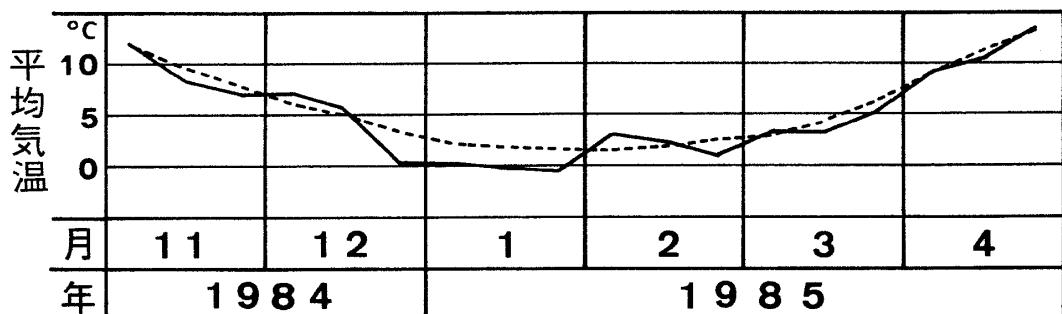


図1 高田の気温変化図

(この図は新潟地方気象台発行の「新潟県気象月報」により作成した。——は今
(冬の各月の各旬平均気温、………は平年の各月の各旬平均気温を示した。)

表1 新潟地方気象台から発令された大雪警報
(この表は付表および新潟地方気象台発行の)
(新潟県気象月報にもとづいて作成した)

| 番号 | 発令期間(年月日, 時分) |
|----|-----------------------------|
| 1 | 1984年12月22日16時00分～24日17時00分 |
| 2 | 〃 12月25日10時00分～26日11時10分 |
| 3 | 〃 12月28日10時30分～31日5時50分 |
| 4 | 1985年1月5日11時40分～7日15時30分 |
| 5 | 〃 1月12日22時10分～15日6時00分 |
| 6 | 〃 1月15日16時00分～17日6時50分 |
| 7 | 〃 1月25日12時50分～26日5時50分 |
| 8 | 〃 1月29日10時20分～31日5時50分 |

3. 調査期間および調査方法

調査期間は、昭和59年11月25日から昭和60年5月31日とした。

調査の方法は、地方新聞「新潟日報」に掲載された雪害記事を中心に収集したが、全国紙の「朝日・毎日新聞」の地方版と全国版からも新潟県および全国の雪害記事を収集した。また、長野県の雪害については、長野県生活環境部消防防災課および長野県警察本部交通部交通企画課の資料から収集した。

国鉄の運転規制については、国鉄新潟鉄道管理局総務部文書課および国鉄長野鉄道管理局総務部文書課の資料から収集した。

雪崩災害と土砂崩れ災害については現地調査(8.災害現地調査を参照)も実施した。

4. 調査結果

新聞から収集した資料を、1984～1985年冬期の積雪に伴う記事一覧として、巻末に付表として示した。付表は新聞から得た積雪地域の雪害や行政機関等の処置や対応などを発生日順に整理して、記事の内容が簡単にわかるよう事項欄に、その記事で取り扱われている事を表示した。事項欄にその他で示してあるのは、主として行政機関の処置や対応(例えば、予算措置、豪雪対策本部の設置など)と特殊な雪害である。

これらの雪害発生地の概略的な位置を見るために、新潟県と長野県の地形図に、雪害のうち特に雪崩、死者、地すべりや土砂崩れ等の発生地を、それぞれ記号を用いて図2および図3に示した。

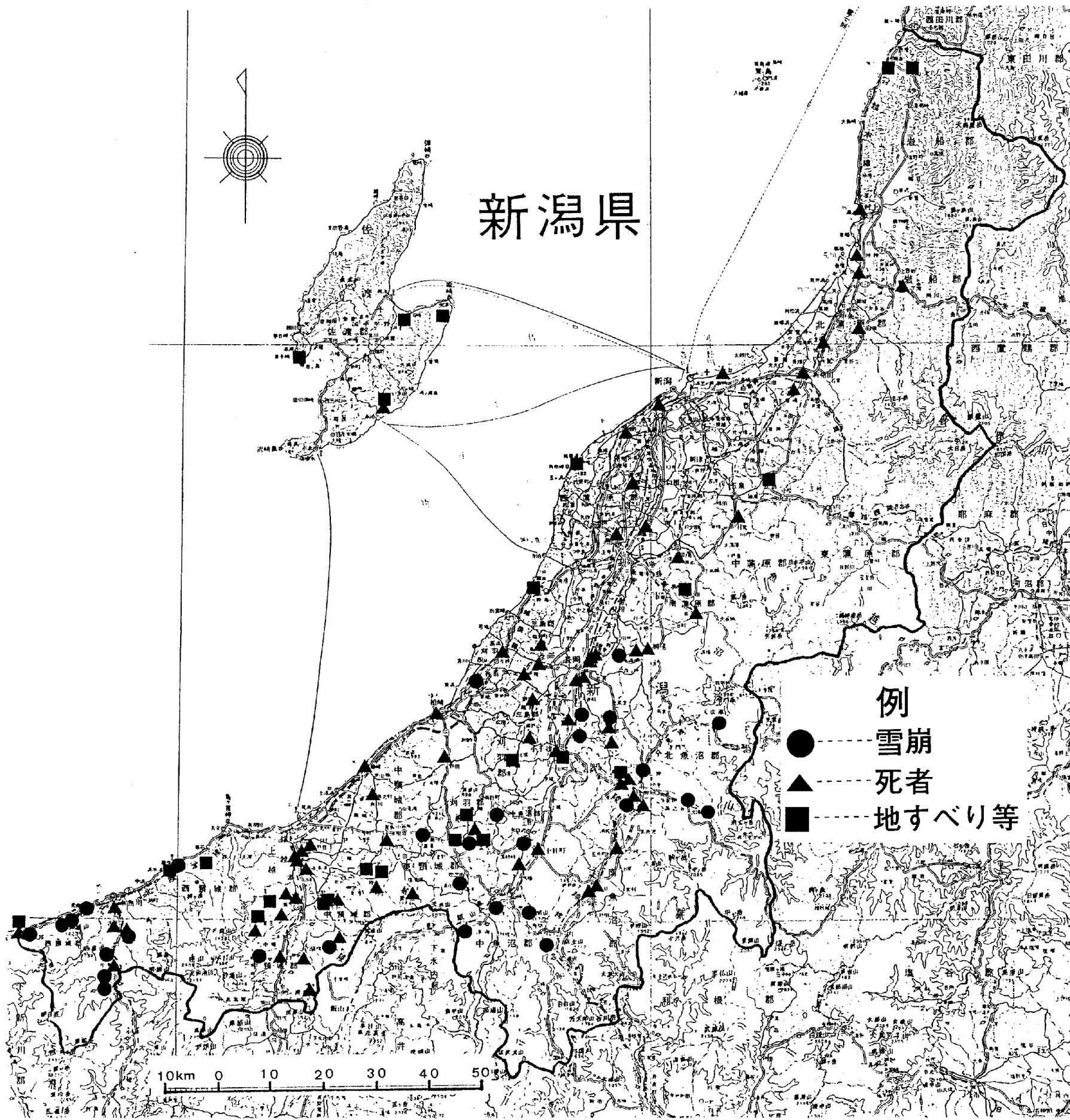


図2 新潟県の雪害発生位置図
(この図の●, ▲, ■は付表にもとづいて示した)

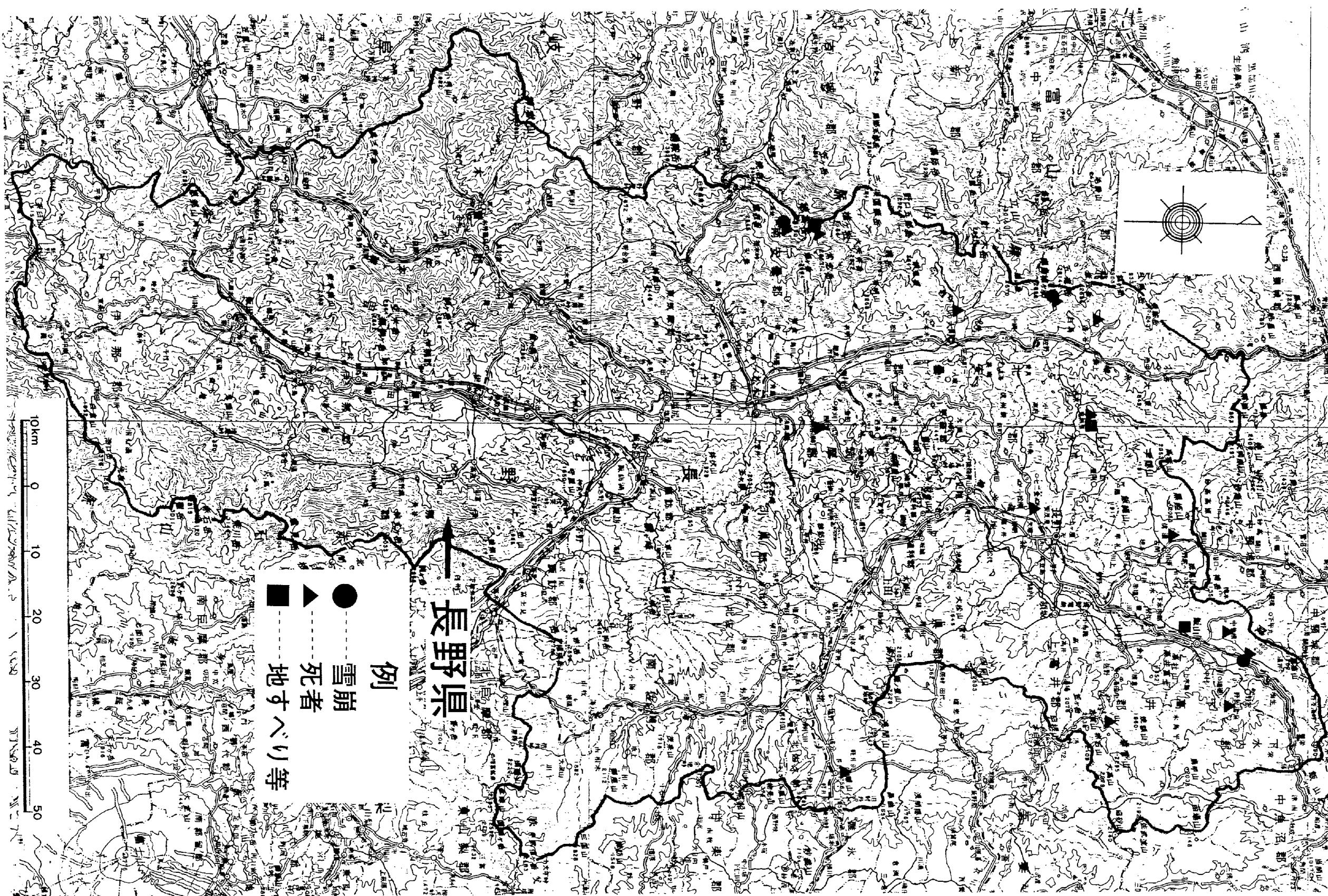


図3 長野県の雪害発生位置図

(この図の●、▲、■は表5、6、7および付表にもとづいて示した)

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

| 被 告 の 種 別 | 件 数 | 死 者 | 負傷者 |
|---------------------|-------|-----|-----|
| 雪崩 | 39(9) | 3 | 5 |
| 雪下ろし中に転落 | 32 | 14 | 19 |
| 雪が滑落して下敷 | 18 | 12 | 9 |
| 積雪の重みで建物が倒壊・下敷 | 3 | 0 | 10 |
| 除雪中に雪が崩落して下敷・埋没 | 5 | 5 | 0 |
| 川・流雪溝に転落 | 11 | 8 | 3 |
| 除雪車・除雪機械 | 9 | 5 | 5 |
| 歩 行 者 | 7 | 3 | 4 |
| 圧雪・凍結・スリップ衝突 | 32 | 6 | 62 |
| 吹雪・視程悪化 | 2 | 0 | 2 |
| 踏切で立ち往生・列車にひかれる | 17 | 2 | 5 |
| 車が雪に埋まり排ガス中毒等 | 3 | 3 | 0 |
| そり遊び・スキーヤー | 4 | 1 | 3 |
| 飲酒による川・流雪溝転落・道路に寝込む | 7 | 6 | 1 |
| 屋根・雨樋・煙突等の修理中に転落 | 3 | 3 | 0 |
| 火 災 | 12(1) | 1 | 0 |
| 土砂崩れ・落石・地すべり | 29(6) | 12 | 7 |
| ガス爆発 | 2(1) | 0 | 1 |
| 合 計 | 170 | 84 | 143 |

表2 雪による原因別死者・負傷者数(人)(新潟県)

(この表は付表を集計して作成した)
()内はそのうち死傷者を伴った
件数を示した。)

表3 雪崩・洪水・地すべりの危険による避難勧告

(この表は付表にもとづいて作成した)

| 勧 告 日 時 | 市町村名 | 世帯 | 人數 | 勧 告 の 背 景 |
|---------------------|---------|----|-----|---|
| 1984. 12. 28. 10:30 | 東頸城郡松代町 | 1 | 4 | 雪庇が増大し、雪崩発生の危険が生じた。 (雪庇を処理して30日に解除された。) |
| 1985. 2. 10. 12:50 | 東頸城郡牧村 | 36 | | 飯田川が融雪水による増水で警戒水位を超えたため。 (17時に解除された。) |
| 1985. 2. 15. 19:15 | 西頸城郡青海町 | 11 | 48 | 二次災害のおそれがあるため。 (4月20日 64日ぶりに解除された。) |
| 1985. 2. 19. 22:15 | 西頸城郡青海町 | 51 | 194 | 地すべり警報機が鳴り、二基の伸縮計が異常を記録したため。 (20日 6時50分に解除された。) |
| 1985. 4. 7 | 新井市長沢 | 1 | 4 | 地すべり巡視員が地すべりが発生しているのを発見、その後亀裂が広がっているため現地対策本部を設置した。 (30日17時に解除された。) |
| 1985. 4. 10 | 長岡市濁沢 | 4 | 8 | 裏山に地割れがあるのを近くの人が発見、その後広がっているため現地対策本部を設置した。 (12日12時に解除された。) |
| 1985. 4. 15. 16:00 | 中頸城郡板倉町 | 5 | 15 | 砂利採取場隣りの山に亀裂が入っているのを作業員が発見。調査の結果、滑落の恐れがあることが判明したため、現地に地すべり対策本部を設置した。 (5月29日17時に解除された。) |

5. 新潟県の雪害

5.1 調査結果

調査結果は前述の付表と同一である。

5.2 人的被害

人的被害は、調査結果の付表から家屋周辺、道路、鉄道、工事現場などで、降・積雪や雪崩、土砂崩れ等によって人が死傷したものを、原因別死者・負傷者数(人)に集計して表2に、また、雪崩、洪水、地すべり等の危険のために出された避難勧告を表3にまとめて示した。雪崩の遭遇(埋没)者は、死傷者を含めて22人であったが、14名が無事であった。また、土砂崩れ、落石、地すべりの遭遇(埋没)者は、死傷者を含めて25人であったが、6人が無事であった。

表4 雪による建物等の被害(新潟県)

(この表は付表にもとづいて作成した)

| 被 告 の 種 別 と 程 度 | | | 件・棟・台数・箇所 |
|-------------------|-----|---------|-----------|
| 屋根の雪の重みで倒壊 | 住 家 | 半・一部損壊 | 5 |
| | 非住家 | 倒(全)壊 | 15 |
| | | 半・一部損壊 | 4 |
| | | 車 損 壊 | 14 |
| 雪 崩 | 住 家 | 半・一部損壊 | 1 |
| | 非住家 | 倒(全)壊 | 1 |
| | | 半・一部損壊 | 1 |
| | | 車 損 壊 | 8 |
| 浸 水 | | 避 難 勧 告 | 1 |
| | | 避 難 世 帯 | 1 |
| | | 交 通 止 め | 34 |
| | 住 家 | 床 上 | 52 |
| 地 す べ り れ 砂 崩 落 石 | | 床 下 | 24 |
| | 非住家 | 床 上 | 2 |
| | | 床 下 | 2 |
| | | 車 水 没 | 5 |
| 火 灾 | | 避 難 勧 告 | 1 |
| | | 避 難 世 帯 | 36 |
| | | 交 通 止 め | 20 |
| | 住 家 | 倒(全)壊 | 5 |
| | | 半・一部損壊 | 5 |
| | 非住家 | 倒(全)壊 | 9 |
| | | 避 難 勧 告 | 6 |
| | | 避 難 世 帯 | 73 |
| | | 交 通 止 め | 20 |
| | | 全 燃 | 20 |
| | | 半・一部焼失 | 5 |
| ガス爆発 | | | 2 |
| 上水道の断水(半日から数日) | | | 3,000 |
| 停 電 (30分から1時間30分) | | | 85,358 |
| 電話不通 | | | 2,430 |

5.3 建物・施設の雪害

建物、施設の雪害は、付表から降・積雪や雪崩による家屋、工場、車庫、車、施設などの物損および停電、電話の不通、浸水、火災、土砂崩れ、落石、地すべり等の雪害を集計して表4に示した。表4の火災は、降・積雪が原因となって、出火、消防活動が阻害され被害の重大化したものと土砂崩れに伴う出火のみで、他の火災は扱っていない。また、停電は雪崩による送電鉄塔の倒壊と雪による事故のものである。

6. 長野県の雪害

6.1 調査結果

長野県生活環境部消防防災課および長野県警察本部交通部交通企画課で収集した雪害の資料を、表5、表6、表7に示した。表5は、除雪および屋根の雪下ろし作業中に死傷したものをまとめて示した。表6は、道路の圧雪、凍結などによる車のスリップ(滑走)事故をまとめて示した。表7は、建物、施設の雪害をまとめて示した。

6.2 人的被害

人的被害は、調査結果の表6、表7および付表から、家屋周辺、道路、スキー場、山岳などで、降・積雪や雪崩、スリップ事故等によって、人が死傷したものを、原因別死者・負傷者数(人)に集計して表8にまとめて示した。雪崩の遭遇(埋没)者は、死傷者を含めて35人であったが、10名が無事であった。また、行方不明者は死者として扱った。

圧雪、凍結、スリップ衝突欄には、1月28日犀川のダム湖バス転落事故による死傷者を含めて示した。

6.3 建物・施設の雪害

建物、施設の雪害は、表7および付表から降・積雪や雪崩によって、住家、非住家、公共施設などの物損、浸水、土砂崩れ、地すべり等の雪害を集計して表9に示した。

土砂崩れ、地すべりの発生で2件の避難勧告が出され、このうち1件の地すべりで民家8戸が一時孤立した。

表5 1984～1985年冬期の除雪・屋根の雪下ろし作業中の人的被害(長野県)
(この表は長野県雪害対策本部資料にもとづいて作成した)

| 発生年月日 | 場所 | 被災の内容 | | |
|--------------|-----------|-----------------|-------------|--------|
| 1984. 12. 28 | 下高井郡野沢温泉村 | 屋根の雪下ろし中転落 | 足首骨折の重傷 | 男性 38才 |
| 12. 29 | " " | " | 肩脱臼の重傷 | " 32才 |
| 12. 29 | 下水内郡栄村 | " | 肋骨骨折の重傷 | " 43才 |
| 12. 29 | 飯山市柳原大川 | 除雪機に足をはさまれる | 不明 軽傷 | " 不明 |
| 12. 30 | 下水内郡栄村 | 屋根の雪落とし中落雪の下敷 | 不明 軽傷 | 女性 57才 |
| 12. 30 | 飯山市豊田 | 除雪機に指をはまれ切断 | 指切断の重傷 | 男性 57才 |
| 1985. 1. 1 | 北安曇郡白馬村 | 屋根の雪下ろし中転落 | 腰椎骨折の重傷 | 女性 44才 |
| 1. 3 | 上水内郡信濃町 | " | 第一腰椎圧迫骨折の重傷 | 男性 39才 |
| 1. 4 | 北安曇郡白馬村 | " | 右腕骨折の重傷 | " 59才 |
| 1. 5 | 下水内郡栄村 | 除雪機で指負傷 | 軽傷 | " 29才 |
| 1. 6 | 下高井郡野沢温泉村 | 屋根の雪下ろし中融雪池に転落 | 死亡 | " 65才 |
| 1. 7 | 下水内郡豊田村 | 屋根の雪下ろし中転落 | 腰打撲の軽傷 | " 62才 |
| 1. 7 | " " | " | 腰打撲の重傷 | " 62才 |
| 1. 7 | " 栄村 | 除雪機で指負傷 | 重傷 | " 51才 |
| 1. 7 | 上水内郡信濃町 | 道路の除雪作業中転倒 | 肋骨骨折の重傷 | " 53才 |
| 1. 10 | 下高井郡木島平村 | 屋根の雪下ろし中転落 | " " | " 65才 |
| 1. 10 | 上水内郡信濃町 | 屋根の雪下ろし中はしごから転落 | 手, 足首骨折の重傷 | " 52才 |
| 1. 11 | 下高井郡木島平村 | 屋根の雪下ろし中転落 | 両足かかと骨折の重傷 | " 57才 |
| 1. 11 | " 野沢温泉村 | 除雪作業中川に転落 | 鎖骨骨折の重傷 | " 60才 |
| 1. 13 | " 木島平村 | 屋根の雪下ろし中転落 | 頸椎捻挫の重傷 | " 36才 |
| 1. 15 | 上水内郡信濃町 | " | 足首複雑骨折の重傷 | " 57才 |
| 1. 15 | 飯山市常盤下水沢 | " | 腰部打撲の重傷 | " 37才 |
| 1. 17 | 中野市田麦 | " | 腰椎圧迫骨折の重傷 | " 49才 |
| 1. 17 | 北安曇郡白馬村 | " | つちふまずひびの重傷 | " 69才 |
| 1. 20 | " " | " | 腸管破裂の重傷 | " 50才 |
| 1. 21 | 中野市小田中 | 除雪中に屋根の雪が落下して下敷 | 足打撲の重傷 | " 59才 |
| 1. 22 | 下高井郡山ノ内町 | 屋根の雪下ろし中転落 | 左足首骨折の重傷 | 女性 57才 |
| 1. 27 | 上水内郡信濃町 | " | 腰椎骨折の重傷 | 男性 61才 |
| 1. 28 | 下高井郡野沢温泉村 | " | 左手首骨折の重傷 | " 31才 |
| 1. 30 | 北安曇郡白馬村 | " | 肋骨にひびの重傷 | " 57才 |
| 2. 1 | 下高井郡野沢温泉村 | 屋根の雪下ろし中転倒 | 腰椎骨折の重傷 | " 28才 |
| 2. 2 | 北安曇郡白馬村 | 屋根の雪下ろし中転落 | 肋骨にひびの重傷 | " 52才 |
| 2. 3 | 中野市笠原 | " | 膝骨折の重傷 | " 45才 |
| 2. 5 | 上水内郡信濃町 | 雪かたづけ中川に転落 | 死亡 | " 74才 |
| 2. 13 | " 鬼無里村 | 屋根の雪下ろし中転落 | 死亡 | " 72才 |
| 2. 16 | 飯山市常盤 | 除雪機に指をはまれ切断 | 重傷 | " 41才 |

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

表6 道路の圧雪・凍結などによる滑走(スリップ)事故発生状況(長野県)

(この表は長野県警察本部交通部交通企画課資料にもとづいて作成した)

| 発生年月日 | 場 所 | 人的被害(人) | |
|------------|--------------|---------|-----|
| | | 重 傷 | 軽 傷 |
| 1984.11.28 | 長野市大豆島 | 0 | 1 |
| 12.2 | 諏訪郡下諏訪町 | 1 | 1 |
| 12.2 | 下伊那郡浪合村治部坂 | 3 | 1 |
| 12.2 | 岡谷市川岸 | 0 | 1 |
| 12.2 | 上伊那郡辰野町 | 0 | 0 |
| 12.2 | 岡谷市川岸 | 0 | 0 |
| 12.2 | 上伊那郡辰野平出 | 0 | 0 |
| 12.5 | 塩尻市上西条 | 0 | 1 |
| 12.16 | 諏訪市渋崎 | 0 | 1 |
| 12.16 | 伊那市西春近 | 0 | 2 |
| 12.16 | 諏訪郡富士見町落合 | 0 | 0 |
| 12.16 | 諏訪郡富士見町境 | 0 | 0 |
| 12.19 | 北佐久郡御代田町草越 | 0 | 2 |
| 12.19 | 南佐久郡八千穂村畠 | 0 | 1 |
| 12.19 | 松本市三又山町本郷山 | 1 | 0 |
| 12.22 | 木曽郡王滝村 | 0 | 1 |
| 12.23 | 更級郡大岡村中牧 | 1 | 0 |
| 12.23 | 上高井郡小布施町雁田切通 | 0 | 3 |
| 12.24 | 小県郡長門町大門 | 0 | 1 |
| 12.24 | 上伊那郡辰野町伊那富 | 0 | 2 |
| 12.25 | 木曽郡楳川村 | 1 | 2 |
| 12.26 | 小県郡長門町大門 | 0 | 1 |
| 12.26 | 長野市稻葉 | 1 | 0 |
| 12.28 | 南安曇郡三郷村明盛 | 0 | 1 |
| 12.28 | 長野市西尾張部 | 0 | 1 |
| 12.28 | 須坂市豊丘 | 0 | 1 |
| 12.29 | 木曽郡楳川村平沢 | 0 | 1 |

表6 道路の圧雪・凍結などによる滑走(スリップ)事故発生状況(長野県)

| 発生年月日 | 場 所 | 人的被害(人) | |
|------------|-------------|---------|-----|
| | | 重 傷 | 軽 傷 |
| 1984.12.29 | 塩尻市柿沢 | 0 | 1 |
| 12.29 | 諏訪市杉菜池 | 1 | 0 |
| 12.30 | 木曽郡木祖村菅 | 0 | 4 |
| 12.30 | 塩尻市桟敷 | 0 | 1 |
| 12.30 | 松本市 | 0 | 2 |
| 12.30 | 松本市清水 | 1 | 0 |
| 12.30 | 南安曇郡豊科町田沢 | 0 | 2 |
| 12.31 | 長野市安茂里 | 1 | 0 |
| 1985.1.1 | 茅野市北山 | 0 | 1 |
| 1.2 | 北佐久郡軽井沢町長倉 | 0 | 1 |
| 1.3 | 下伊那郡浪合村 | 0 | 1 |
| 1.3 | 飯山市川路 | 0 | 1 |
| 1.3 | 下伊那郡阿智村 | 0 | 0 |
| 1.3 | 飯田市山本 | 0 | 0 |
| 1.3 | 中野市壁田 | 0 | 1 |
| 1.4 | 南佐久郡南牧村海尻 | 0 | 1 |
| 1.5 | 上水内郡信州新町日原西 | 0 | 3 |
| 1.10 | 諏訪市上諏訪 | 0 | 4 |
| 1.11 | 大町市平 | 0 | 3 |
| 1.11 | 上伊那郡飯島町本郷 | 0 | 1 |
| 1.13 | 岡谷市湊 | 0 | 2 |
| 1.16 | 木曽郡大桑村 | 0 | 1 |
| 1.16 | 茅野市宮川 | 0 | 1 |
| 1.16 | 下伊那郡松川町 | 0 | 0 |
| 1.16 | 須坂市坂田 | 0 | 1 |
| 1.19 | 須坂市野辺 | 0 | 1 |
| 1.20 | 諏訪郡原村 | 0 | 1 |
| 1.20 | 諏訪郡原村 | 0 | 0 |

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

表6 道路の圧雪・凍結などによる滑走(スリップ)事故発生状況(長野県)

| 発生年月日 | 場 所 | 人的被害(人) | |
|-------------|------------|---------|-----|
| | | 重 傷 | 軽 傷 |
| 1985. 1. 20 | 茅野市宮川 | 0 | 0 |
| 1. 20 | 諏訪郡富士見町込事 | 0 | 0 |
| 1. 20 | 小諸市和田 | 1 | 1 |
| 1. 20 | 北佐久郡御代田町 | 0 | 1 |
| 1. 24 | 松本市豊丘 | 0 | 1 |
| 1. 24 | 南安曇郡豊科町南穂高 | 1 | 0 |
| 1. 25 | 南安曇郡穂高町 | 0 | 1 |
| 1. 25 | 長野市川中島原 | 0 | 1 |
| 1. 28 | 長野市稻里 | 1 | 0 |
| 1. 29 | 長野市篠ノ井 | 0 | 1 |
| 1. 29 | 松本市入山辺 | 0 | 2 |
| 1. 29 | 松本市寿豊岡 | 0 | 1 |
| 1. 29 | 松本市元町 | 0 | 1 |
| 1. 29 | 諏訪市諏訪 1 丁目 | 1 | 0 |
| 2. 2 | 茅野市北山 | 1 | 1 |
| 2. 9 | 茅野市金沢 | 0 | 0 |
| 2. 10 | 佐久市内山 | 1 | 0 |
| 2. 14 | 上伊那郡辰野町小野 | 0 | 1 |
| 2. 14 | 上水内郡豊野町石 | 0 | 1 |
| 2. 14 | 上水内郡戸隠村 | 0 | 1 |
| 2. 17 | 長野市青木島 | 0 | 1 |
| 2. 19 | 茅野市金沢 | 0 | 0 |
| 2. 19 | 松本市三方山 | 0 | 1 |
| 2. 19 | 南安曇郡梓川村 | 0 | 1 |
| 2. 22 | 下伊那郡阿智村駒場 | 0 | 4 |
| 2. 22 | 長野市三輪 4 丁目 | 0 | 1 |
| 2. 22 | 長野市若里 | 0 | 1 |
| 2. 22 | 長野市徳間 | 0 | 1 |
| 2. 24 | 中野市竹原 | 0 | 1 |

表7 1984～1985年冬期の積雪に伴う建物・施設の被害(長野県)

(この表は長野県雪害対策本部資料にもとづいて作成した)

| 発生年月日 | 場所 | 被災の内容 |
|------------|-----------|---------------------------------|
| 1984.12.27 | 下水内郡栄村 | 屋根の雪の重みで住家の一部破損2棟 |
| 12.28 | " " | " 2棟 |
| 12.29 | " " | " 4棟 |
| 12.29 | 下高井郡木島平村 | 排雪により側溝があふれ住家1棟床下浸水 |
| 12.29 | 飯山市 | 雪の重みで畜舎1棟全壊肉用牛5頭圧死、土蔵1棟半壊 |
| 12.30 | 下水内郡栄村 | 雪の重みで非住家1棟全壊 |
| 12.31 | 飯山市 | 雪の重みでタバコハウス1棟全壊 |
| 12.31 | 下高井郡野沢温泉村 | 雪の重みで作業場1棟全壊 |
| 1985.1.2 | " " | 雪の重みで住家1棟一部破損 |
| 1.5 | " " | " 2棟 " |
| 1.6 | 下水内郡栄村 | " 1棟 " |
| 1.6 | 飯山市 | 雪の重みで非住家1棟全壊、非住家1棟半壊 |
| 1.7 | 下水内郡栄村 | 雪の重みで住家1棟破損 |
| 1.9 | 下高井郡野沢温泉村 | 雪の重みで小学校体育館破損(6,000千円)、製材工場1棟全壊 |
| 1.10 | 下水内郡栄村 | 雪の重みで非住家1棟半壊 |
| 1.10 | 上水内郡信濃町 | 雪の重みで住家1棟半壊、物置1棟全壊 |
| 1.11 | 飯山市 | 雪の重みで高校渡り廊下破損(2,180千円) |
| 2.10 | 飯山市 | 融雪水で住家1棟床上浸水 |
| 2.10 | 下高井郡木島平村 | 融雪水で農業用水路崩壊4ヶ所(25,000千円) |
| 2.10 | 下水内郡豊田村 | " " |
| 2.28 | 上水内郡信濃町 | 落雪のため住家2棟一部破損、物置1棟半壊 |
| 4.4 | 飯山市 | 融雪のため農地・水路が損壊、道路が埋まった。 |
| 4.5 | 上水内郡信濃町 | 融雪のため農地1ヶ所、水路2ヶ所が土砂崩れで損壊した。 |

表8 雪による原因別死者・負傷者数(人)(長野県)

(この表は付表、表5、表6にもとづいて作成した)

| 被害の種別 | 件数 | 死者 | 負傷者 |
|--------------|-----|-------|-----|
| 雪崩(行方不明者) | 4 | 4(7) | 14 |
| 雪おろし中に転落 | 24 | 2 | 22 |
| 雪が滑落して下敷 | 2 | 0 | 2 |
| 除雪中に転倒 | 2 | 0 | 2 |
| 川・流雪溝に転落 | 2 | 1 | 1 |
| 除雪車・除雪機 | 6 | 1 | 5 |
| 圧雪、凍結、スリップ衝突 | 87 | 29 | 110 |
| スキー、ソリ遊び | 3 | 2 | 2 |
| 合計 | 130 | 39(7) | 158 |

7. 鉄道の雪害

7.1 調査結果

付表の列車運転規制の解説として、国鉄新潟鉄道管理局で実施している雪害時の列車運転規制標準を表10に示した。また、国鉄新潟鉄道管理局総務部広報課、糸魚川駅駅長事務室

昭和59~60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

| 被害の種別と程度 | | | 戸・棟・台数 |
|-------------|-------|-------|--------|
| 屋根の雪の重みで倒壊 | 住 家 | 一部損壊 | 1 6 |
| | 非住家 | 倒(全)壊 | 8 |
| | | 半 壊 | 5 |
| 浸 水 | 住 家 | 床 上 | 1 |
| | | 床 下 | 1 |
| 土砂崩れ・地すべり | 非住家全壊 | | 1 |
| | 車埋没 | | 3 |
| | 道路埋没 | | 3 |
| | 避難勧告 | | 9 |
| 融雪水のため用水路崩壊 | | | 8 |

表9 雪による建物等の被害
(長野県)
(この表は付表、表7にもとづいて作成した)

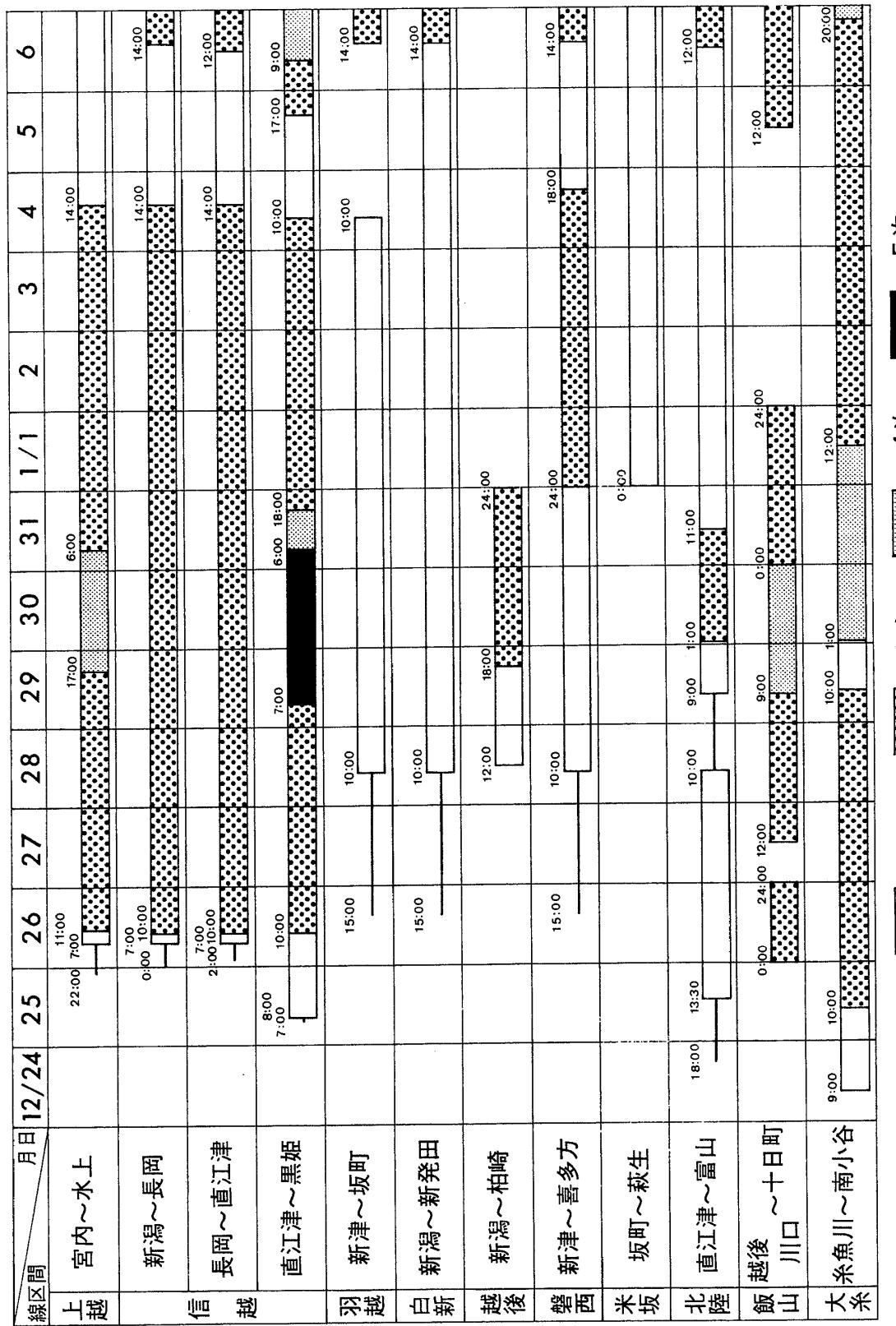
表10 雪害時の列車運転規制標準

(この表は国鉄新潟鉄道管理局の資料にもとづいて作成した)

| 区 分 | 気 象 条 件 | | | 規 制 の 概 要 | |
|-----|--|--|--|--|--------------|
| | 側雪 100 cm 未 満 | 側雪 100 cm 以 上 | 側雪 150 cm 以 上 | 運 休 | けん引定 数の割減 |
| 第1次 | 降雪量(1日) 20~40 cm (ユキ 1~3) | | | 貨物列車を10~20%運休し、排 雪用機関車及び同乗務員の捻出 と、ダイヤの混乱を防止する。 | 貨物列車 1 割 |
| 第2次 | 降雪量(1日) 40~60 cm (ユキ 2~3) 又は (吹雪の場合) | 降雪量(1日) 20~40 cm (ユキ 1~3) | | 旅客列車0~20% 貨物列車20~40% 運休する。 | 貨物列車 2 割 |
| 第3次 | 降雪量(1日) 60~80 cm (ユキ 4) | 降雪量(1日) 20~40 cm (ユキ 4) 又は (吹雪の場合) | 降雪量(1日) 20~40 cm (ユキ 4) 又は (吹雪の場合) | 旅客列車20~40% 貨物列車40~60% 運休する。 | 貨物列車 3 割 |
| 第4次 | 降雪量(1日) 80 cm以上 (ユキ 5~6) 又は (吹雪の場合) | 降雪量(1日) 60~80 cm (ユキ 5~6) 又は (吹雪の場合) | 降雪量(1日) 40~60 cm (ユキ 5~6) 又は (吹雪の場合) | 旅客列車 優等旅客列車及び中長距離列車 を大幅に運休し(40~60%)ロー カル輸送に移行する。 貨物列車60~80%運休する。 | 同 上 |
| 第5次 | | 降雪量(1日) 80 cm以上 (ユキ 7以上) 又は (吹雪の場合) | 降雪量(1日) 60 cm以上 (ユキ 7以上) 又は (吹雪の場合) | 旅客列車 区間運転の通勤、通学輸送を主 体とし、その他は全休する。 貨物列車 生活必需物資の緊急輸送のみと し、その他は全休する。 | 同 上 |

(国鉄金沢鉄道管理局管内)、国鉄長野鉄道管理局総務部文書課で収集した雪害時の列車運転規制状況および付表中の列車運転規制を整理して図4に示した。

付表から鉄道の雪害を発生した県別に集計して、雪害発生範囲および発生件数を記号(■は新幹線、●印は新幹線を除いた鉄道の雪害)で図5に示した。



例：——…1次 □…2次 ■…3次 ▨…4次 ▪…5次

図4 雪害時の列車運転規制状況

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

| 線区間 | 月日 | 1/7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|-------------------|----|-------|-------|-------|----|-------|-------|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 上越 宮内～水上 | | | | | | 18:00 | | | | 20:00 | 23:00 | 17:00 | 13:00 | | |
| 新潟～長岡 | | 18:00 | 18:00 | | | | | | | 23:00 | 16:00 | | | 17:00 | 12:00 |
| 長岡～直江津 | | 18:00 | 18:00 | | | | | | | 20:00 | 23:00 | 16:00 | | 12:00 | |
| 直江津～黒姫 | | 19:30 | 18:00 | 18:00 | | | | | | 13:00 | 21:00 | 17:00 | 16:00 | 6:00 | 14:00 |
| 羽 新津～坂町 | | 18:00 | 18:00 | | | | | | | | 23:00 | | | | 16:00 |
| 白 新 越後 | | 18:00 | 18:00 | | | | | | | | 23:00 | | | | 10:00 |
| 新潟～新発田 | | | | | | | | | | | 23:00 | | | | 10:00 |
| 新津～柏崎 | | | | | | | | | | | 23:00 | | | | 16:00 |
| 磐西 新津～喜多方 | | 1:00 | 0:00 | | | 18:00 | 18:00 | | | | 21:00 | | | | 18:00 |
| 坂町～糸生 | | | | | | | | | | | 23:00 | | | | 16:00 |
| 只見 小出～只見 | | | | | | | | | | | | 8:00 | | | |
| 北陸 直江津～富山 | | | | | | | | | | | | 15:00 | | | |
| 飯 越後 川口～十日町 | | 0:00 | 24:00 | | | | | | | | | 9:00 | 10:00 | 12:00 | |
| 大糸 糸魚川～南小谷 | | | | | | | | | | | | 16:00 | | 12:00 | 6:00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 17:00 | |

図4 雪害時の列車運転規制状況

| 線区間 | 月日 | 1/21 | 2/2 | 2/3 | 2/4 | 2/5 | 2/6 | 2/7 | 2/8 | 2/9 | 2/10 | 2/11 | 2/12 | 2/13 |
|-----|----------|------|-----|-----|-----|---------------|-------|-------|-----|-------|--------------|---------------|------|-------|
| 信越 | 長岡～直江津 | | | | | 2:00 | | 13:00 | | | 8:00 5:00 | 12:00 | | |
| | 直江津～黒姫 | | | | | 2:00 16:00 | | | | 5:00 | 12:00 | | | |
| 羽越 | 新津～坂町 | | | | | | | | | | 4:00 | 12:00 | | |
| 白新 | 新潟～新発田 | | | | | | | | | | 13:00 | 12:00 | | |
| 米坂 | 坂町～萩生 | | | | | | | | | | 12:00 | | | |
| 只見 | 小出～只見 | | | | | | | | | | | | | |
| 北陸 | 直江津～富山 | | | | | 17:00 | 18:00 | | | | 9:00 | 9:00 12:00 | | |
| 飯山 | 越後川口～十日町 | | | | | | | | | 12:00 | | | 0:00 | 24:00 |
| 大糸 | 糸魚川～南小谷 | | | | | | | | | | 12:00 | | | |

図4 雪害時の列車運転規制状況

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

| 線区間 | 月日 | 2/4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 15 | 16 | 23 | 24 | 25 |
|--------------------|----|-------|---|-------|---|-------|---|----|----|-------|-------|-------|-------|----|---------------|
| 信越 直江津～黒姫 | | | | | | 12:00 | | | | | | | | | |
| 米坂 坂町～萩生 | | 10:00 | | | | | | | | | 12:00 | 18:00 | 12:00 | | 18:00 |
| 只見 小出～只見 | | | | | | | | | | 12:00 | | | | | |
| 北陸 直江津～富山 | | 14:00 | | 14:00 | | | | | | | | | | | |
| 飯山 越後～十日町 川口 | | 0:00 | | | | 24:00 | | | | | | | | | |
| 大糸 糸魚川～南小谷 | | 14:00 | | | | 17:00 | | | | | 17:00 | | | | 3/13 17:00 |

図4 雪害時の列車運転規制状況

(この図は付表、国鉄新潟鉄道管理局総務部文書課、国鉄長野鉄道管理局総務部文書課、糸魚川駅駅長事務室(国鉄金沢鉄道管理局管内)の資料にもとづいて作成した。)

表11 場所別死者・負傷者数(鉄道)

(この表は付表にもとづいて作成した)

| 場所 | 件数 | 死者 | 負傷者 |
|----------|--------|-----|------|
| 踏切(新潟県) | 19(17) | (2) | (5) |
| 列車 | 3 | 0 | 37 |
| 駅構内(新潟県) | 1(1) | 0 | 1(1) |

7.2 人的被害

鉄道の人的被害については、付表から降・積雪によって、駅構内、列車、踏切などで人が死傷したものを、場所別死者・負傷者数(人)に集計して表11に示した。踏切と駅構内の死傷者には新潟県の死者2人、負傷者5人が含まれている。

7.3 鉄道の雪害

付表から降・積雪や雪崩によって、列車の運行阻害、列車運行施設の機能低下、施設の損壊、踏切事故などの雪害を集計して表12に示した。

新幹線の列車遅延は、新聞記事としては少ないが広範囲の多くの人に影響を与えている。

| 被害の種別 | 件数 |
|---------------|----|
| 雪崩 | 8 |
| 踏切 | 18 |
| 吹きだまり、大雪で立ち往生 | 18 |
| 新幹線遅延 | 3 |
| 施設損壊 | 15 |
| その他 | 1 |

表12 鉄道の被害

(この表は付表にもとづいて作成した)

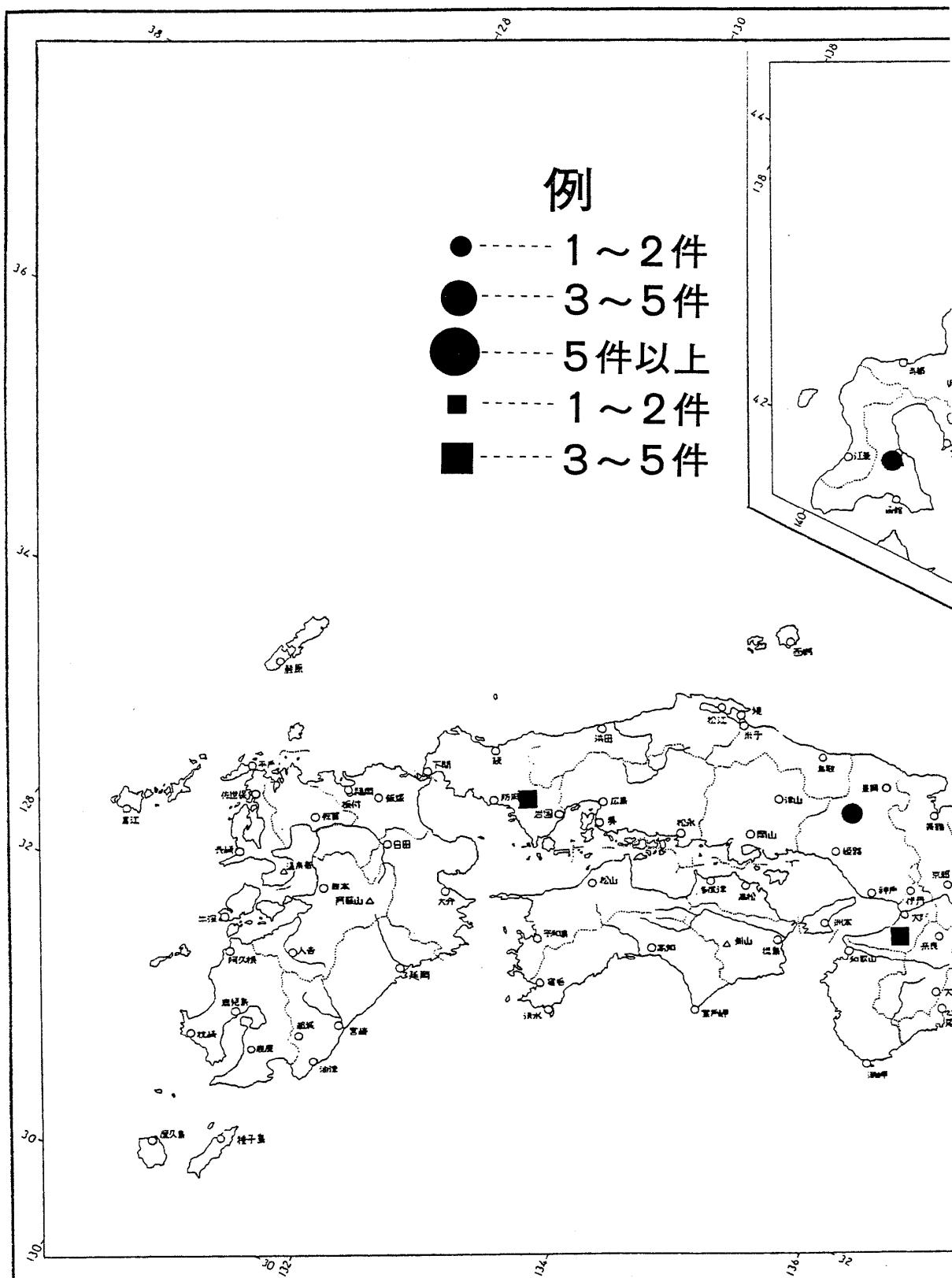
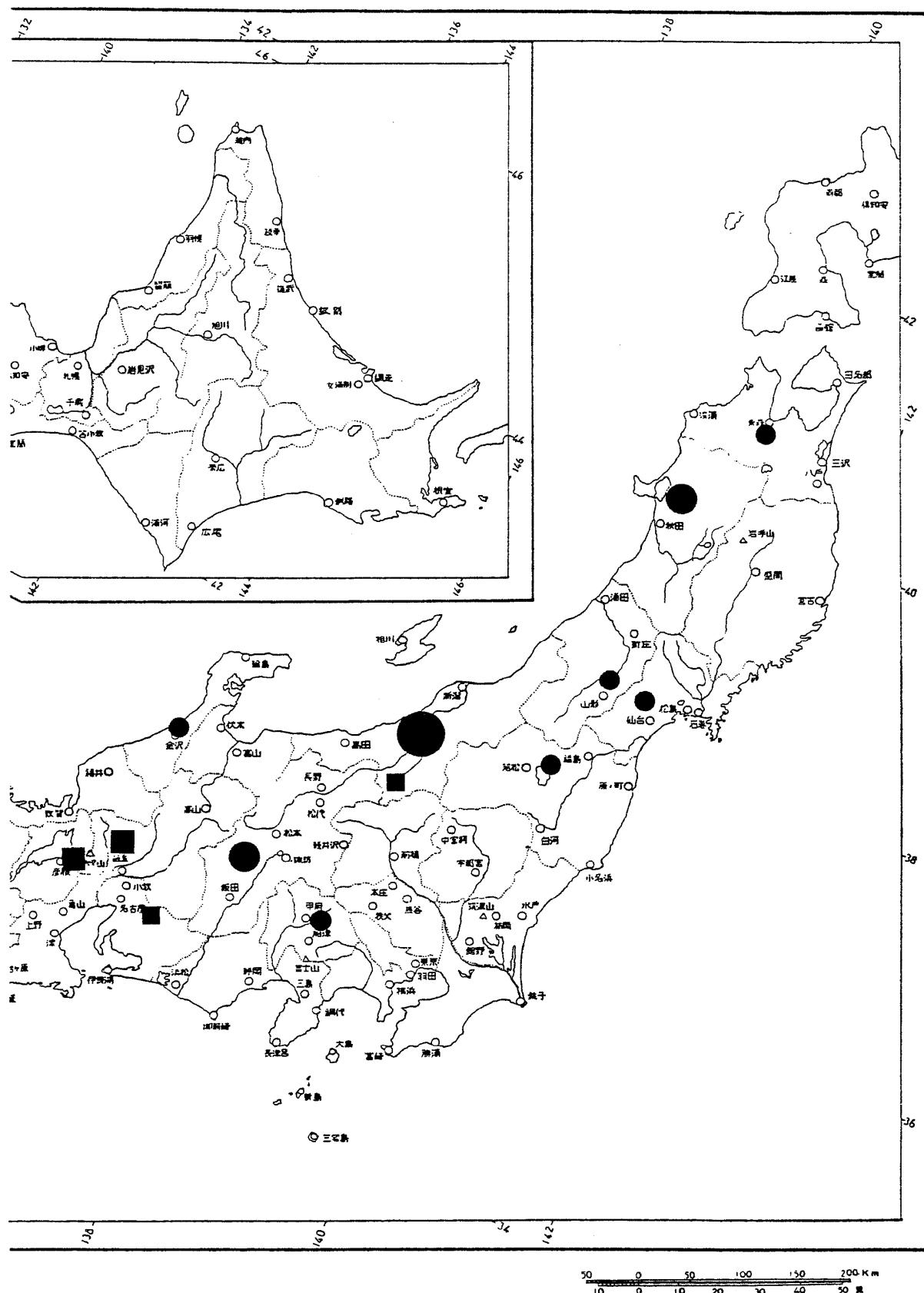


図5 鉄道の県別雪害発生件数

(図中の■は新幹線、●は新幹線を除いた鉄道の雪害を、付表にもとづいて示した。)

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐



8. 災害現地調査

8.1 現地調査

雪崩、土砂崩れ災害の現地調査および雪害資料収集の調査内容を表13に示した（調査結果は現在整理中）。

8.2 積雪断面観測

8.2.1 観測方法

積雪の断面観測の観測項目と測定位置を図6に示した。観測項目および方法は、観測順序

表13 現地調査および雪害資料収集

| 調査者 | 調査期間 | 調査内容 |
|-----------------------------------|--------------|--|
| 五十嵐 高志 山田 穢 | 60. 1. 6 | 長野県飯山市信濃平スキー場の雪崩災害 現地灾害対策本部で資料収集 積雪断面観測、ラム硬度測定、災害状況 |
| 大八木 規夫* 山田 穢 五十嵐 高志 林 与一 | 60. 2. 20～21 | 新潟県西頸城郡青海町玉の木地区土砂崩れ災害現地の地形、地質調査および積雪断面観測と積雪全層平均密度および積雪相当水量の観測 青海町役場および現地対策本部、糸魚川土木事務所で災害資料収集 建設省上越国道工事事務所で積雪および気象資料を収集 |
| 五十嵐 高志 林 与一 | 60. 3. 8 | 新潟県古志郡山古志村工事現場の雪崩災害 積雪断面観測、ラム硬度測定、災害状況 |
| 五十嵐 高志 林 与一 | 60. 3. 14 | 新潟県北魚沼郡小出町の雪崩災害 小出町役場開発課で資料収集 積雪断面観測、ラム硬度測定、災害状況 |
| 五十嵐 高志 | 60. 3. 26～27 | 長野県生活環境部消防防災課 長野県警察本部交通部交通企画課 国鉄長野鉄道管理局総務部文書課で雪害資料収集 |
| 五十嵐 高志 | 60. 6. 11 | 国鉄新潟鉄道管理局総務部広報課 雪害時列車運転規制資料収集 |

* 第3研究部地表変動防災研究室

に従って示すと、以下の通りである。

- (1) 雪温(T)：断面に沿って10cmごとに温度計のセンサーを、雪壁の中に水平に15~20cm差し込み、数分間おいて読みとる。
- (2) 雪質(F)：断面の凹凸を雪べらで削り、鉛直な平面に仕上げ、「積雪の分類名称(清水・1965)」に基づいて目視観測した。
- (3) 粒度(D)：ほぼ10cm間隔で測定したが、雪層に応じて測定した。
- (4) 硬度(R)：ほぼ10cm間隔で測定したが、雪層に応じて測定した。
- (5) 雪層の密度(G)：測定の間隔は10cmですべての雪層の密度(g/cm^3)を測定した。
- (6) 積雪相当水量(HW)：積雪の表面から地面までの積雪を、神室型スノーサンプラーで採雪して、採雪した雪の重量を測定してHW(mm)を求めた。また、採雪した雪の深さ、つまり積雪の深さから、積雪全層の平均密度(g/cm^3)を求めた。

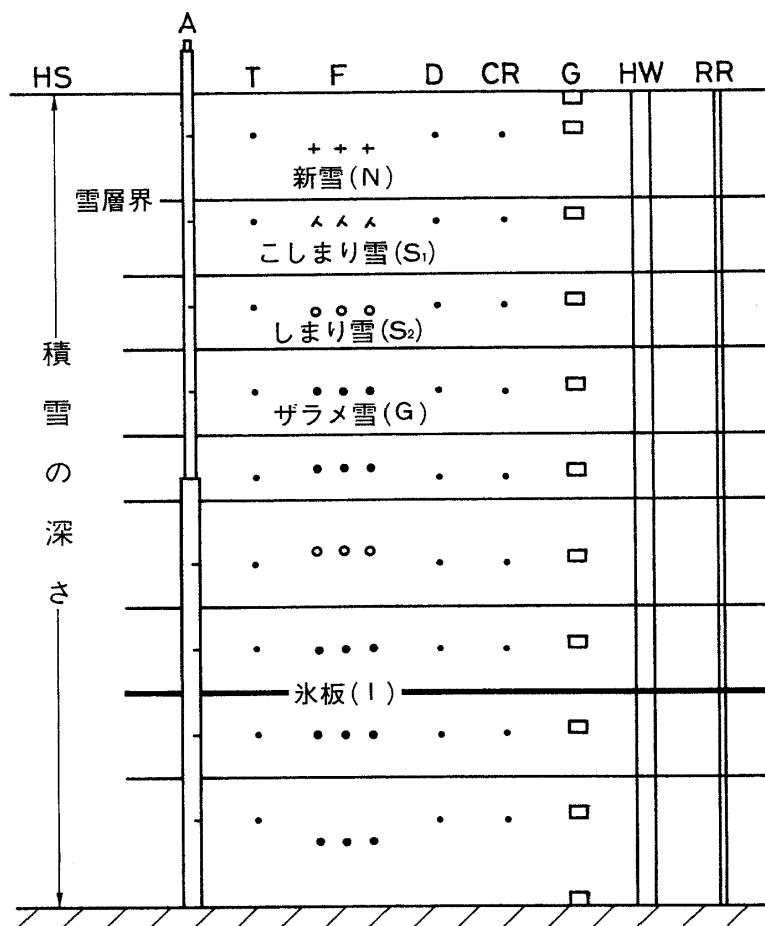


図6 積雪断面観測の順序、項目、位置

HS : 積雪の深さ (cm) D : 粒度 (本文 p.26 a. b. c. d) A : 雪尺 (cm)
 CR : 硬度 (カナディアンゲージ) (kgf/cm^2) T : 雪温 ($^{\circ}\text{C}$) G : 密度 (g/cm^3)
 F : 雪質 (図中の記号) HW : 積雪相当水量 (kg/m^2 , g/cm^2) RR : 硬度 (ラムゾールデ) (kg)

表14～17は、過去に報告された「長岡における積雪断面観測資料(1984～1985)、(五十嵐・1985)」の形式を用いた。

図7～10は、前述の「積雪観測法」に基づいて表示してある。

表14～17および図7～10で使った記号および符号をまとめて表示し、簡単な説明を付記しておく。

記号の説明

天気 …… 曇：○ 雪：＊ 雨：●

F—雪質 …… 新 雪：N および + + + こしまり雪：S₁ および × × ×

しまり雪：S₂ および ○ ○ ○ ざらめ雪：G および ● ● ●

水 板：I および i

D—粒度 …… a : 0.5 mmより小さい b : 0.5～1.0 mm

c : 1.0～2.0 mm d : 2.0～4.0 mm

e : 4.0 mmより大きい

T—雪温(°C) …… 図7～10では実線でつないだ黒丸

G—密度(g/cm³) …… 図7～10では縦の短い棒、それぞれの棒は密度の測定区間を表わし、測定場所は棒の下端である。

R—硬度(kgf/cm²) …… 図7～10では破線でつないだ白丸

H—位置(cm) …… 地面からの距離を表わす。雪質および雪粒の大きさは上限、下限の範囲を示した。

その他に図7～10の雪層境界は、水板のある場合とない場合を区別して、前者を細い——後者を太い—で表わした。

8.2.2 観測結果

雪崩、土砂崩れ災害地の積雪断面観測値を表14～17に、積雪断面観測図を図7～10に示した。

写真1および2に、新潟県北魚沼郡小出町青島(行山)の雪崩災害発生直後の現場写真を示した。そり(スノーボート)遊び中の小学生2名が崩れた雪と一緒に川へ転落、崩れた雪に埋まって胸部圧迫で死亡した。

9. おわりに

1984～1985年冬期の積雪に伴う雪害の実態をまとめた。本報告は、新聞を通して得た情報が中心となっているため、各分野の機関や担当者の資料とは異なる。

例えば今冬、新潟県内で発生した雪による国鉄の踏切事故は、今回調査した付表の新聞記事では15件となっているが、国鉄新潟鉄道管理局のまとめでは18件となっている。このように関係機関の調査結果と新聞記事から収集した結果には差が生じる。これは新聞の情報が、すべ

昭和59~60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

表14 積雪の断面観測値(長野県飯山市外様：信濃平スキー場)

| 60年1月6日 | | 積雪の深さ 308 cm | | 天 气 ＊ | | 気 温 -1.7 °C | | 観測時刻 13時20分~14時45分 | |
|-----------|----------------|-----------------|---------|-----------|----|----------------|-----------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 雪 質 | | 雪 温 | | 雪粒の大きさ | | 密 度 | | 硬 度 | |
| 位 置 cm | 名 称 | 位 置 cm | T °C | 位 置 cm | D | 位 置 cm | ρ g/cm ³ | 位 置 cm | R kgf/cm ² |
| 308~241 | N | 270 | -3.5 | 308~241 | c | 305~308 | 0.05 | 300 | 測定不能 |
| 241~235 | S ₁ | 260 | -3.9 | 241~235 | c | 300 | 0.05 | 290 | " |
| 235~191 | S ₁ | 250 | -3.8 | 235~191 | a | 290 | 0.06 | 280 | " |
| 191~176 | S ₂ | 240 | -3.7 | 191~176 | a | 280 | 0.06 | 270 | " |
| 176~175 | G | 230 | -3.6 | 176~175 | ab | 270 | 0.04 | 260 | 0.005 |
| 175~160 | S ₂ | 220 | -3.5 | 175~160 | a | 260 | 0.06 | 250 | 0.012 |
| 160~105 | S ₂ | 210 | -3.3 | 160~105 | a | 250 | 0.06 | 240 | 0.020 |
| 105~104 | G | 200 | -3.1 | 105~104 | ab | 240 | 0.08 | 230 | 0.025 |
| 104~47 | S ₂ | 190 | -2.9 | 104~47 | a | 230 | 0.09 | 220 | 0.045 |
| 47~46 | G | 180 | -2.6 | 47~46 | ab | 220 | 0.11 | 210 | 0.050 |
| 46~35 | S ₂ | 175(G) | -2.2 | 46~35 | a | 210 | 0.12 | 200 | 0.040 |
| 35~28 | G | 170 | -2.3 | 35~28 | c | 200 | 0.13 | 190 | 0.060 |
| 28~14 | S ₂ | 160 | -2.1 | 28~14 | a | 190 | 0.15 | 180 | 0.060 |
| 14~0 | G | 150 | -2.0 | 14~0 | cd | 180 | 0.14 | 170 | 0.080 |
| | | 140 | -1.9 | | | 170 | 0.16 | 160 | 0.100 |
| | | 130 | -1.9 | | | 160 | 0.17 | 150 | 0.150 |
| | | 120 | -1.8 | | | 150 | 0.17 | 140 | 0.200 |
| | | 110 | -1.7 | | | 140 | 0.19 | 130 | 0.300 |
| | | 100 | -1.5 | | | 130 | 0.21 | 120 | 0.350 |
| | | 90 | -1.4 | | | 120 | 0.23 | 110 | 0.350 |
| | | 80 | -1.2 | | | 110 | 0.28 | 100 | 1.000 |
| | | 70 | -1.1 | | | 100 | 0.28 | 90 | 1.200 |
| | | 60 | -0.9 | | | 90 | 0.32 | 80 | 1.200 |
| | | 50 | -0.8 | | | 80 | 0.31 | 70 | 0.200 |
| | | 40 | -0.6 | | | 70 | 0.24 | 60 | 0.100 |
| | | 30 | -0.4 | | | 60 | 0.19 | 50 | 0.200 |
| | | 20 | -0.3 | | | 50 | 0.19 | 40 | 0.100 |
| | | 10 | -0.1 | | | 40 | 0.27 | 30 | 0.200 |
| | | 0 | 0 | | | 30 | 0.21 | 20 | 0.800 |
| | | | | | | 20 | 0.27 | 10 | 1.400 |
| | | | | | | 10 | 0.33 | | |
| | | | | | | 0 | 0.37 | | |

スノーサンプラー

$$\text{雪重量} \div \text{断面積} \div \text{積雪深} = \text{積雪平均密度}$$

$$1085 \text{ g} \div 20 \text{ cm}^2 \div 308 \text{ cm} = 0.176 \text{ g/cm}^3$$

||

$$\text{積雪相当水量} 54.25 \text{ g/cm}^2$$

表15 積雪の断面観測値(新潟県古志郡山古志村虫亀)

| 60年3月13日 | | 積雪の深さ 217 cm | | 天 気 ◎ | | 気 温 °C | | 観測時刻 14時50分～15時55分 | |
|----------|------------------|-----------------|---------|----------|-----|-----------|-----------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 雪 質 | | 雪 温 | | 雪粒の大きさ | | 密 度 | | 硬 度 | |
| 位置 cm | 名称 | 位置 cm | T °C | 位置 cm | D | 位置 cm | ρ g/cm ³ | 位置 cm | R kgf/cm ² |
| 217～210 | G | 215 | 0.0 | 217～210 | ab | 214 | 0.300 | 215 | 0.010 |
| 210～200 | S ₁ G | 210 | 0.0 | 210～200 | ab | 210 | 0.260 | 210 | 0.060 |
| 200～192 | G | 200 | 0.0 | 200～175 | d | 200 | 0.390 | 200 | 0.060 |
| 192～175 | G | 190 | 0.0 | 175～160 | d | 190 | 0.350 | 190 | 0.140 |
| 175 | i | 180 | 0.0 | 160～144 | c | 180 | 0.400 | 180 | 0.300 |
| 175～160 | G | 170 | 0.0 | 144～127 | a～c | 170 | 0.360 | 170 | 0.500 |
| 160～144 | G | 160 | 0.0 | 127～121 | d | 160 | 0.360 | 160 | 0.300 |
| 144～140 | S ₂ | 150 | 0.0 | 121～102 | a～c | 150 | 0.410 | 150 | 0.500 |
| 140～137 | G | 140 | 0.0 | 102～99 | c | 140 | 0.480 | 140 | 0.500 |
| 137～134 | S ₂ | 130 | 0.0 | 99～77 | ab | 130 | 0.390 | 130 | 0.600 |
| 134～130 | G | 120 | 0.0 | 77～70 | d | 120 | 0.410 | 120 | 1.500 |
| 130～127 | S ₂ | 110 | 0.0 | 70～51 | a～c | 110 | 0.410 | 110 | 2.000 |
| 127～121 | G | 100 | 0.0 | 51～22 | a | 100 | 0.430 | 100 | 3.000 |
| 121～102 | S ₂ G | 90 | 0.0 | 22～21 | ab | 90 | 0.420 | 90 | 3.000 |
| 102～99 | G | 80 | 0.0 | 21～0 | a | 80 | 0.440 | 80 | 4.000 |
| 99～77 | S ₂ | 70 | 0.0 | | | 70 | 0.410 | 70 | 2.000 |
| 77～70 | G | 60 | 0.0 | | | 60 | 0.480 | 60 | 6.000 |
| 70～60 | S ₂ G | 50 | -0.1 | | | 50 | 0.430 | 50 | 5.000 |
| 60～58 | G | 40 | -0.2 | | | 40 | 0.450 | 40 | 8.000 |
| 58～53 | S ₂ | 30 | -0.3 | | | 30 | 0.450 | 30 | 8.000 |
| 53～51 | G | 20 | -0.3 | | | 20 | 0.460 | 20 | 8.000 |
| 51～22 | S ₂ | 10 | -0.3 | | | 10 | 0.470 | 10 | 10.000 |
| 22～21 | G | 0 | 0.0 | | | 0 | 0.490 | | |
| 21～0 | S ₂ | | | | | | | | |

スノーサンプラー

$$\begin{array}{l} \text{雪重量} \div \text{断面積} \div \text{積雪深} = \text{積雪平均密度} \\ \boxed{2000} \text{ g} \div \boxed{20} \text{ cm}^2 \div \boxed{223} \text{ cm} = \boxed{0.448} \text{ g/cm}^3 \\ \parallel \\ \text{積雪相当水量} \boxed{100.00} \text{ g/cm}^2 \end{array}$$

昭和59~60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

表 16 積雪の断面観測値(新潟県北魚沼郡小出町青島：行山)

| 60年3月14日 | | 積雪の深さ 202 cm | | 天 气 * 1.2 °C | | 観測時刻 11時00分~12時05分 | | | |
|-----------|------------------|-----------------|---------|------------------------------------|-------|-----------------------|-----------------|-----------|--------------|
| 雪 質 | | 雪 温 | | 雪粒の大きさ | | 密 度 | | 硬 度 | |
| 位置 cm | 名称 | 位 置 cm | T °C | 位 置 cm | D | 位 置 cm | ρ g/cm³ | 位 置 cm | R kgf/cm² |
| 202 ~ 196 | G | 200 | 0.0 | 202 ~ 196 | a ~ c | 198 | 0.290 | 200 | 0.700 |
| 196 ~ 178 | G | 190 | 0.0 | 196 ~ 178 | c | 190 | 0.370 | 190 | 0.120 |
| 178 ~ 172 | G | 180 | 0.0 | 178 ~ 172 | cd | 180 | 0.400 | 180 | 0.900 |
| 172 ~ 157 | G | 170 | 0.0 | 172 ~ 133 | cd | 170 | 0.330 | 170 | 0.400 |
| 157 ~ 153 | G | 160 | 0.0 | 133 ~ 121 | c | 160 | 0.380 | 160 | 0.300 |
| 153 ~ 142 | G | 150 | 0.0 | 121 ~ 102 | a ~ c | 150 | 0.380 | 150 | 0.500 |
| 142 ~ 133 | G | 140 | 0.0 | 102 ~ 95 | cd | 140 | 0.410 | 140 | 0.600 |
| 133 ~ 121 | G | 130 | 0.0 | 95 ~ 83 | a ~ c | 130 | 0.400 | 130 | 0.400 |
| 121 ~ 102 | S ₂ G | 120 | 0.0 | 83 ~ 79 | c | 120 | 0.420 | 120 | 1.000 |
| 102 ~ 95 | G | 110 | 0.0 | 79 ~ 53 | c | 110 | 0.390 | 110 | 2.000 |
| 95 ~ 90 | S ₂ G | 100 | 0.0 | 53 ~ 8 | a | 100 | 0.460 | 100 | 0.800 |
| 90 ~ 83 | S ₂ G | 90 | 0.0 | 8 ~ 0 | ab | 90 | 0.440 | 90 | 3.000 |
| 83 ~ 79 | G | 80 | 0.0 | | | 80 | 0.520 | 80 | 0.400 |
| 79 ~ 53 | G | 70 | 0.0 | | | 70 | 0.410 | 70 | 1.200 |
| 53 ~ 8 | S ₂ | 60 | 0.0 | | | 60 | 0.450 | 60 | 0.800 |
| 8 ~ 0 | G | 50 | -0.1 | | | 50 | 0.460 | 50 | 3.000 |
| | | 40 | -0.1 | | | 40 | 0.440 | 40 | 5.000 |
| | | 30 | -0.1 | | | 30 | 0.440 | 30 | 5.000 |
| | | 20 | 0.0 | | | 20 | 0.470 | 20 | 6.000 |
| | | 10 | 0.0 | | | 10 | 0.510 | 10 | 5.000 |

スノーサンプラー

$$\text{雪重量} \div \text{断面積} \div \text{積雪深} = \text{積雪平均密度}$$

$$1780 \text{ g} \div 20 \text{ cm}^2 \div 202 \text{ cm} = 0.441 \text{ g/cm}^3$$

||

$$\text{積雪相当水量} 89.00 \text{ g/cm}^2$$

表17 積雪の断面観測値(新潟県西頸城郡青海町玉ノ木)

| 60年2月20日 | | 積雪の深さ 60 cm | | 天 气 | | 気 温 °C | 観測時刻 13時20分～16時50分 | | |
|----------|----|----------------|---------|-----------|----|-----------|-----------------------------|-----------|--------------------------|
| 雪 質 | | 雪 温 | | 雪粒の大きさ | | 密 度 | 硬 度 | | |
| 位置 cm | 名称 | 位 置 cm | T °C | 位 置 cm | D | 位 置 cm | ρ g/cm ³ | 位 置 cm | R kgf/cm ² |
| 60～48 | G | 60 | 0.0 | 60～48 | c | 57 | 0.360 | 55 | 0.400 |
| 48～18 | G | 50 | 0.0 | 48～18 | cd | 50 | 0.450 | 45 | 0.300 |
| 18～0 | G | 40 | 0.0 | 18～0 | cd | 40 | 0.420 | 35 | 0.500 |
| | | 30 | 0.0 | | | 30 | 0.440 | 25 | 0.500 |
| | | 20 | 0.0 | | | 20 | 0.560 | | |
| | | 10 | 0.0 | | | | | | |

| 場 所 | 積雪の深さ cm | 雪 重 量 g | 積雪相当水量 kg/m ² | 積雪平均密度 g/cm ³ |
|-----------|-------------|------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 平 地 | 60 | 650 | 325 | 0.542 |
| 斜 面 直 下 | 53 | 440 | 220 | 0.415 |
| 斜 面 1/3 上 | 45 | 390 | 195 | 0.433 |
| 尾根の上 林の中 | 65 | 620 | 310 | 0.477 |
| 尾根の上 林の外 | 145 | 1,200 | 600 | 0.411 |

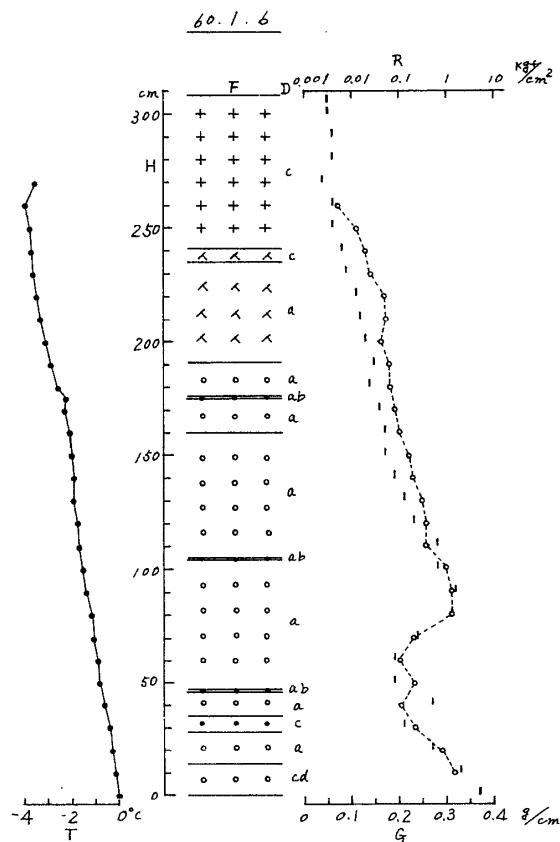


図7 積雪断面観測図(長野県飯山市外様：信濃平スキー場)

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

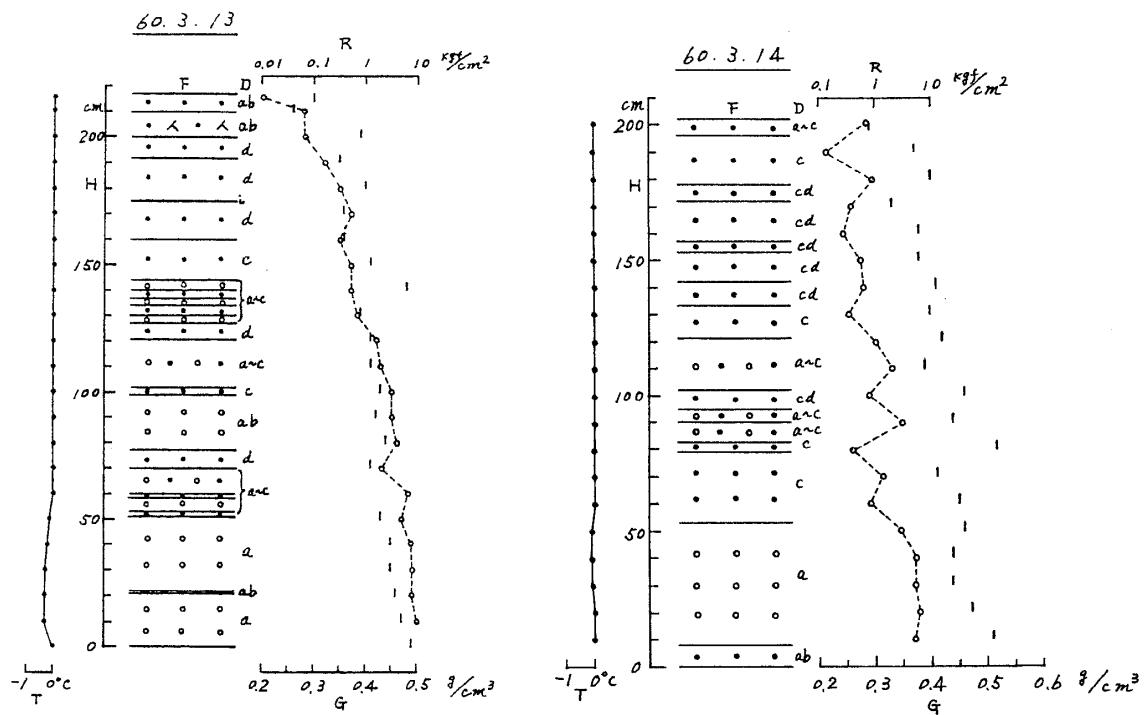


図8 積雪断面観測図
(新潟県古志郡山古志村虫亀)

図9 積雪断面観測図
(新潟県北魚沼郡小出町青島：行山)

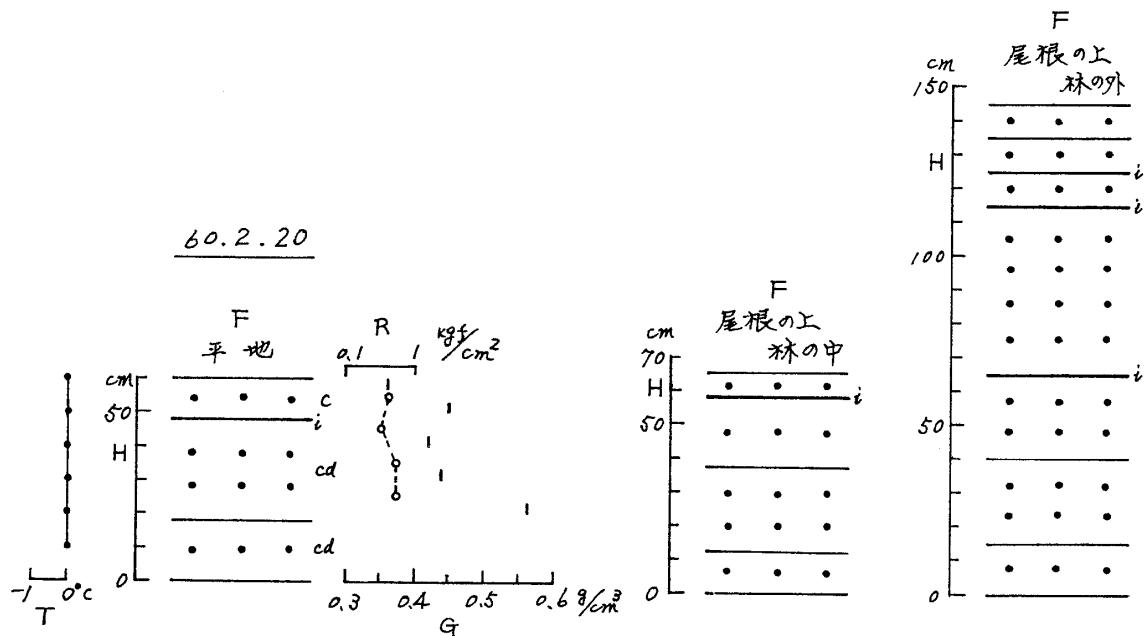


図10 積雪断面観測図(新潟県西頸城郡青海町玉ノ木)



写真1 雪崩災害現場



写真2 雪崩災害現場

写真1および2は災害発生直後の17時ごろ町役場の職員が撮影した。この現場、新潟県北魚沼郡小出町青島の行山で、昭和60年3月9日16時30分ごろ、小学生4人が勾配約35度の急斜面でそり遊び中、うち2人が崩れた雪と一緒に約4m下の大沢入川(幅約1m、水深20cm)に転落、崩れた雪の下敷となり、救出されたが胸部圧迫による窒息で間もなく2人とも死亡した。

ての雪害を記事として扱うのではなく、新聞社の取り扱うニュースの量や価値によって、情報が取捨選択された記事を掲載しているためである。

謝 辞

この資料の収集に当り、国鉄新潟鉄道管理局総務部文書課、糸魚川駅駅長事務室、国鉄長野鉄道管理局総務部文書課広報係、長野県生活環境部消防防災課、長野県警察本部交通部企画課、小出町役場総務課および開発課、財団法人 日本気象協会の御厚意により資料を提供していただき、心から御礼申し上げる。

また、本報をまとめるに当り、雪害実験研究所第1研究室、納口恭明研究員ならびに山田穣室長に有益な助言を頂いた。ここに感謝の意を表明する。

参考文献

- 1) 広部良輔・山田 穣・五十嵐高志(1978)：積雪に伴う災害の調査研究(1977～78年冬季)。国立防災科学技術センター研究速報、第32号、60pp.
- 2) 五十嵐高志(1984)：昭和58～59年冬期の新潟県の積雪に伴う被害。防災科学技術研究資料、第92号、32pp.

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

- 3) 五十嵐高志(1985)：長岡における積雪の断面観測資料(1984～1985). 防災科学技術研究資料, 第102号, 86 pp.
- 4) 気象庁編(1971)：地上気象観測法. 気象庁, 東京, 266 pp. 101～104, 141～157.
- 5) 日本気象協会(1984～1985)：天気図日記. 気象, No. 349～No. 354, p. 20～21 または 22～23 参照.
- 6) 日本雪氷学会(1967)：積雪の分類名称. 雪氷の研究, No. 4 (1970), 日本雪氷学会, 東京, 57 pp. 31～50.
- 7) 新潟地方気象台(1984～1985)：気象概況. 新潟県気象月報, 1984年11月～1985年4月, p. 1 参照.
- 8) 清水 弘(1965)：積雪観測法. 雪氷の研究, No. 4 (1970), 日本雪氷学会, 東京, 57 pp. 1～28.

(1985年7月12日 原稿受理)

付表

1984～1985年冬期の積雪に伴う被害の一覧

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|---------|------|--|
| 1984.11.27 | 東蒲原郡津川町 | スリップ | 19時半過ぎ、同町三郷の国道49号線で乗用車 ックがブレーキをかけたがスリップして衝突 |
| 12.16 | 三島郡越路町 | スリップ | 8時半ごろ、同町朝日地内の県道カーブで、 女性運転者の一人(49才)は右手親指骨折や胸、 た。 |
| 12.16 | 岩船郡関川村 | 凍死 | 夕方、農業用水路(幅4m, 水深25cm)の橋 |
| 12.22 | 西蒲原郡黒崎町 | 踏切 | 7時45分ごろ、同町山田の新潟交通電鉄、通 運転者は左の肋骨やあごの骨を折って重傷。 |
| 12.22 | 新潟県 | スリップ | 関越自動車道、北陸自動車道でスリップによ り初のスリップ注意報を発令した。(昨年は12 |
| 12.22 | 柏崎市 | スリップ | 19時頃、同市半田の北陸自動車道下り線で、 り、あわててハンドルを切ったため、トラッ た。男性(46才, 50才) |
| | | | このほかにも22日夜だけで10件、23日午後3 |
| 12.22 | 新潟県 | 警報 | 新潟地方気象台は、16時佐渡を除く全県下に |
| 12.23 | 岐阜県・滋賀県 | 積雪 | 東海道山陽新幹線は23日朝、岐阜県不破郡閔 羽島—米原駅間の一部区間を徐行運転した。 |
| 12.23 | 新潟県 | スリップ | 北陸自動車道では全線50km/hの速度制限 |
| 12.24 | 新潟市寺尾 | 踏切 | 8時50分ごろ、国鉄越後線寺尾第1踏切で乗 で、寺尾駅の乗客50人を改札しなかったため、 新潟地方気象台は、17時に大雪警報を解除、 |
| 12.24 | 新潟県 | 注意報 | 17時半ごろ、国鉄信越線第1種前谷内踏切で、 て横転した。特急列車は現場に30分停車した |
| 12.24 | 南蒲原郡栄町 | 踏切 | 車に合図したが間に合わなかった。 |
| 12.24 | 三条市一ノ木戸 | 踏切 | 20時ごろ、国鉄弥彦線踏切で、軽トラックが ラックは後部を破損した。列車は現場に12分 |

事 の 内 容

が路面の凍結でスリップして車線をふさぐ形で横になったところに、後方から来た大型トラ

した。乗用車の右側が大破し、助手席の男性が両足骨折の三ヶ月の重傷。(55才)

普通乗用車がスリップして対向車線に入ったところ、対向してきた普通乗用車と衝突した。

腹などを打って重傷、他方の女性運転者(27才)は顔などに軽傷、当時約10cmの積雪があっ

から誤って自転車もろとも転落、凍死した。男性(54才)

称作業場踏切で、電車と乗用車が衝突、乗用車は50mひきずられて大破した。乗用車の女性(26才)、雪で視界が悪い中で一時停止をせずに踏切に入ったらしい。

る衝突や分離帯の側溝に入り込む事故が4件も発生した。県警本部は18時、県下全域に今冬月16日であった)

大型トラックが時速50km/hの規制のところ約80km/hで走り、前の車に追突しそうにな
クはスリップして中央分離帯にぶつかり横転した。運転者と同乗者が頭などに軽いけがをし

時までに8件のスリップ事故が起きている。

大雪警報、佐渡に大雪注意報を出した。

ヶ原町や滋賀県坂田郡米原町などで1～2cmの積雪のため、始発から7時45分まで、岐阜このため「ひかり107号」が6分遅れたのをはじめ、上下計6本に数分の遅れがでた。

をしたもの、スリップが原因の人身事故(軽傷3人)、物損事故7件が起こった。

用車が雪のためスリップして脱輪、踏切内に立往生した。この事故で職員の連絡ミスが原因列車に乗せず発車した。

全県への大雪・強風・波浪注意報に切替えた。

上り特急白鳥4号が踏切内で動けなくなった軽乗用車と衝突、軽乗用車は200m引きずられが、けが人もなく異状なかった。軽乗用車が雪の輪立にはまって動けなくなり、発煙筒で列

雪にはまって動けなくなった。そこへ上り普通列車が通りかかり、軽トラックに接触、軽ト
間停車した。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|--------------|-----------------|------|--|
| 1984. 12. 24 | 岐阜県・滋賀県 | 積 雪 | 名神高速自動車道が、岐阜一滋賀両県境の開除したが、同10時現在で積雪は20cmを越し、 |
| 12. 24 | 北魚沼郡小出町 | 火 災 | 23時半ごろ、木造一部二階建て住宅から出火、遅れ、消防車が到着した時には、ほぼ全焼の |
| 12. 24 | 十日町市 | その他 | 同日雪害対策室を設置した。 |
| 12. 25 | 十日町市 | 浸 水 | 流雪溝があふれ四日町地区などで2軒が床下 |
| 12. 25 | 新潟県 | 列 車 | 4時40分ごろ、国鉄信越線二本木一関山間で2本、急行1本、普通13本の列車が直江津一 |
| 12. 25 | 岐阜県・滋賀県 | 積 雪 | 東海道山陽新幹線は24日夜から滋賀県彦根市、部徐行運転、このため25日6時新大阪発上り |
| 12. 25 | 白根市茨曽根 | スリップ | 8時過ぎ、国道8号線で信号待ちをしていたき衝突した。この事故で乗用車を運転していて交通が渋滞した。 |
| 12. 25 | 南魚沼郡六日町 | スリップ | 8時過ぎ、関越自動車道下り線で、トラックらに、この事故のため止っていた5台の車に、クの男性運転者(49才)が腰や足の骨を折り6っていた。 |
| 12. 25 | 北蒲原郡黒川村 | 除 雪 | 午前9時ごろ、同村栗木野新田、胎内川右岸に転落して水死した。男性(51才) |
| 12. 25 | 新潟県 | 警 報 | 新潟地方気象台は10時30分に佐渡を防ぐ全県 |
| 12. 25 | 北魚沼郡湯之谷村 | 雪 崩 | 18時20分ごろ、同村上折立の県道棚尾又一上 |
| 12. 25 | 長岡市悠久山公園 | 倒 木 | 赤松並木の1本(樹齢80年、直径40cm、高さ人の顔面に枝がぶつかり、顔を切るなどして |
| 12. 25 | 上越市岡原 | スリップ | 国道18号線の上新バイパスが、雪によるスリ |
| 12. 25 | 南魚沼郡湯沢町 | スリップ | 国道17号線の芝原一八木沢間が、雪によるス |
| 12. 25 | 宮城県栗原郡金成町 中町 | スリップ | 町道を走っていたトラックが、T字路から急路面が凍っておりスリップ。木造一部二階建室内に居た教師と生徒10人のうち3人が手や |

事 の 内 容

ヶ原付近で積雪のため、24日22時前から通行止になった。除雪して25日8時半、通行止は解タイヤチェーンが必要だ。

両隣りの一部二階建て住宅と併せて3棟が全焼した。深夜の出火だったうえ、吹雪で発見が状態だった。

浸水した。

上り貨物列車が立ち往生した。このため上り急行「能登」が高田駅に10時間ストップ、特急長野間で区間運休した。

岐阜県不破郡関ヶ原町、名古屋市などで降り続く雪のため、豊橋一新大阪間や山口県内で一「ひかり170号」が34分遅れたのをはじめ、通過全列車に終日3～30分の遅れが出た。

乗用車や軽トラックなど3台の列に、大型トレーラーがスリップして突っ込み、次々に玉突た男性2人(29才、46才)はむち打ち症となった。被害車両が国道をふさぎ約1時間半にわた

がスリップし、左側防護壁に衝突、道路をふさいだところへ後続のトラックが衝突した。さ2台の大型トラックが相次いで追突し、7台が玉突状態になった。このため2台の大型トラヶ月の重傷、追突された男性2人(25才、27才)が軽傷、現場は圧雪が5～6cmあり雪が降

河川敷の鼓岡大橋建設工事現場で、橋脚上に30cm程積った雪の除雪中に足を滑らせ、水中

下に大雪警報を出した。

折立線で高さ20mの斜面から幅20m、厚さ1mの雪崩が発生、同県道が不通になった。

約16m)が雪の重みで根元から倒れた。たまたまその下に止めた乗用車から降りた小学生21～2週間のけがをした。女子(6才、11才)

ップ事故のため一時不通となった。

リップ事故のため一時不通となった。

に右折して来た車を避けようとした車をさらに避けようとして急ブレーキをかけたところ、てのソロバン塾に突っ込んだ。このため16m²のうち柱3本が折れるなど部屋の半分が壊れ、足などに1週間のけが。女子(8才)、女性(40才)

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|--------------|----------|------|---|
| 1984. 12. 25 | 新潟県 | 欠 航 | 佐渡汽船は、ジェットフォイル新潟—両津間 新潟空港でも、風・視界不良・滑走路の凍結 |
| 12. 25 | 県警交通企画課 | スリップ | 県内に本格的な寒波が襲来した21日から25日 （事故17件），物損事故 351 件負傷者は 73 占め，雪による事故多発をハッキリと示して |
| 12. 26 | 南蒲原郡中之島村 | 踏 切 | 午前0時38分ごろ、同村池之島の国鉄信越線押切 車は 5 m 跳ね飛ばされて大破したが、双方に 38分遅れになった。 |
| 12. 26 | 新井市諏訪町 | 屋根雪 | 9時ごろ、自宅裏の物置で雪下し中の男性が、 |
| 12. 26 | 柏崎市田屋 | 屋根雪 | 10時00分、主婦が玄関わきの雪堀り作業をし て1時間半後に厚さ 2 m の雪をとり除いたが |
| 12. 26 | 長岡市六日町 | 火 災 | 12時20分ごろ、木造一部二階建て住宅一階居 消防車が入らないため、消火に手間取った。 |
| 12. 26 | 新井市白山町 | 屋根雪 | 14時50分、自宅二階の屋根で雪下し中の男性 才） |
| 12. 26 | 新津市草水1丁目 | 踏 切 | 18時20分ごろ、国鉄磐越西線村松第3街道踏 が、大型トラックは40m引きずられて大破、 |
| 12. 26 | 十日町市本町 | 屋根雪 | 15時ごろ、自宅二階の屋根雪下ろし中に誤っ |
| 12. 26 | 十日町市 | 大 雪 | 山間部の塩之又地区（14世帯）、西枯木又地区 |
| 12. 26 | 新潟県 | 列 車 | 25日夕から26日にかけて、上信越を中心に大 信越線特急「あさま」、急行「とがくし」な 越線など各線で 5 分から 3 時間前後の乱れが 川口—戸狩間、10時から信越線新津—黒姫間、 に15時から羽越線新津—坂町間、白新線新潟 |
| 12. 27 | 新潟県 | 列 車 | 国鉄は、信越線を中心に終日ダイヤが乱れた。27 ごろ信越線塚山駅構内で流雪溝の水があふれ、 グラフが故障して立ち往生し運転をとりやめ 運休、11本の列車が最高 4 時間遅れた。また、 |

事 の 内 容

2 往復、カーフェリー新潟一赤泊間 1 往復を欠航。

などのため、発着各 5 便を欠航した。

午前10時までの交通事故発生状況をまとめた。事故数は408件で、人身事故57件(うちスリップ人(うちスリップ事故29人)となった。原因はスリップによるものが166件と全体の約41%をいる。

駅近くの押切第3踏切で、乗用車がスリップして立往生したところへ急行が衝突した。乗用けが人はなかった。この事故で2時間遅れで運転していた急行は現場に38分停車し、2時間

はしごから転落し、左足首を折って3ヶ月の大けがをした。(73才)

ていたところ、かやぶき屋根に積もっていた約 20 m^3 の雪が突然落下し下敷になった。10人すでに死亡(窒息死)していた。(59才)

間付近から出火、同住宅1棟 165 m^2 を全焼した。当時、付近は約1.5mの積雪で住宅前に

が、足を滑らせて約8m下のコンクリート地面に落ち、頭などを強く打って即死した。(68

切内で、雪のため動けなくなった大型トラックに、普通列車が衝突した。けが人はなかった。復旧作業のため列車は現場に5時間止まった。約5cmの圧雪でスリップして動けなくなった。転落、胸部打撲と左手首骨折の重傷を負った。男性(63才)(3世帯)が孤立状態となっている。

雪となり、長岡・小千谷などの積雪も150cmを超えた。この雪で国鉄新潟鉄道管理局は、26日と合計34本を運休させた。列車の遅れは特急下り「白鳥」が4時間39分遅れたのを最高に上出した。このため長岡・直江津に雪害対策本部を設置する一方、26日午前零時から飯山線越後11時から上越線宮内一水上間でそれぞれ第3次規制(旅客4割、貨物5割の間引運転)、さら一新発田間で第1次規制(除雪警戒)をした。

日2前半前、上越線石打一越後湯沢間で急行列車が雪を抱き込み運転不能になった。また、9時架線を支えるポールの基礎が露出、さらに14時前同線塚山一越後広田間で特急列車のパンタた。このため同線の下り線は同区間で19時40分まで不通となり、特急列車4本を含む12本が上越線でも特急2本が最高3時間遅れた。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事 項 | 記 |
|--------------|----------|------|---|
| 1984. 12. 27 | 南魚沼郡六日町 | スリップ | 10時過ぎ、関越自動車道下り線でトラックが現場から200m後方で停車していた大型トラックに追突した。このため同下り線小出一 |
| 12. 27 | 柏崎市上条 | 除 雪 | 7時ごろ、自宅近くの用水路(幅4m、深さ識不明)で危険な状態であった。男性(82才) |
| 12. 27 | 十日町市 | 大 雪 | 同市は10時雪害対策本部を設置した。27日夕 |
| 12. 27 | 長岡市宮内 | 除 雪 | 12時40分ごろ、自宅前の雪をスノーダンプで |
| 12. 27 | 長岡市川崎 | 除 雪 | 15時15分(推定)、除雪作業中の老人が、自宅 |
| 12. 27 | 新潟市西湊町通 | 火 災 | 16時55分ごろ、木造二階建て住宅から出火、 |
| 12. 27 | 東頸城郡大島村 | 雪 崩 | けた。ラッシュ時と積もった雪のために道路 |
| 12. 27 | 新潟市浜浦町 | その他 | 23時ごろ、同村深沢の県道で、200m ³ の雪 |
| 12. 27 | 刈羽郡小国町 | 屋根雪 | 23時半過ぎ、刃物を持った覆面強盗が逃げた |
| 12. 27 | 長岡市大積高鳥町 | 屋根雪 | 12時30分、二階建て住宅の屋根の雪下ろし作 |
| 12. 28 | 新発田市中曾根 | スリップ | 16時30分、自宅車庫の雪下し中に誤って転落、 |
| 12. 28 | 新発田市日渡 | スリップ | 午前零時ごろ、国道7号線で道路パトロール |
| 12. 28 | 北魚沼郡湯之谷村 | 屋根雪 | ックが突っ込み、パトロール員1人が内臓破裂 |
| 12. 28 | 長岡市宮路 | 屋根雪 | 午前零時半ごろ、国道7号線で大型トラック |
| 12. 28 | 東頸城郡松代町 | 雪 崩 | で1人が両足大腿骨骨折で6ヶ月の重傷、1 |
| 12. 28 | 南魚沼郡六日町 | 除 雪 | 10時半ごろ、同村七日市で、自宅一階の屋根(14才) |
| | | | 10時半ごろ、寺の本堂の屋根の雪下ろしをし |
| | | | 5分後に救助したが1人が背中を打って軽い |
| | | | 10時半、同町小貫で雪崩の危険が生じたため、 |
| | | | 除した) |
| | | | 11時過ぎ、関越自動車道下り車線で、作業中 |
| | | | 突した。この事故でトラックの運転者と同乗 |
| | | | された。 |

事 の 内 容

スリップし、中央分離帯に衝突したところへ、後続のトラックが追突した。この事故のため
ックに後ろから来た大型トラックが追突。追突された大型トラックがさらにはずみで前のト
六日町間が13時半まで閉鎖された。

1 m)ヘスノーダンプで雪捨てに行って誤って転落した老人が救助された。発見された時は意

方現在積雪 179 cm となった。

10mほど離れた赤川用水に捨てる際、スノーダンプと共に用水に落ち水死した。女性(68才)
裏手を流れる稻葉川(川幅 3～4 m)に雪を落とそうとした際、誤って転落し、行方不明にな
才)

折からの北風にあおられ燃え広がり、木造民家が 6 棟全焼、2 棟が半焼し、計 700 m² が焼
交通が渋滞して、消防自動車の現場への到着が遅れた。

崩が発生、乗用車が襲われたが、運転者は車からはい出し無事だった。

が、雪に残った足跡を 1 km 追跡して逮捕した。

業中、誤って 7 m 下に転落、積雪に頭から突っ込み、頸椎骨折で即死。男性(57才)

雪の下の用水路に顔を突っ込んで窒息死した。男子(16才)

車がスリップして横向きになった。パトロール員が車周辺を除雪しているところへ大型トラ
裂で 2 ヶ月、1 人がむち打ち症で 1 ヶ月のけがをした。男性(33才, 34才)

がスリップして大型トラックに追突、さらに後から来た大型トラックが追突した。この事故
人がむち打症で 20 日間のけがをした。男性(36才, 41才)

の雪下ろし中の中学生が、誤って約 5 m 下の地面に転落、背骨圧迫で 2 ヶ月の重傷。女子

ていた 5 人のうち 2 人が滑り落ちた屋根の雪と共に 5 m 下の雪の上に転落、雪に埋まった。
けがをした。男性(27才)。屋根に百数十cm の雪が積もっていた。

一家 4 人に避難勧告を発令、家族は同地区の区長宅へ避難した。(雪庇を処理して 30 日に解

の除雪車の後ろに停車していたトラックに大型トラックが追突、さらに後続のトラックが追
者が頭などに軽傷。男性(22才, 29才)。六日町一小出間の同車線が約 3 時間にわたって閉鎖

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|--------------|---------|-----|--|
| 1984. 12. 28 | 中頸城郡吉川町 | 屋根雪 | 13時25分、同町原之町のトタンぶき木材工場でいたショベルカーが乗り上げ、社員は胸部 |
| 12. 28 | 東頸城郡大島村 | 倒 壊 | 14時ごろ、同村大平の製材所(木造二階建て)に乗用車など7台が押しつぶされた。 |
| 12. 28 | 三島郡越路町 | 屋根雪 | 16時35分、自宅の雪下ろしをしていた老人が |
| 12. 28 | 南魚沼郡大和町 | 屋根雪 | 17時20分ごろ、屋根の雪下ろし作業中、誤って |
| 12. 28 | 柏崎市中田 | 視 界 | 17時30分ごろ、北陸自動車道下り線で、ラ ねられ頭部打撲、左骨盤骨折の重傷。男性 |
| 12. 28 | 三島郡越路町 | 列 車 | 22時ごろ、国鉄信越線塚山駅構内で急行列車 時間にわたって不通となった。 |
| 12. 28 | 長岡市 | 大 雪 | 同市内の積雪は28日現在 172 cm. 本格的な だ。 |
| 12. 28 | 新潟県・長野県 | 列 車 | 降り続いている大雪で、国鉄ダイヤは信越線 マヒ状態となり、復旧の見通しが立っていない 各駅で特急列車が6時間以上も発車出来なく りを炊出した。 |
| 12. 28 | 糸魚川市大所 | 雪 崩 | 20時半過ぎ、国道148号線葛葉峠付近で表層 が運転者と乗用車を脱出させた。けが人は無 しは立っていない。 |
| 12. 28 | 新潟県 | その他 | 朝、新潟県豪雪対策本部及び、三島郡越路町、 潟村に各豪雪対策本部を設置した。夕方まで |
| 12. 28 | 東京 | その他 | 夕方、国鉄は本社に雪害対策本部を設置した。 国鉄は長岡、直江津に雪害対策地区本部を設 |
| 12. 29 | 長岡市 | 列 車 | 4時半ごろ、国鉄信越線の下り線長岡駅手前 |
| 12. 29 | 長野県大町市 | 除 雪 | 8時5分ごろ、同市平野口高瀬入の東京電力 亡した。男性(35才)。除雪車にピッケルを引 つぶされた。 |
| 12. 29 | 長岡市末広 | 屋根雪 | 10時45分(発見)、自宅わき車庫の屋根の雪下 |

事 の 内 容

で屋根の雪下ろしをしていた社員が足を滑らせ転落していたところへ構内の除雪作業をし
圧迫で即死した。男性(47才)。ショベルカーの運転者が転落者に気づかずバックさせた。
トタン屋根、約 250 m²)が、屋根に積もった約 2.3 m の雪の重みでつぶれ、中に入れてあっ

誤ってスノーダンプと一緒に屋根から転落して窒息死した。男性(72才)
て 5 m 下の地面に転落、右足首骨折、胸部強打などの重傷を負った。(男性、57才)
イトバンが雪の壁に突っ込んで故障したため、運転者が非常電話へ向う途中、トラックには
(58才)。雪のため前がよく見えず歩行者に気づくのが遅れた。
が雪で立ち往生し、引き返すためにパンタグラフを上げたところ架線を切断、下り線は約 5

降雪に見舞われた25日から幹線道路網がマヒ状態となっており、市内の交通機関は寸断状態
を中心に大きく乱れ、直江津など 6 駅で立往生する列車が相次ぎ、新潟・長野県内の国鉄は
い、信越・北陸線で特急列車30本、急行列車11本を運休した。糸魚川・直江津・高田などの
なるなどして乗客が車内に缶詰め状態となった。糸魚川駅では車内の乗客120 名分のおにぎ

雪崩が発生した。雪崩の規模は長さ約 30 m で、通行中の乗用車が 1 台埋まったが、後続車両
かった。21時、同国道は平岩一長野県境の国境橋間約 3 km を通行止めにした。解除の見通

中頸城郡吉川町、同中郷村、同頸城村、東頸城郡松代町、新井市、中魚沼郡川西町、西蒲原郡月
に31市町村になった。

置、上・信越、飯山線で列車を間引き運転する第 3 次規制を敷いた。
で、貨物列車が雪の吹きだまりに突っ込んで立ち往生。
専用道路で、北アルプス登山口に向って歩いて歩いていた 7 人のうちの 1 人が除雪車にひかれて死
っ掛け、除雪車にひっぱられながら歩いていたが、除雪車がバックしたため、タイヤで押し
ろし中の老人が心不全で倒れ、約 2.5 m 下の積雪に頭から突っ込む状態で転落、窒息死した。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|--------------|---------|------|---|
| 1984. 12. 29 | 新潟県 | 列車 | 男性(67才) 12時ごろ、国鉄上越線の宮内一浦佐間、信越線の夕方まで不通となった。県内を抜ける上越・本が運休した。 |
| 12. 29 | 東蒲原郡鹿瀬町 | 除雪 | 12時半ごろ、同町向鹿瀬で町の委託を受けて落とした雪を除雪する際、誤って足を滑らせ |
| 12. 29 | 新潟市 | 欠航 | 13時まで、新潟空港では滑走路の除雪作業と佐渡汽船もジェットフォイル全便(4便)が欠 |
| 12. 29 | 栃尾市本町 | 屋根雪 | 13時過ぎ、撚糸工場で屋根の雪下ろし中の社 |
| 12. 29 | 長岡市干場 | 屋根雪 | 15時45分(発見)、自宅二階屋根の雪下ろし中病院で死亡した。男性(53才)。窒息死 |
| 12. 29 | 中頸城郡妙高村 | 雪崩 | 16時ごろ、同村大鹿の県道飯山一斑尾一新井なお続発する恐れが強いため、16時半から通状態となっている。(31日15時30分、2日ぶ |
| 12. 29 | 中頸城郡妙高村 | 屋根雪 | 16時00分(推定)、同村窪田新田で主婦が自宅員らが救出に当ったが21時過ぎ遺体で発見さ |
| 12. 29 | 十日町市小泉 | 雪崩 | 17時過ぎ、同所の国道を走行中のタクシーになど壊した。乗客が割れたガラスの破片で顔 |
| 12. 29 | 新潟県 | その他 | 17時に新井市、中魚沼郡津南町、東頸城郡大 |
| 12. 29 | 糸魚川市押上 | 屋根雪 | 18時過ぎ、店舗入り口のひさしに取り付けて中の乗用車など5台の上に落ち、屋根、窓ガの打撲傷を負った。男性(38才)、女性(26才) |
| 12. 29 | 三島郡三島町 | 屋根雪 | 19時10分ごろ、同町蓮花寺で自宅屋根の雪下(56才) |
| 12. 29 | 秋田県鹿角市 | スリップ | 23時20分ごろ、同市十和田末広の国道103号時雪が降っており、現場の路面は凍結し、ブ |
| 12. 29 | 十日町市稻葉 | 倒壊 | 木造二階建てトタン屋根、 158 m^2 の建設資 |
| 12. 29 | 中頸城郡清里村 | 倒壊 | 同村上田島の共同作業所 33 m^2 が雪の重みで |

事 の 内 容

見附一塚山間の送電がストップ、約2時間10分後に復旧したが、架線に着雪したため両線は信越北陸線の各線の長距離列車は、ほぼ全列車の計62本が運休、普通列車と合わせて108

除雪作業中、ハンドロータリーの羽根に接触、足や手首の骨を折る重傷を負った。屋根から転倒、ロータリーに巻き込まれたもの。女性(56才)

凍結のため、発着合計10便が欠航。

航した。

員が誤って6m下の流雪溝に転落。左足かかと骨折などの重傷を負った。男性(48才)

に誤って転落、約4.5m下の積雪の中でうつ伏せに倒れているのを発見したが、約1時間後

線の大鹿バイパス付近で、幅20m、高さ5m、また、豊橋で幅40m、高さ2mの雪崩が発生、行止にした。このため長野県寄りの土路、下樽、中樽、上樽の4部落92世帯、188人が孤立りに解除になった。)

わきの除雪作業をしていたところ、屋根の雪約130m³が落下、生き埋めになった。消防団れた。女性(62才)

道路右手の山腹から幅10m、高さ70cm、約15m³の雪崩がぶつかり、右後部ドアと窓ガラスを切る軽傷を負った。男性(27才)。

島村、同牧村に県災害救助条例を適用した。

あった鉄骨わく布製の長さ約4mの雨よけテントが、上に積もった67cmの雪の重みで駐車ラスを破損した。また、駐車中の車の中にいた客と同店の従業員が頭や腕などに3～5日間

ろし後、倒した煙突の修理中、約2.3m下の軒下に転落、頭を強く打って死亡した。男性

線で乗用車とトラックが正面衝突し、男性(43才)1人が重体、3人が重傷を負った。事故当レーキをかけたがスリップしてぶつかった。男性(54才、57才、63才)

材倉庫が約2mの雪の重みで全壊、中でたいていた石油ストーブから引火半焼した。

つぶれるなど、上越地区で作業小屋の全壊が4件、住宅の一部損壊が5件あった。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|--------------|-----------|------|---|
| 1984. 12. 29 | 上越市北本町 | 倒 壊 | 北本町2でがん木(アーケード)の鉄骨部分が |
| 12. 29 | 東蒲原郡三川村 | 大 雪 | 県内の道路も各地で不通、渋滞が続いている。高速道路は全線圧雪で50km/h制限。 |
| | | | 件に達した。 |
| 12. 29 | 新潟県 | 大 雪 | 上越地方のバス運行は完全マヒ状態となり、 |
| 12. 29 | 中魚沼郡津南町 | 大 雪 | 同町は観測開始以来の記録的大雪となった。26日から孤立状態となっている。 |
| 12. 30 | 東頸城郡安塚町 | 屋根雪 | 8時20分ごろ、同町和田の同地区児童館(木ヶ月の重傷を負った。同地区は280cmの積) |
| 12. 30 | 十日町市城之口 | 屋根雪 | 10時ごろ、自宅の屋根の雪下ろし中に転落し、 |
| 12. 30 | 新潟県 | その他 | 12時に長岡市、十日町市、糸魚川市、三島郡城郡名立町に県災害救助条例を適用した。 |
| 12. 30 | 新潟県 | その他 | 新津市、五泉市、新発田市、中蒲原郡小須戸町村となった。 |
| 12. 30 | 長岡市上除甲 | 屋根雪 | 13時50分ごろ、自宅の車庫で屋根の雪下ろし(26才) |
| 12. 30 | 石川県鳳至郡能都町 | 列 車 | 11時32分、同町田ノ浦の国鉄能登線宇出津一ていた立木(高さ17m、直径25cm)に急行が週間のけがをした。 |
| 12. 30 | 上越市下稲田 | 屋根雪 | 15時21分、自宅の納屋の屋根で雪下ろしをした。 |
| 12. 30 | 長野県 | 雪 崩 | 14時50分ごろ、北アルプス明神岳中腹のひょう2人死亡、1人が行方不明となった。死亡 |
| 12. 30 | 柏崎市笠島 | スリップ | 16時55分ごろ、北陸自動車道上り線で、空の車に後続のトラックが追突した。この事故でって110台の車が立ち往生した。男性(19才、 |
| 12. 30 | 中魚沼郡川西町 | 雪 崩 | 17時半ごろ、同町室島の国道404号線大島橋救出されたが、けがはなかった。雪崩は約30 |

事 の 内 容

雪の重みで、くの字に折れ曲った。

一般道路は国道49号線が同村揚川一津川町清川間で車が渋滞し、9時半～18時まで不通とな
しかし、雪の壁に突っ込んだり、追突したり、スリップ事故が相次いでおり、17時までに5

糸魚川地区で50%，新井地区で70%，高田地区で90%の運休となっている。

9時現在積雪が288cmとなり、同町の大谷内、日出山、見倉、樽田の4地区22世帯61人が

造二階建て）の屋根の雪下ろし作業中に、誤って4m下の積雪上に転落、腰の骨を折って1
雪で、16人が雪下ろしをしていた。男性（46才）

左ひじ骨折の大けがをした。男性（34才）

越路町、刈羽郡高柳町、同小国町、中頸城郡板倉町、同清里村、同中郷村、同妙高村、西頸

町、北蒲原郡安田町など15市町村が新たに豪雪対策本部を設置。県内112市町村のうち68市

中、誤って約2m下のコンクリートの地面に転落、右足首骨折で3ヶ月のがをした。男性

羽根駅間で、線路わきの斜面から枝に積もった雪の重みで線路の一部にかぶさるように倒れ
接触、車両の右側の窓ガラス33枚が割れ、ガラスの破片で乗客20人が顔や頭などに10日～1

ていたところ、屋根雪が一気に落下、一緒に落ちた男性（69才）が雪の下敷となって窒息死し

うたん池上約600m付近で、雪崩があり4人が埋没した。近くにいた4人が救助に当ったが
男性（24才、26才）、行方不明 男性（36才）

タンクローリー車がスリップして道をふさいだところへ、後続の乗用車が追突、さらに乗用
乗用車とトラックの運転者が手や頭に軽傷を負った。同線は一時閉鎖され、約2時間にわた
26才）

付近で、道路わきの山腹から雪崩が発生し通行人が埋没した。約7時間後の31日午前0時半
mの高さから長さ30m、幅30m、高さ（厚さ）3mの表層雪崩であった。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|--------------|-----------|------|--|
| 1984. 12. 30 | 東頸城郡松之山町 | 雪崩 | 19時ごろ、同町池尻の国道253号線で、車左っていたが、たまたま開けていた運転席の窓 |
| 12. 30 | 新潟市中山 | 屋根雪 | 19時10分ごろ、自宅屋根の雪下ろしを終えて |
| 12. 30 | 長岡市 | 断線 | 雪下ろし中の電線、電話線の切断事故が相次件処理した。 |
| 12. 30 | 青森県 | 大雪 | 青森県内は、30日で9日連続真冬日。12月と |
| 12. 30 | 長岡市 | 大雪 | 12月としては記録的大雪に見舞われている35年の200cmを上回る戦後最高の異常豪雪 |
| 12. 30 | 新潟県 | 列車 | 国鉄新潟鉄道管理局管内の在来線のマヒ状態が続20時15分に復旧したが下り線が2時間余りス |
| 12. 30 | 新潟県 | 列車 | 上・信越線を中心にマヒ状態が続いている国計184本を運休した。信越線は長岡-妙高高 も石打-長岡間が不通で、第4次規制(旅客 |
| 12. 30 | 山形県 | 欠航 | 離島の飛島への定期船が22日以来連続9日間47年以来最悪の記録となった。 |
| 12. 31 | 上越市西本町 | 屋根雪 | 11時半前、自宅二階の屋根で雪下ろしをして ち脳挫傷で死亡した。男性(52才) |
| 12. 31 | 長野県 | 雪崩 | 14時半ごろ、北アルプス南岳の横尾尾根上部 |
| 12. 31 | 上越市下箱井 | 除雪 | 17時ごろ、自宅の庭で屋根から下ろした雪を |
| 12. 31 | 新潟県 | その他 | 10時に上越市、東頸城郡浦川原村、同安塚町、 |
| 1985. 1. 1 | 新潟市濁川 | スリップ | 21時40分ごろ、国道7号線阿賀野川大橋で追 男児(2才)、軽傷 女性(32才)、男性(29才)。 |
| 1. 2 | 鳥取県西伯郡大山町 | 雪崩 | 8時10分ごろ、国立公園大山北壁の別山沢では幅100m、長さ1kmの大きな雪崩で、3人死 亡 男性(34才)、重傷左足骨折 男性(29 |
| 1. 2 | 北魚沼郡小出町 | 屋根雪 | 12時前、同町十日町で自宅二階屋根の雪下ろ 性(40才) |
| 1. 2 | 北蒲原郡加治川村 | 踏切 | 12時ごろ、同村下小中山の国鉄羽越線金山踏切で |

事 の 内 容

側に発生した。300 m³ の雪崩に乗用車が襲われ、車半分が埋没した。車には家族 7人が乗から次々脱出して無事だった。

下りる途中、ハシゴが倒れて転落、足を打ってけがをした。男性(62才)いだ。長岡電々ラインマンセンターでは、60人の故障修理班を特別編成し、30日だけで120

しては明治30年の130 cm に迫る128 cm の積雪となり、観測史上2番目の豪雪となった。新潟県内は、30日も断続的に降り続き、長岡市内はついに241 cm (国鉄調べ) に達し、昭和となった。

いている。混乱も既に1週間、上越新幹線越後湯沢一浦佐間で17時49分ごろ停電事故があり、トップした。

鉄は、30日も復旧のメドがたたず、特急列車29本、急行列車20本、普通列車 135 本の合原間は不通のまま、直江津一新井間で通勤用普通列車 2 往復させただけ、一方、上越線列車40～70%間引き運転)が行われ、上野方面への特急・急行列車は1本も走らなかった。欠航、帰省客150人が酒田港と島で足止めされている。風速17～22m/sec の大しけで昭和

いたところ、足を滑らせ、約4 m 下の除雪してほとんど雪のない駐車場に転落、頭を強く打

で9人が雪崩に巻き込まれて、1人が死亡、7人が重軽傷を負った。死亡 男性(33才)
下から削っていて、雪の山が崩れて下敷になって窒息死した。男性(77才)

小千谷市、中頸城郡三和村、同柿崎町、同吉川町に県災害救助条例を適用した。

越中の車が前から来たライトバンと正面衝突この事故でライトバンの3人が死傷した。死亡現場は、はみ出し禁止のうえ、雪がシャーベット状で滑りやすいのに無理な追越しをした。3人が大雪崩に遭い、救出されたが病院に運ぶ途中1人は死亡、2人が重傷を負った。雪崩は70 m押し流された。鳥取地方は年末からの断続的な雪で現場付近は2 m の積雪があった。
才), 胸部打撲 男性(25才)

し作業中、誤って転落、玄関前のコンクリート地面に頭を強く打って脳挫傷で死亡した。男

普通乗用車が特急列車にはねられ、3人死傷した。当時踏切内に雪は少なくスリップしたの

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|-----------|------|---|
| 1985. 1. 3 | 兵庫県美方郡浜坂町 | 雪崩 | かどうか詳しく調べている。死亡 女児(18時過ぎ、国鉄山陰線居組—諸寄駅間で雪崩をキャッチしたため、特急列車や上・下り車) |
| 1. 3 | 十日町市本町 | 屋根雪 | 8時半ごろ、木造三階建て織物工場の屋根の才) |
| 1. 3 | 上越市高田地区 | 除雪 | 国道18号線(高土町一寺町間)は29日から除排 |
| 1. 3 | 長野県 | 遭難 | 北アルプスの前穂高岳の北尾根五峰付近をザ状況から涸沢側に転落したとみている。男性 |
| 1. 4 | 刈羽郡西山町 | 屋根雪 | 10時ごろ、同町田沢で除雪作業をしていたと |
| 1. 4 | 青森県弘前市撫牛子 | 踏切 | 13時23分ごろ、国鉄奥羽線撫牛子踏切で、立しかなかった。この事故で一両目の乗客4人 |
| 1. 4 | 秋田県 | 列車 | 23時20分ごろ、国鉄奥羽線及位—院内間で上 |
| 1. 4 | 長野県 | 雪崩 | 北アルプス鹿島槍ヶ岳で31日、6人が消息を |
| 1. 5 | 山形県 | 列車 | 1時10分ごろ、国鉄奥羽線大沢—峠間で上り |
| 1. 5 | 柄尾市大町 | 屋根雪 | 11時半ごろ、自宅三階ベランダの物干し場の |
| 1. 5 | 長野県飯山市外様 | 雪崩 | 11時50分ごろ、信濃平スキー場中腹の第2リしていた児童ら12人が巻き込まれた。このうった。行方不明者は6日15時37分遺体で発見崩の発生する前に小規模雪崩が発生し、数人 |
| 1. 5 | 五泉市学校町 | 屋根雪 | 14時過ぎ、市立五泉小学校の二階建て校舎の |
| 1. 5 | 岩船郡荒川町 | 転倒 | 14時前、同町下鍛冶屋の町道で、歩行者が雪(85才) |
| 1. 5 | 刈羽郡小国町大貝 | 断水 | 17時半ごろ、渋海川にかかる直径300mmの世帯が断水した。仮復旧は早くとも8日の見 |
| 1. 5 | 南魚沼郡六日町 | スリップ | 20時10分ごろ、同町小栗山の国道253号線ではされ病院に運ばれたが、20時50分脳挫傷 |
| 1. 5 | 北海道大雪山系 | 雪崩 | 午後、3人が東大雪山系ニペソツ山に登山しことが確認されており安否が気づかわれてい |

事 の 内 容

才), 重傷 男児(3才), 男性(33才)

が発生し, 約30mにわたって線路が雪や土砂に埋まった. 集中列車制御装置(CTC)が異常を最寄駅に停車させたため事故をまぬがれた. 16時55分復旧した.

雪下ろし作業中, 雪庇とともに池に転落, 全身打撲のため収容先の病院で死亡した. 男性(61

雪のため車両通行止になっていたが, 作業が遅れ, 開通は7日の見込み.

イルで下降中の3人のうち, 先に下降してザイルを解いた1人が行方不明になった. 現地の(26才)

ころへ, 自宅屋根から30m³の雪が落下, 下敷きとなり窒息死した. 女性(60才)

ち往生していた市清掃車に特急列車が衝突した. 二車線の同踏切は積雪のため一車線分の幅が顔などに4～7日のけがをした. 女性(14才, 22才, 42才), 男性(24才)

り特急列車が雪で立ち往生, 2時間13分遅れた.

断った. 第1岩峰でビバーク中, 雪崩に襲われテントごと沢に流された可能性が強い.

急行列車が雪で立ち往生, 4時間15分遅れた.

除雪中, 波板屋根から滑り落ちた雪に埋まり窒息死した. 男性(36才)

フト終点付近の斜面で, 幅約50m, 長さ約150mにわたって雪崩が発生, スキー教室に参加ち4人は自力で脱出, 7人は消防団員らに救出されたが頭や足に軽傷, 1人が行方不明となされた. 現場の斜面はかなりの急傾斜で, 過去に3回も大雪崩が発生している. 当日も大雪が巻き込まれ自力で脱出する騒ぎがあったばかりだった. 死亡 女性(22才)

雪下ろし作業中, 作業員が誤って転落, 腰部打撲の軽傷を負った. 男性(53才)

道のため滑って転倒, 通りかかった乗用車にはねられ右腕や左足骨折の重傷を負った. 女性

大貝浄水場給水管が雪の重みで, 54mにわたって損壊, 同町で1,900世帯, 越路町で1,100通し. (7日夕方復旧した)

車がスリップ横向きになったままでチェーンをかけていた所へ車が突っ込み, 車と車の間にで死亡した. 突っ込んだ車もスリップした. 男性(24才)

たが下山予定日を過ぎても帰らないと届け出があった. 同山頂付近では大規模雪崩があったる.

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|---------|------------|---|
| 1985. 1. 5 | 滋賀県 | 積 雪 | 東海道山陽新幹線は雪のため始発から減速 |
| 1. 5 | 長野県 | 遭 難 | 後立山連峰へ登った4人が下山予定日に帰ら |
| 1. 6 | 上越市大手町 | 視 界 | 午前零時ごろ、国道8号線で除雪のため交通 イバーの故障した乗用車を運転、雪のため前 |
| 1. 6 | 中頸城郡中郷村 | 倒 壊 | 未明、同村藤沢で木造平屋建て238m ² の倉 |
| 1. 6 | 中頸城郡吉川町 | 火 災 | 10時25分ごろ、木造二階建て住家から出火、 板)に燃え移った。 |
| 1. 6 | 石川県珠洲市 | 倒 壊 | 10時45分ごろ、同市上戸町北方の市総合福祉 時、三階ホールでは市消防本部の出初式典終 同センターは昭和44年に建てられ、延べ1,085 た。事故当時、屋根の積雪は120cm、うち40 |
| 1. 6 | 新井市石塚町 | 屋根雪 | 夕方、自宅屋根で雪下ろし中、誤って約3m (47才) |
| 1. 6 | 上越市高田地区 | 除 雪 | 12月29日から除排雪のため車両通行止め規制 |
| 1. 6 | 南魚沼郡大和町 | 火 災 | 19時ごろ、同町市野江甲で火災が発生、木造 燃え移ったらしい。 |
| 1. 6 | 新発田市大栄町 | 除 雪 | 20時、自宅付近の除雪中に乗用車にはねられ、 |
| 1. 6 | 東蒲原郡津川町 | スリップ | 20時ごろ、同町栄山の国道で乗用車がスリッ リップして追突した。両方ともチェーンを付 大腿骨骨折で3ヶ月の重傷を負った。男性 |
| 1. 6 | 新井市長沢 | 屋根雪 | 18時00分、木造平屋建て住宅の周辺を除雪作 |
| 1. 6 | 西頸城郡能生町 | 土 崩 砂 れ | 22時50分ごろ、同町徳合の国道8号線南側斜 まり、2人が手や足などに軽い打撲傷を負っ |
| 1. 6 | 新潟県・長野県 | 列 車 | 両県内に降り続いている大雪の影響で、国鉄 上野に向ったほか、上り特急列車2本が2時 は積雪のためポイントの切替ができなくなり、 磐越西線、北陸線にも及び普通列車23本を運 |
| 1. 6 | 西蒲原郡弥彦村 | 遭 難 | 弥彦山で遭難騒ぎがあったが無事であった。 |

事 の 内 容

運転した。274本のうち215本が15分前後遅れて25万8千人に影響した。

ず、行方不明になった。

整理をしていた作業員を乗用車がはね、肋骨、左ひじ骨折、全身打撲の重傷を負わせた。ワ
方がよく見えなかった。男性(59才)

庫1棟が雪の重みで倒壊した。

198m²のうち二階部分33m²を焼いた。原因是雪のためボイラーの煙突が折れ、下見板(壁

センター(鉄筋コンクリート三階建て)のカラー鉄板ぶき屋根が、雪の重みで崩れ落ちた。当
了直後で、300人の団員が退場、一部はまだ階段を降りる途中だったが、けが人はなかった。
m²のうち、合掌造りの屋根を支えていた鉄骨が折れ曲り、大部分がホールの床に崩れ落ち
cmは前夜からの新雪で気温が高く、予想外の重量がかかったらしい。

下に転落、腰など強く打ち自宅で休んでいたが7日18時00分、腹腔内出血で死亡した。男性

を実施していたが、6日16時半に全面解除した。8日ぶりに全区域通行可能となった。

一部二階建て住宅の二階部分約100m²を焼いた。原因是、風呂場の煙突が雪で折れ家屋に

病院に収容された。男性(55才)

そして道路右側の雪壁に突っ込んだため、雪を引き出す作業をしていたところ、乗用車がス
けていなかった。この事故で車を引き出す作業をしていた人が車と車の間にはさまれて、左
(54才)

業中、屋根から滑り落ちてきた約320m³の下敷になり窒息死した。男性(51才)

面で、表面の雪とともに土砂が幅40mにわたり道路に崩れ落ち、走行中の乗用車が土砂に埋
た。男性(26才)、女性(27才)、国道は不通となった。融雪水による土砂崩れと見られる。

上・信越線のダイヤに大幅な遅れが出ている。上り特急列車が約7時間遅れで二本木駅から
間前後遅れている。下り特急列車も同様の遅れ、夜行列車にも影響が出る見込み。信越線で
特急列車4本、急行列車5本、普通列車29本を運休した。ダイヤの乱れは越後線、飯山線、
休した。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|----------------|----|--|
| 1985. 1. 6 | 新潟県 | 列車 | 朝、国鉄新潟鉄道管理局は雪害対策本部を再 |
| 1. 7 | 上越市今泉 | 列車 | 2時前、同所の国鉄信越線踏切で、除雪作業 となった。 |
| 1. 7 | 新潟県 | 列車 | 国鉄信越線の直江津一妙高高原間が終日ストップ —馬下間で1往復運転されただけで、急行列 普通列車9本が運休したほか、上越線や が運休した。 |
| 1. 7 | 長岡市濁沢町 | 倒木 | 4時前、同町神社わきの直径約1m、高さ約 に、電話回線、電線を切断した。この事故で が、9時頃復旧し、県道も7時半頃通行可能 |
| 1. 7 | 南蒲原郡田上町 | 踏切 | 8時25分ごろ、国鉄信越線中店踏切で雪のた 分～2時間半遅れた。 |
| 1. 7 | 糸魚川市小滝 | 雪崩 | 平岩地内で表層雪崩が発生し、8時半から國 時規制が解除された。) |
| 1. 7 | 北海道後志管内 | 雪崩 | 11時10分ごろ、ニセコ町のニセコアンヌプリ ヤーが巻き込まれて死亡した。男性(30才) |
| 1. 7 | 新津市東町 | 倒壊 | 11時半ごろ、木造一部二階建て資材倉庫132 どに負傷しただけで助かった。男性(27才) |
| 1. 7 | 西頸城郡青海町 | 雪崩 | 午前、同町の国道8号線で小規模の雪崩があ |
| 1. 7 | 新潟市東中島 | 転倒 | 12時半過ぎ、自宅前の雪道で滑って転倒、側 かれて骨盤骨折の重傷を負った。男子(7才) |
| 1. 7 | 新井市下平丸白岩 | 雪崩 | 17時ごろ、県道飯山一新井線で長さ50m、幅 時半に開通した。) |
| 1. 7 | 新潟県・長野県 | 列車 | 混乱が続いている国鉄は、7日も降り続く雪 の運休は合計119本となった。 |
| 1. 7 | 糸魚川市小滝 | 雪崩 | 国鉄大糸線の小滝一平岩間で表層雪崩が発生、 |
| 1. 7 | 福井県福井市 尼ヶ谷町 | 倒壊 | 雪の重みで屋根が落ち、二階の床板を破って 50～60cmの積雪があった。 |

事 の 内 容

び設置、信越線直江津一黒姫間に第4次規制を敷いた。中のラッセル車の前輪が雪を抱き込み、乗り上げた格好で脱線、16時半過ぎの復旧まで不通

プしたため、特急列車6本、普通列車37本が運転を中止。磐越西線でも午前中に新津一車、普通列車合わせて19本が運休した。また、北陸線、日本海縦貫線で特急列車4本、白新線、越後線でも一部普通列車が運休、飯山線では急行列車1本のほか普通列車10本

30mのエノキ(樹齢約120年)が雪の重みで倒れ、県道柏崎一高浜一堀之内線をふさぐとともに濁沢町、蓮平町、竹之高地町の全域293戸が停電、現場周辺の約30戸の電話が不通となってしまった。

めスリップして立往生した軽乗用車と特急列車が衝突、けが人はなかったが後続の列車が50道148号線の小滝一長野県境間16kmが全面通行止めとなっている。(57時間ぶりに9日17

山の標高1,100m付近の通称鉱山の沢で幅80m、長さ500mにわたって雪崩が発生、スキー

m^2 が雪の重みで全壊した。中に居た社員は、そばにあった資材棚の空間が幸いして、足なったが、同日中に開通した。

雪の切れ目から車道へ飛び出す形になったところに通りかかったダンプカーの、左後輪にひ5m、厚さ約5mにわたって雪崩が発生し、約1,250 m^3 の雪が同県道をふさいだ。(8日14

と踏切・脱線事故などが重なり、信越線や磐越西線を中心に列車の遅れや運休が続出、同日

全列車の半数を上回る16本が運休した。

一階に居た人を直撃、死亡させた。男性(59才)、住宅は60～70年たっており、屋根の上には

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|-----------|------|--|
| 1985. 1. 7 | 岩手県岩手郡玉山村 | 寒 波 | 朝、同村藪川で氷点下26.6度を記録するな |
| 1. 8 | 三条市新保 | 踏 切 | 7時55分ごろ、国鉄信越線新保踏切で、乗用車 った圧雪が複雑な凹凸となり、踏切内の圧雪 レーキ管が故障して立ち往生。東三条一三条 から1時間半遅れた。けが人はなかった。 |
| 1. 8 | 中頸城郡中郷村 | 倒 壊 | 12時前、同村藤沢で木造平屋建て約813m ² と |
| 1. 8 | 糸魚川市 | 列 車 | 13時20分ごろ、国鉄北陸線梶屋敷駅構内で、 り特急列車など4本、急行列車5本、普通列 飯山線は急行列車2本、普通列車10本、北陸 車2本、普通列車36本の合計59本が運休した。 |
| 1. 8 | 南魚沼郡湯沢町 | 雪 崩 | 14時半前、同町堀切の国鉄上越線関山踏切付 24分に復旧し、ダイヤには影響なかった。 |
| 1. 8 | 燕市灰方 | 踏 切 | 15時半前、新潟交通電鉄の移転場市道踏切で 切付近は除雪された雪などで約170cmの壁 |
| 1. 8 | 新井市雪森 | 爆 発 | 19時半ごろ、ガス爆発が起き1人が両手に2 みガスが漏れ、台所下のボイラー室兼倉庫内 |
| 1. 8 | 新潟市万代島 | スリップ | 22時25分ごろ、国道7号線万代橋上で、前の ーと正面衝突、6人が重軽傷を負った。 |
| 1. 8 | 西蒲原郡黒崎町 | 転 倒 | 町道でトラックを避けようとして、高さ1.5 ヶ月の重傷を負った。女児(6才) |
| 1. 8 | 上越地方 | 休 校 | 雪のため小学校6、中学校2、高等学校2校 とった。 |
| 1. 8 | 新潟県・秋田県 | 大 雪 | 秋田県内は7日夜から雪が降り続き、秋田地 羽、田沢湖、羽越線で特急列車、普通列車な |
| 1. 8 | 新潟県 | 列 車 | 県内の国鉄ダイヤは8日も各線で計59本 16時までに復旧、2日ぶりに列車の運転を再 |
| 1. 8 | 国 | その他 | 上越市、新井市、中頸城郡中郷村、同妙高村、 |
| 1. 9 | 三条市東裏館 | 屋根裏 | 12時過ぎ、旧三条高校体育館のドーム型屋根 |

事 の 内 容

ど猛烈な寒さに見舞われた。

が雪のためスリップ、立ち往生しているところに急行列車が衝突した。現場はカチカチにな
る高低差は最高10cmあり、前後の道路に比べ、踏切内の状況は悪い。この事故で列車のブ
間の上り線が9時20分過ぎまで不通となった。このため普通列車2本と特急列車1本が55分

145 m² の資材倉庫2棟が全壊した。

特急列車が吹きだまりに突っ込んで立ち往生するなどの事故が相次いだ。また、信越線で下
車25本が運転をとり止めたが、16時過ぎに復旧した。

・日本海縦貫線は特急列車2本、磐越西線で急行列車2本、普通列車5本、上越線で急行列

近で、長さ24mにわたって、140m³の雪崩が発生して下り線をふさいだ。1時間後の15時

乗用車と電車が衝突、乗用車の運転者が肋骨骨折で3ヶ月の重傷を負った。男性(58才)。踏
状になり、見通しが悪く電車の発見が遅れた。

週間のやけどを負った。男性(43才)。軒下のプロパンガスボンベのホースが雪の重みでゆる
に充満、冷蔵庫のサーモスタットの火花が引火したらしい。

車を追い越そうとした乗用車がスリップして反対車線にはみ出したところ走ってきたタクシ

mの雪壁に登ったところ、誤って滑り落ち、トラックの後輪に左足をひかれて、骨折など1

が臨時休校し、小学校2校、高等学校3校が始業延期、小学校1校、高等学校1校が早退措置を

方気象台開設(明治15年)以来史上2番目の降雪量を観測し、各地で大雪となった。8日の国鉄は、奥
ど計20本が運休となつたほか、羽後境駅で特急列車がストップするなど列車が立ち往生した。
を運休する規制が続いたが、6日朝から不通になつた信越線直江津—妙高高原間は8日
開した。

同板倉町の5市町村に災害救助法を適用した。期間は1月17日まで。

に積もつた雪が落下、約4m離れた市道を50mにわたつて埋め、反対側に止めてあつた車2

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|-----------|------|---|
| 1985. 1. 9 | 新潟県 | 列車 | 台を破損した。12月26日にも同様の事故が起 |
| 1. 9 | 三島郡越路町 | 雪崩 | 雪のため運休やダイヤの乱れが続いていた県 にて、全列車が平常ダイヤで運転される。12 |
| 1. 10 | 見附市細越 | 火災 | 12月29日から県道柏崎一小国線の同町塚野山 がなく不便が続いている。 |
| 1. 10 | 青森県青森市久須志 | 屋根雪 | 8時ごろ、木造二階建て住宅兼工場の二階か め、火は窓から噴き出し、両隣家へ燃え移っ |
| 1. 10 | 北蒲原郡水原町 | 屋根雪 | 11時ごろ、自然落下した氷で壊れた煙突が軒 に埋もれて窒息死した。男性(67才)。トタン |
| 1. 10 | 東頸城郡牧村 | 屋根雪 | 14時30分ごろ、同町外城町の水原町福祉会館 に巻き込まれて、3人が重軽傷を負った。左 |
| 1. 10 | 北蒲原郡安田町 | 屋根雪 | 15時ごろ、部落のお宮の屋根を見まわり中、 中学校の体育館の雪下ろし作業中に、9日午 |
| 1. 10 | 共産党 | 視察 | った。同体育館は鉄筋カワラぶき約857m ² で、 日本共産党の近藤忠孝参議院議員ら同党の豪 |
| 1. 10 | 国 | 視察 | 費、地下水低下の原因究明調査費など陳情を 国土庁、建設省、消防庁は豪雪で災害救助法 |
| 1. 11 | 長岡市要町 | 屋根雪 | は11日に長岡市、上越市、新井市を訪れて、主に道 13時15分ごろ、敷地内の建物周囲の雪堀り作 |
| 1. 11 | 長岡市東坂之上 | 屋根雪 | 軽傷を負った。あごの骨を折り約3ヶ月の重 |
| 1. 11 | 新潟県 | 地盤沈下 | 14時半ごろ、9階建てビル屋上の雪庇が突然 |
| 1. 11 | 小千谷市 | 断線 | 県生活環境部は、豪雪のため消雪に地下水を について協力要請を行ったが、住民生活の確 集中豪雪で小千谷市内の杉の倒木が異常なほ 月25日から1月8日までの15日間に処理した への引き込み線の断線も急増した。平年は1 下ろし、雪庇、植木が倒れるなど。このほか、 |
| 1. 11 | 自民党 | 視察 | 自民党の豪雪視察団(団長、井上孝参議院 |

事 の 内 容

きており、付近の住民はいずれ犠牲者が出るのではないかと不安をつのらせている。内の国鉄各線は、除雪作業が進んだ結果、10日朝から飯山線の普通列車8本の運休を除月24日以来18日ぶり。から柏崎市との境界までの約2.8kmは雪崩の危険があるため通行止めとなり、開通見通しら出火し、左右の木造二階建て住宅の3棟を全焼した。屋根には約50cmの積雪があったたた。下で雪に埋まった。この煙突の堀り出し作業中の人が、二階の屋根から滑り落ちた多量の雪屋根に40～50cmの雪が積っていたが暖気で雪が滑りやすくなって落下した。の高さ4mのひさしで雪下ろしをしていた同町役場職員5人が、屋根から滑り落ちてきた雪足親指骨折 男性(34才), 左手首骨折 男性(35才), 胸部打撲傷 男性(36才)。屋根から落下した雪の下敷になり窒息死した。男性(70才)後と10日午後の2回にわたって雪と一緒に屋根のカワラも滑り落ち、サッシ窓数枚を突き破屋根には1.3mの雪が積もり危険なため、使用不能となっていた。損害額は約950万円。雪視察団は、上越市や新井市などを訪れて、雪に弱い鉄道の実態と雪害状況の説明や除排雪受けた。が適用された上越地区の5市町村を中心に雪害の情況を視察するため係官を派遣した。一行路除雪や屋根の雪下ろしを視察する予定。業をしていた社員3人の上に隣りの建物の屋根に積もっていた雪約70m³が落下、2人が重傷。男性(27才), 腰に軽いけが。男性(27才)落下して、アーケードを直撃、約30m²が壊れた。通行人は無事であった。利用し、異常な地盤沈下が起きている上越市で道路管理者を集めて、消雪パイプの使用規制保のため、要請が拒否された形で終わった。ど増加、高圧線にのしかかる被害が続出している。東北電力小千谷営業所の集計によると12高压線への倒木は274本。平年で4～5本、59豪雪でも10本前後であった。また、一般家庭日1.5件のペースだが、今冬は7日までに172件で1日12件のハイペース。原因是屋根の雪電柱2本が折れた。議員)が上越市、長岡市などを視察した。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|---------|------|--|
| 1985. 1. 11 | 上越市、新井市 | その他 | 東北電力は豪雪で災害救助法が適用された上特別措置をとることにした。 |
| 1. 12 | 長岡市川辺町 | スリップ | 2時半過ぎ、北陸自動車道上り線で大型トラクタ。大型トラックは雪のためスリップして中 |
| 1. 12 | 長岡市十日町 | 断 線 | 11時20分ごろ、長岡と十日町市間の送電線に、中魚沼郡、北魚沼郡、南魚沼郡、小千谷市な |
| 1. 12 | 栃尾市東が丘 | 屋根雪 | 11時半前、自宅二階屋根で雪下ろし中、足を |
| 1. 12 | 新津市美幸町 | 屋根雪 | 11時半前、雨樋を修理中、屋根から滑り落ち |
| 1. 12 | 糸魚川市水保 | 倒 壊 | 11時50分ごろ、軽量鉄骨平屋建て倉庫1棟66 |
| 1. 12 | 糸魚川市大野 | 除 雪 | 14時ごろ、屋根から下ろした雪の除雪中、雪 |
| 1. 12 | 東頸城郡安塚町 | 除 雪 | 17時前、同町下船倉で、家の前の雪かきをし |
| 1. 12 | 長岡市 | 倒 壊 | 市農政課のまとめによると、これまでに倒壊冬の倒壊は20棟であったが、今冬は2週間も |
| 1. 13 | 中頸城郡柿崎町 | 屋根雪 | 9日、同町上町で自宅屋根の雪下ろし作業中内の人気が探して発見した。道路側が除雪のた |
| 1. 13 | 新潟県 | 列 車 | 国鉄新潟鉄道管理局は、10時から北陸・上越二本木間が第3次運転規制となった。 |
| 1. 13 | 新潟県 | 警 報 | 新潟地方気象台は、14時45分、佐渡を除く県 |
| 1. 14 | 北蒲原郡聖籠町 | 視 界 | 8時過ぎ、同町蓮野の国道345号線で、吹雪じん帯を切るなどのけがをした。追突の際、クはいきなり逃げ、3人は置き去りにされた。 |
| 1. 14 | 新潟県 | 列 車 | 国鉄新潟鉄道管理局は、12時に今冬3回目の雪害た。また、上越線宮内一水上間も第3次から3次規制が続いている。 |
| 1. 14 | 刈羽郡刈羽村 | 雪 崩 | 13時50分ごろ、同村赤田町方の国道8号線崩た。17時に片側が開通した。 |
| 1. 14 | 西頸城郡能生町 | 倒 壊 | 14時ごろ、同町の鉄骨平屋建て紡績工場の屋人が落ちてきた屋根などに当り、顔や頭など |

事 の 内 容

越市、新井市、中頸城郡板倉町、同妙高村、同中郷村の5市町村に対し電気料金の軽減など

ックが普通トラックに追突した。この事故で普通トラックの運転者が腰を打って軽傷を負つ
央分離帯を乗り越えて反対側の下り車線の雪壁にぶつかってようやく止まった。男性(38才)
鉄塔に積もっていた雪が暖氣で緩み、塊となって落ちたため断線した。このため十日町市、
どで8万3千戸が停電し、信号機などが止まった。

滑らせて転落し、左足かかと骨折などで2ヶ月の重傷を負った。男性(76才)

た約3m³の雪の下敷になり首や顔に打撲傷を負った。男性(21才)

m²が屋根に積もった140cmの雪の重みで倒壊した。

壁が崩れて下敷となって全身圧迫で窒息死した。女性(54才)

ていて誤って池に落ちて死亡した。女性(63才)

し、修復不可能となったビニールハウスは380棟、20,500m²で被害額は約2,400万円。昨
の連続降雪で、パイプに付着した雪が落ちず、その重みで倒壊した。

に転落して、脳挫傷で死亡した。女性(65才)、独り暮らしだったため4日後の13日午後、町
め雪壁が高くなり発見が遅れた。

・磐越西線で第2次運転規制。また信越線では直江津一長岡間を第2次、21時から直江津一

内に今冬5度目の大雪警報を発令した。

のため追突事故を起こしたところに、トラックが追突して3人がはねられ、3人は左ひざの
道路左側の雪壁に突込んだトラックを、けがをした3人が手伝って引き出したところ、トラック
男性(19才、36才、38才)

対策本部を設置した。信越線直江津一黒姫間は第5次規制となつたが、午後全面ストップし
第4次規制となり、78本の列車を運休した。羽越・白新・米坂・飯山・磐越西線の各線で第

地峠で長さ10m、幅15m、厚さ2mにわたって雪崩が発生、午後から交通が全面ストップし

根7,500m²のうち、建物中央部2,000m²が雪の重みでつぶれ落ち、中で作業中の従業員8
に1週間から10日のけがを負った。屋根には70～80cmの雪が積もっていた。負傷者 女性

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事 項 | 記 |
|-------------|----------|-----|-------------------------------------|
| 1985. 1. 14 | 長岡市滝谷町 | 踏 切 | (18才, 23才, 29才, 35才, 37才, 43才, 45才) |
| 1. 14 | 岩船郡荒川町 | 転 倒 | 20時50分ごろ, 国鉄上越線の通称新田踏切で, 乗 |
| 1. 14 | 新発田市上中沢 | 踏 切 | 21時15分ごろ, 同町藤沢の国道7号線で, 勤 |
| 1. 14 | 柏崎市原町 | 踏 切 | 折で死亡した. 車は40km/hのスピードで走 |
| 1. 14 | 三条市上保内 | 踏 切 | 21時20分ごろ, 国鉄白新線の通称地蔵踏切で, 乗 |
| 1. 14 | 新潟県 | 休 校 | 21時半ごろ, 国鉄越後線の通称下原街道踏切で, |
| 1. 14 | 新潟県 | 大 雪 | 23時過ぎ, 国鉄信越線の通称新田踏切で乗用車と |
| | | | 県教委の調べでは, 豪雪による授業への影響 |
| | | | 校では始業時繰り下げ1校, 早退7校となっ |
| | | | 年末からの豪雪被害概要について発表した. |
| | | | 町村道の除雪にはすでに54億円を投入, 予算 |
| | | | 住家被害は半壊1棟, 一部損壊29棟, 床下浸 |
| | | | 社会福祉施設の損壊は5件で800万円, 水道 |
| | | | 係では商店損壊28件, 工場損壊45件で8,200 |
| | | | ス2,330棟, 37,000万円などとなっている. |
| | | | 6,000人の児童・生徒が弁当を持参した. |
| 1. 15 | 柏崎市鯨波 | 排ガス | 1時半ごろ, 国道8号線の雪壁に突っ込んだ |
| 1. 15 | 宮城県多賀城市 | 踏 切 | 降り積もり, 排ガスが外にはけず, 車内に入 |
| 1. 15 | 北蒲原郡豊浦町 | 排ガス | 2時45分ごろ, 同市山王字町浦の国鉄東北本 |
| 1. 15 | 見附市昭和町 | 屋根雪 | の特急・急行列車に最高3時間の遅れが出た. |
| 1. 15 | 北魚沼郡湯之谷村 | 流雪溝 | 8時35分ごろ, 町道で乗用車が地吹雪に遭い, |
| 1. 15 | 新潟県 | 列 車 | いるうち, 車が雪に埋まり排ガスが車内に逆 |
| | | | アトの上に転落, 両足首の骨を折って3ヶ月 |
| | | | 12時ごろ, 住宅の屋根の雪下ろしを終え, ア |
| | | | ートの上に転落, 両足首の骨を折って3ヶ月 |
| | | | 15時ごろ, 同村井口新田の国道に沿った流雪 |
| | | | れた. |
| | | | 県内の国鉄は信越線を中心に特急列車10本, |
| | | | 津一黒姫間を16時に第5次から第3次規制に, |

事 の 内 容

男性（25才）。被害額は10億円にのぼる見込み。

用車と快速列車が衝突した。復旧のため上り線は約2時間半不通となった。

め帰りの公務員が雪道で滑って転倒し起き上ろうとしたところ乗用車にはねられ、頭蓋骨骨っていたが、強風による地吹雪で転倒者の発見が遅れた。

用車と回送中の機関車が衝突、乗用車の運転者が顔などに3週間のけがをした。男性（39才）乗用車と普通列車が衝突、列車は現場に約1時間停車した。

貨物列車が衝突、上り線は約1時間不通となった。

が下越を中心に出た。臨時休校3校（高）、始業時繰り下げ12校（高）、早退3校（高）、小中学ている。

1月13日までに屋根からの転落などによる死者26人、重軽傷者93人の犠牲者を出した。県市の70%強を費やし、雪による物的被害額は976,898,000円（1月11日現在）に達した。また、水9棟の39件、非住家半壊以上31件にのぼっている。

施設被害は9町村9水道7,000万円で、7,800戸3万人が減水などの影響を受けた。商工業関万円。農業関係の被害が一番大きく合計で71,000万円。このうち稲作・畜産・園芸のハウ小中高校の校舎被害は38校10,000万円に上り、断水などで22校の小中学校で給食ができず

ライトバンの中で、エンジンをかけたままヒーターで暖をとっているうち、車の周囲に雪がったため一酸化炭素中毒で死亡した。男性（54才）

線山王踏切で特急列車と立ち往生していた乗用車が衝突、約3時間後に復旧したが上下8本乗用車は雪を避けて踏切をわたろうとしたが前輪が脱輪した。

吹きだまりに突っ込んだため自力脱出不能となった。エンジンをかけ放しにして仮眠して流、一酸化炭素中毒で死亡した。男性（20才）

ルミ製のはしごで下りようとしたところ、はしごの足が滑り、3.5m下の玄関先のコンクリの大けがをした。男性（39才）

溝に、近くで遊んでいた小学2年生の女の子が誤って転落したが、10m下流で間一髪救助さ

急行列車9本、普通列車73本の計92本が運休した。また、新潟鉄道管理局では、信越線直江上越線を第4次から第3次規制にしたほか、信越線新潟一直江津間、白新線、磐越西線、米

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事 項 | 記 |
|-------------|-----------|------|--|
| 1985. 1. 15 | 栃尾市滝ノ下 | 流雪溝 | 坂線を第3次規制に切り替えた。越後線は規 18時ごろ、自宅前を流れる流雪溝（幅・高さ m）に流れ出るところを、泣き声を聞きつけ |
| 1. 16 | 十日町市小黒沢 | 視 界 | 18時40分ごろ、県道で前からきた乗用車には 道路の両側は除雪した雪がたまって高さ2m |
| 1. 16 | 東頸城郡松之山町 | 雪 崩 | 20時40分ごろ、松之山温泉街の2ヶ所で雪崩 が10mにわたって遮断されたが、23時ごろ開 |
| 1. 16 | 新潟県 | 休 校 | 雪のため、東頸城郡安塚町の全小中学校（小 小学校3校）が始業時間を遅らせ、小学校3校 |
| 1. 16 | 社会党 | 視 察 | 県社会党・'85豪雪災害調査団（団長 志苦 裕 レーターの確保、災害救助法、同条例の弾力 |
| 1. 16 | 新潟県 | 大 雪 | 今冬県内で豪雪によって命を失った犠牲者は、 た雪によるもの7人、雪崩が2人など。 |
| 1. 17 | 白根市 | 倒 壊 | 7時ごろ、同市の庄瀬農協の機械倉庫の屋根 |
| 1. 17 | 北魚沼郡広神村 | 火 災 | 10時20分ごろ、同村小平尾で木造二階建て住 |
| 1. 17 | 滋賀県犬上郡甲良町 | スリップ | 14時5分ごろ、同町正楽寺の名神高速道路上 追突事故が、合計40台のトラック、乗用車によ |
| 1. 17 | 新井市姫川原 | スリップ | 19時45分ごろ、同町の国道で雪のためトラッ が右足下腿部骨折などの大けがをした。男性 |
| 1. 17 | 新潟県 | 休 校 | 雪のため上越地方の高等学校3校と小学校1 と中学校2校が早退措置をとった。 |
| 1. 17 | 新潟県 | 列 車 | 国鉄新潟鉄道管理局管内の列車規制は、信越線直 岩間、羽越線新津一坂町間、北陸線直江津一 磐越西線新津一喜多方間、米坂線坂町一荻生 |
| 1. 17 | 新潟県 | 血 液 | 県赤十字血液センターでは採血車が降り続く る。 |
| 1. 18 | 新井市朝日町 | 倒 壊 | 10時20分ごろ、木造三階建て店舗兼物置の屋 |
| 1. 18 | 新潟県 | 断 線 | 電々公社新潟電気通信部は、昨年12月25日か |

事 の 内 容

制解除となつたが、只見線、大糸線などは依然第3次から第4次規制が継続された。70cm、水深30cm)に幼女が誤って転落し、約500m流されて、西谷川(川幅60m、水深1m)た通行人が発見、川に飛び込んで救助した。(2才)ねられ、頭の骨を折るなどで死亡した。男性(39才)。事故当時、雪が降って見通しが悪く、の雪壁状になっており、道路も狭くなっていた。が発生、温泉旅館の浴場ガラス窓が破られたほか、乗用車3台が小破した。この雪崩で町道通した。2ヶ所の雪崩は約100m³と20m³であった。(幅20m、長さ50m、深さ1m)学校7校、中学校1校)が臨時休校にしたほか、県内の高等学校(分校)2校、中学校1校、で早退措置をとった。県本部委員長)は、先に行った上越市などの雪害視察に基づいて、君知事に除雪機械のオペレーティング、財源対策など9項目の緊急申し入れをした。県警の調べで1月15日までに28人に達した。内訳は屋根からの転落14人、屋根から落ちてきの一部30m²が雪の重みで陥没した。

宅1棟180m²が全焼した。出火当時家族3人は屋外で雪かきをしていて無事だった。り線約500m区間10ヶ所で吹雪による視界不良、雪によるスリップなどを原因とするって引き起こされた。この事故で1人が内臓破裂で重体のほか、8人が重軽傷を負った。クがスリップして対向車線に入ったところへ大型冷凍車が正面衝突した。トラックの運転者(31才)

校が臨時休校、同地方を中心に高等学校(分校)7校が始業時を遅らせ、高等学校(分校)8校

江津一黒姫間と飯山線十日町一越後川口間が第4次、上越線宮内一水上間、大糸線糸魚川一平糸魚川間が第3次、只見線小出一只見間、信越線新津一直江津間、白新線新潟一新発田間、間で第2次規制が継続されている。

雪のため巡回できず、また、除雪の疲れから協力者が減り気味で深刻な血液不足になつて根約240m²が約1.7mの積雪の重みで崩壊した。

ら今年1月16日までの豪雪による電気通信施設の被害状況をまとめたが、被害のほとんどが

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|-----------|-----|---|
| 1985. 1. 18 | 上越地方 | 除雪機 | 屋根の雪下ろしによる引込み線の断線で6,670 小型除雪機の普及につれ、上越地方で指5本 たケースだけで9件あった。 |
| 1. 18 | 新潟県 | その他 | 新潟労働基準局は、本格的な降雪期を迎えるよう通達、また建設、運送などの労働 |
| 1. 18 | 新潟県 | 列車 | 国鉄の運転規制は、信越線直江津—新津間、 糸線糸魚川—平岩間が第3次、磐越西線新津 このため急行列車、普通列車39本が運休 |
| 1. 19 | 小千谷市 | 大雪 | 昨年12月14日の初雪以来、小千谷市の総降雪 |
| 1. 19 | 新潟県 | その他 | 県豪雪対策本部(本部長 金子副知事)は18日 町、清里村、三和村の8町村への災害救助法 8町村を除く16市町村となった。 |
| 1. 19 | 上越市 | 除雪 | 豪雪に見舞われている上越市高田の市街地で、 |
| 1. 19 | 三島郡越路町 | 大雪 | 大雪のため水道水を消雪に使っていること、 水制限の恐れが出たため、町民に節水を呼び |
| 1. 19 | 岩手県岩手郡滝沢村 | 火災 | 17時半ごろ、同村篠木の小岩井農場内の肥育 た。13台の消防車が出動したが、雪で現場に |
| 1. 20 | 新発田市中央町 | 除雪 | 9時半ごろ、独り暮らしの老女が自宅裏で雪 雪壁を水道の水で消雪していた際、雪壁が崩 |
| 1. 20 | 石川県七尾市 | その他 | 9時半ごろ、同市矢田町緑ヶ丘のため池(水 が水中に落ち、3人は助かったが1人が水死) |
| 1. 20 | 柏崎市安田 | 屋根雪 | 12時ごろ、自宅屋根の雪下ろしをしていた人 傷で3週間のけがをした。男性(56才) |
| 1. 20 | 長岡市 | 雪崩 | 16時45分ごろ、市内で雪害によるとみられる の丘陵部を走る送電線が、雪崩で断線したら |
| 1. 20 | 燕市小池 | 屋根雪 | 17時過ぎ、屋根から洗面器ほどの氷の塊が道 した。女子(11才) |
| 1. 21 | 南魚沼郡六日町 | 屋根雪 | 13時半前、自宅わきの肥料小屋と用水堀の間 |

事 の 内 容

件あった。

切断の小学生など事故が続出し、今冬既に上越市内の病院で縫合手術を受けた人は、確認し

当面の労働災害防止策を急きょ策定、県内の11労基署に対し、関係市町村、商工団体に周知
災害防止団体にも協力をよびかけた。

羽越線坂町—新津間、白新線新潟—新発田間が解除されたが、他は依然として継続中で、大
—喜多方間、只見線小出—只見間、北陸線糸魚川—直江津間が第2次運転規制となっている。
したほか、信越線では列車に1時間余りの遅れが出た。

量は18日9時現在10m12cmを記録した。

10時30分、新たに刈羽郡高柳町、東頸城郡安塚町、浦川原村、大島村、牧村、中頸城郡吉川
の適用を決めた。県下の災害救助法適用は13市町村に拡大された。一方、県災害救助条例は

今冬2度目の一斉雪下ろしの排雪が行われた。

凍結防止のため水を出し過ぎること、蛇口の破損による水漏れなどから、水道使用急増で給
かけた。

舎から出火。木造二階建て1,738m²を全焼、牛17頭(255万円)が焼死、27頭がやけどをし
近づけず、水の便も悪かったため消火に手間どった。

の下敷になって死んでいるのを、頼まれて雪下ろしに来た知人が発見した。死因は窒息死で
れて下敷になつたらしい。事故は19日夕方とみられる。女性(66才)

深約2m)で、池に張り詰めた厚さ約3cmの氷の上を渡っていたところ、突然氷が割れ4人
した。男子(9才)

が、昼食のため屋根から下りる際、ハシゴから足を滑らせ約2.5m下の地面に転落、脊髄損

停電事故が発生し、1,715世帯がおよそ30分、200世帯は約1時間停電した。柄尾—長岡間
しく係員を派遣して調べている。

路に落下、道路で立ち話中の小学生の傘を破り頭に当って、頭部打撲で2～3日のけがを

を除雪中、小屋の屋根から落ちた雪約1m³に押され、用水堀(幅1.5m、深さ1m、水深15

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|----------------|------|-------------------------|
| 1985. 1. 21 | 小千谷市稗生 | スリップ | cm)に転落、死亡した。女性(51才)、溺死。 |
| 1. 21 | 三条市柳川新田 | その他 | 18時ごろ、国道17号線で、大型トラックがス |
| 1. 21 | 国 | 調査団 | 同乗者が胸や足の骨を折る重傷を負った。男 |
| 1. 21 | 長岡市妙見松尾 | 雪崩 | 1週間ほど前に工場の屋根の雪下ろしをした |
| 1. 22 | 山形県西置賜郡 飯豊町 | 屋根雪 | るのを19日午前発見、21日までにはほとんど回 |
| 1. 22 | 長岡市川崎町 | 火災 | 政府は、昨年から豪雪に見舞われている新潟 |
| | | | を23日に派遣することに決めた。 |
| 1. 22 | 新潟県 | その他 | 10時半ごろ、榎峰斜面で全層雪崩が発生、下 |
| 1. 23 | 南魚沼郡六日町 | 屋根雪 | 15時ごろ、同町高峰で、玄関先の除雪作業中、 |
| 1. 23 | 中頸城郡妙高村 | スリップ | 22時45分ごろ、木工所工場一階から出火、鉄 |
| 1. 23 | 五泉市五十嵐新田 | スリップ | なって囲んでおり、一階の窓から入ることが |
| 1. 24 | 長野県東筑摩郡 波田町 | スリップ | 害は約2,000万円。 |
| 1. 24 | 上越市薄袋 | 火災 | 東北電力は、豪雪に伴う災害救助法の適用を |
| 1. 24 | 長岡市大町 | スリップ | にした。 |
| 1. 24 | 上越市島田 | 屋根雪 | 14時過ぎ、同町伊勢町の役場バス車庫の屋根 |
| | | | ヶ月の重傷を負った。男性(66才) |
| | | | 17時30分ごろ、同町関山の国道18号線で、ス |
| | | | 足に軽い打撲傷を負った。男性(54才) |
| | | | 20時半前、県道で自転車を引いて道路を渡ろ |
| | | | ていたため急ブレーキをかけたが間に合わな |
| | | | 1時5分ごろ、同町下原の県道で乗用車が道 |
| | | | ていた。車は横すべりした状態で激突してい |
| | | | 6時半ごろ、事務所兼整備工場から出火、鉄 |
| | | | て出ないため燃え広がった。 |
| | | | 8時半ごろ、市道のカーブでトラックが約10 |
| | | | けがをした。 |
| | | | 17時00分(推定)、本堂裏の屋根からつき出し |
| | | | なり窒息死した。男性(73才) |

事 の 内 容

リップして対向車線に進入して、反対方向から来た輸送車と正面衝突し、輸送車の運転者と性(45才、52才)

が、その雪の重みで油送管が折れ、重油約3,000ℓが付近の水田約10アールに流れ込んでいた。

県の被災状況を掌握するため、河本国土府長官を団長とする政府調査団(関係11省庁で構成)

の国道17号線が約22mにわたり230m³の雪、土砂、えぐられた雑木で埋った。

屋根に積もっていた約60cmの雪が落下して、下敷になって窒息死した。女性(62才)

筋一部二階建て467m²を全焼した。焼けた工場は屋根から下ろした雪が高さ3mもの壁にできず、雪の壁にハシゴを立て掛け、二階に上がって消火活動を行うなど困難を極めた。損

新たに受けた8町村で、家屋の被害に遭った家庭に対し電気料金の軽減措置などをとること

の雪下ろし作業中、誤って足を滑らせ、5m下のアスファルト面に転落、腰の骨を折って2

リップして倒れたバイクを起こそうとしていたところ、通りかかった乗用車にはねられ、手

うとしたところ乗用車にはねられ、頭部打撲、右足骨折などの重傷を負った。路面が凍結しかった。男性(52才)

路わきの電柱に激突、2人が頭を打って死亡した。男性(19才、21才)。当時、路面は凍結した。

骨2階建ての事務所部分440m²が焼けた。消火にあたろうとしたが、表の水道が凍ってい

mスリップして対向のマイクロバスに衝突、マイクロバスに乗っていた園児2人が額に軽い

た雪を下からつづつ落としていた住職が、急勾配の屋根から落下した大量の雪の下敷と

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|---------|------|--|
| 1985. 1. 25 | 村上市岩船 | スリップ | 1時ごろ、乗用車が国道7号線でスリップ事(47才) |
| 1. 25 | 三島郡越路町 | 除雪 | 5時ごろ、自宅裏の雪壁を除雪中、消雪用散明で発見され病院に収容された。女性(58才) |
| 1. 25 | 長岡市長町 | 屋根雪 | 12時前、三階建て事務所の屋上で除雪作業中、 |
| 1. 25 | 豊栄市横土居 | スリップ | 12時35分ごろ、国道345号線のカーブでスリ1人が顔と右足を打って軽傷、1人は胸の強 |
| 1. 25 | 新潟県 | 警報 | 12時50分、新潟地方気象台は、上・中越地方 |
| 1. 25 | 豊栄市嘉山 | スリップ | 13時35分ごろ、市道が地吹雪で見通しが悪く運転者が右足の骨を折って2ヶ月の重傷。男 |
| 1. 25 | 北蒲原郡豊浦町 | スリップ | 15時過ぎ、竹俣万代の県道で、対向してきた~40cmの圧雪があった。この事故で1人が |
| 1. 25 | 国 | その他 | 河本国土府長官は閣議で、今冬の信越地方を報告するとともに、除排雪の円滑な実施な |
| 1. 26 | 糸魚川市根小屋 | 雪崩 | 6時40分ごろ、通称榜岩付近の糸滝洞門と唐の雪崩で、トラックとタンクローリー車が雪このため根小屋一平岩間約8kmが全面通行 |
| 1. 26 | 南蒲原郡下田村 | 除雪 | 7時ごろ、同村荒沢で自宅前をスノーダンプて発見された。女性(51才)、溺死。 |
| 1. 26 | 南魚沼郡塩沢町 | 除雪 | 15時前ごろ、同町五郎丸の関越自動車道の上の3台に次々追突した。また、同時刻ごろ同の軽傷を負った。 |
| 1. 26 | 新潟県 | 列車 | 国鉄新潟鉄道管理局は、午前中共通一次試験の受らは排雪作業が進み、ダイヤは復旧した。同から第3次規制を第4次規制に切り替えた。 |
| 1. 27 | 北蒲原郡笛神村 | 爆発 | 8時15分ごろ、同村山倉村の小学校の一階ボ窓、ドアなどが損壊し、廊下の窓ガラスがが雪の圧力でずれ、漏れたガスが空洞になっ |

事 の 内 容

故を起こし、対向してきたタクシーに側面衝突して、左あご打撲の軽傷を負わせた。男性

水ノズルでできた雪の穴（直径50cm、深さ1.5m）に誤って頭から転落、約1時間後意識不

雪庇を踏みはずして約8m下の雪の上に転落、全身打撲の重傷を負った。男性（43才）
アップしたトラックが対向してきたタンクローリー車に正面衝突、両方の車の運転席が大破し、
打と右手首骨折などで重傷。男性（26才、27才）

に今冬7度目の大雪警報を出した。

なっていたため、双方の発見が遅れ、ブレーキをかけたがスリップして衝突した。乗用車の
性（29才）

トラックを避けるため急ブレーキをかけたトラックがスリップして正面衝突した。現場は30
左足骨折、1人は内臓損傷で2ヶ月の重傷を負った。男性（45才、54才）

中心とした日本海側の豪雪について、死者・行方不明者が50人に達しているなどの被害状況
など民生の安定対策に万全を期する必要があると説明、関係省庁の協力を要請した。

沢洞門の間約140mにわたって表層雪崩が発生、押し出した雪が国道148号線を埋めた。こ
に突っ込んだため、運転者が洞門内に退避中、新たに雪崩が発生して2台とも雪に埋まった。
止となり復旧には2～3日かかる見込み。（28日17時に解除された。）

で除雪中、誤って用水路（幅1.5m、深さ1m、高さ2m）に転落、3km下流で死体となっ

り線で、普通トラックが除雪のため停車していたライトバンに追突、はずみで前方に停車中
現場から50m後方でも5台が玉突き追突した。この事故で3人がムチ打ち症、顔や手などへ

駿生のため、朝の通学列車を3本運転しただけで、すべての区間運休した。しかし、午後か
日の運休は信越線で特急など11本、飯山線で8本、大糸線で6本の合計25本、大糸線は12時

ンプ室で爆発が起り、鉄筋コンクリート三階建て校舎のうち、一、二、三階の10室の天井、
200枚近くこなごなに吹っ飛んだ。同校では外にプロパンガス庫があるため、ガス管の継目
た側溝から排水管を伝ってポンプ室に充満し、引火して爆発した。

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事 項 | 記 |
|-------------|-------------|------|---|
| 1985. 1. 27 | 南蒲原郡下田村 | そり遊び | 11時ごろ、同村長野の寺の境内で、スノーボード骨折の重傷を負った。男子(6才) |
| 1. 27 | 長野県下高井郡山之内町 | スキー場 | 11時半ごろ、同町平穏の志賀高原焼額山スキーリゾートで、スキーによる転倒死。 |
| 1. 27 | 新井市上馬場 | 除 雪 | 18時40分ごろ、一人でスキーに出かけたままいるのが発見された。病院に収容されたが、ており、雪の陰にいた小学生に気づかず雪を |
| 1. 28 | 長野県長野市 | スリップ | 5時40分ごろ、同市信更町下平の国道19号線にいた46人のうち男性11人、女性14人の合計25人が雪道によるスリップ可能性が高く、県警 |
| 1. 28 | 山形県新庄市 | 排ガス | 7時ごろ、同市城西町でヒーターと外壁の間で一酸化炭素中毒死した。 |
| 1. 28 | 小千谷市塩殿 | 雪 底 | 8時過ぎ、国道117号線で、同国道をまたぐつぶされ運転者は背骨を折るなど重傷を負った。 |
| 1. 28 | 柏崎市幸町 | そり遊び | 16時ごろ、自宅前でソリ遊びをしていて誤って転落死。 |
| 1. 28 | 新潟市 | スリップ | 23時25分ごろ、同市内野町の県道でスリップによる転倒死。 |
| 1. 29 | 見附市鹿熊町 | スリップ | 8時10分ごろ、県道でライトバンが圧雪でスリップする。 |
| 1. 29 | 糸魚川市小滝 | 雪 崩 | 10時前、国鉄大糸線の小滝一根知間で表層雪崩による転倒死。 |
| 1. 29 | 北魚沼郡堀之内町 | 除 雪 | 15時50分ごろ、駅前町道の除雪作業で雪を積み上げる。 |
| 1. 29 | 北魚沼郡小出町 | 屋根雪 | 16時ごろ、同町青島で自宅の屋根の雪下ろし屋根雪崩による転倒死。 |
| 1. 29 | 西蒲原郡弥彦村 | 断 線 | 夜、同村矢作で広域農道を横断する市外電話戸が市外通話不能となった。(30日1時20分) |
| 1. 30 | 糸魚川市山之坊 | 雪 崩 | 4時ごろ、国道148号線の通称熊追付近で表層雪崩による転倒死。(31日8時、28時間ぶりに解除) |
| 1. 30 | 長岡市 | 雪 崩 | 8時ごろ、同市濁沢町の県道柏崎一高浜一堀之内町付近で表層雪崩による転倒死。 |
| 1. 30 | 山形県新庄市 | スリップ | 8時50分ごろ、同市鳥越の県道でマイクロバスによる転倒死。 |
| 1. 30 | 南魚沼郡湯沢町 | 除 雪 | 11時前、同町神立のホテルの駐車場で、雪に重傷を負った。男性(53才) |

事 の 内 容

ートに乗って遊んでいた園児が雪の山から滑り降りた勢いで道路に出て乗用車にひかれて左

一場で、スキーヤーが立ち木に激突して頭の骨を折るなどで即死した。男性(29才)
帰らない小学生が、自宅から約100m離れた県道脇の雪捨て場で約2mの雪の下に埋もれて
23時ごろ急性心不全のため死亡した。現場では14時過ぎからブルドーザーが県道の排雪をし
押したために下敷になったか、雪の塊が自然に崩れ落ちたか調べている。

でスキーバスが左の急カーブを曲り切れず、約5m下の犀川のダム湖に転落、バスに乗って
人が死亡、自力で脱出して救助された21人のうち8人が約1週間の打撲傷を負った。この事
では雪道での安全速度を守らなかった運転ミスとの見方をしている。

にある排気口の煙突がはずれ、排ガスが室内に漏れたため、家族5人が一酸化炭素による中

農道橋(長さ32m、幅4.3m)の雪庇約1m³が走行中のトラックの運転席に落下、運転席が
た。男性(42才)

て交叉点に滑り出しマイクロバスにはねられ頭、腰などのけがで重体。女児(6才)
した乗用車にはねられ首の骨を折って即死した。男性(39才)

リップして、登校中の児童8人の列に突っ込み、児童1人が左足に1週間のけがをした。男子(8才)
崩が発生、10時以降、上下線とも区間運休した。(30日の14時復旧した。)

み込むためバックしていた大型ダンプカーに老人がひかれて即死した。女性(74才)
作業中、誤って約5m下の雪の上に転落、右肩に軽いけがをした。男性(37才)

回線の地下パイプに入り込んだ水が凍結、ケーブルを圧迫したため絶縁不良を起こし、2,400
に復旧した。)

層雪崩が発生、小滝一平岩間9kmが全面通行止となった。同区間の雪崩による通行止めは
された。)

之内線で、長さ30m、幅5m、深さ2.5mの表層雪崩が発生、一時通行止となった。

スがスリップして大型バスと正面衝突、13人が足などに1週間程度のけがをした。事故当時
新雪があり、滑りやすい状態であった。

滑って転倒した人がバックしてきた除雪中の大型除雪車にひかれて、腰の骨を折る3ヶ月の

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事 項 | 記 |
|-------------|----------------|-----|---|
| 1985. 1. 30 | 新井市下平丸 | 雪 崩 | 20時ごろ、自宅から約600m離れた裏山の斜 ンぶきのシイタケ栽培所4棟のうち1棟170 |
| 1. 30 | 新潟県 | 列 車 | 県内の国鉄運転規制は信越線黒姫—長岡間で のため運休列車は特急・急行・普通列車33本 |
| 1. 31 | 中頸城郡大潟町 | 列 車 | 10時半ごろ、国鉄信越線大潟町駅構内で、特 |
| 1. 31 | 中頸城郡妙高村 | 火 災 | 11時ごろ、同村関山で木造二階建住宅58m ² |
| 2. 1 | 山形県長井市 | 屋根雪 | 8時半ごろ、同市寺泉で自宅裏のお堂の屋根 ため転落、約2m下のコンクリートブロック |
| 2. 1 | 糸魚川市大所 | 踏 切 | 11時半前、国鉄大糸線葛葉踏切で、乗用車と は冬季間、降雪のため遮断機をとりはずして |
| 2. 1 | 西蒲原郡潟東村 | 屋根雪 | 12時00分(推定)、自宅わきの作業所下屋の屋 転落、そのまま雪に埋まって窒息死した。男 |
| 2. 1 | 燕市東太田 | 融 雪 | 14時半すぎ、下水道工事現場で雪の上に置い 胸部肋骨骨折による心臓圧迫で死亡した。男 |
| 2. 2 | 北海道美唄市 西美唄町 | 火 災 | 5時20分ごろ、同町元村四区で木造一部二階 市道には両わきに1mの雪が積み上げられ、 |
| 2. 2 | 新井市大沢新田 | 除 雪 | 16時ごろ、自宅前で除雪中、約2mの雪壁の 男性(60才) |
| 2. 3 | 中蒲原郡村松町 | 屋根雪 | 11時30分ごろ、自宅裏の作業小屋の軒下で除 |
| 2. 3 | 糸魚川市釜沢 | 倒 壊 | 14時半前、木造二階建て倉庫兼車庫約79m ² 当)が壊れた。 |
| 2. 3 | 西頸城郡青海町 | 雪 崩 | 14時半前、同町市振の通称三段滝洞門の国道 になった。 |
| 2. 3 | 新井市五日市 | 屋根雪 | 15時30分(推定)、自宅の車庫の軒下を除雪中、 |
| 2. 3 | 中頸城郡妙高村 | 屋根雪 | 16時半ごろ、同町関山でスノーダンプを使っ て水を飲み窒息死した。男性(42才) |
| 2. 3 | 西頸城郡青海町 | 雪 崩 | 18時過ぎ、同町歌の国道8号線、深谷洞門付 |
| 2. 3 | 白根市新飯田 | 除 雪 | 19時ごろ、自宅道路わきの約2mの雪の下に |

事 の 内 容

面で、長さ150m、幅50m、厚さ3mにわたって約22,500m³の全層雪崩が発生、鉄筋トタ
m²が押しつぶされた。

第3次、羽越線新津一坂町間で第2次、飯山線越後川口一十日町間で第4次がとられた。こ
となり、また信越・羽越線で1時40分から1時間前後の列車の遅れが続いた。

急列車が雪に乗り上げ、先頭車両の前2軸が脱線した。15時25分まで不通となった。

が全焼、隣の住宅の外壁を焦した。出火当時、家人2人は家の前を除雪中だった。

にハシゴをかけて雪下ろしをしていたが、屋根から落ちてきた雪に押されてハシゴが傾いた
で頭を打ち、外傷性脳挫傷で死亡した。男性(66才)

普通列車が衝突、乗用車は大破、列車は50分遅れた。雪壁のため視界がきかなかった。踏切
あった。

根の雪止めを取りはずす作業中、作業所母屋から落ちてきた約10m³の雪のため2.2m下に
性(51才)

た穴堀り用の重さ3トンのバケットが、雨で下の雪がとけたため倒れて、作業員が挟まれ、
性(53才)

建て住宅が全焼、就寝中の一家6人のうち5人が焼死した。出火当時は吹雪で、住宅北側の
消防車1台がやっと通れるくらいで消火に手間どった。

上から誤って幅50cm、水深30cmの用水に転落、ショックによる急性心不全のため死亡した。

雪中、落ちてきた雪の下敷になって死亡した。男性(54才)

が屋根に積った約1.1mの雪の重みで倒壊、中にあった軽自動車、農機具など(約70万円相

8号線で表層雪崩が発生、約50mにわたって雪が道路をふさいだ。16時過ぎまで全面通行止

屋根から自然落下した雪の下敷になって窒息死した。男性(55才)

て自宅の屋根の雪下ろし中、誤って約6m下の用水(幅70cm、深さ10cm)に転落、気を失

近で雪崩が発生、雪が同国道を10mにわたって埋めたため、約1時間半全面通行止になった。
なっている植木を堀り出していたところ、崩れた雪の下敷になって窒息死した。男性(74才)

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|----------------|------|--|
| 1985. 2. 3 | 上越市大町 | 倒 壊 | 23時半ごろ、木造一部二階建て倉庫75m ² が、 |
| 2. 3 | 科学技術庁 | 視 察 | 科学技術庁長官が国会の合間を縫って雪害実 |
| 2. 4 | 秋田県仙北郡 田沢湖町 | 雪 崩 | 7時50分ごろ、同町志渡内の国鉄田沢湖線志時過ぎ復旧したが、普通列車2本運休、特急 |
| 2. 4 | 中頸城郡妙高村 | スキー場 | 9時ごろ、同町関山の熊堂スキー場で、スキ時過ぎ出血によるショックで死亡した。女性 |
| 2. 4 | 青森県上北郡上北町 | 列 車 | 10時10分ごろ、同町上野南谷地の国鉄東北本この事故で急行列車が4時間22分遅れたほか、 |
| 2. 4 | 村上市四日市 | スリップ | 21時半前、国道75号線で道路わきの雪に突っ臓破裂で即死、1人が右足骨折の重傷を負っ路面も凍っていた。 |
| 2. 4 | 自民・園芸振興県議連 | 視 察 | 自由民主党の果樹・花木関係県議で組織するいる白根市や新津市などの下越地区を視察し |
| 2. 5 | 糸魚川市根小屋 | 雪 崩 | 2時ごろ、国道148号線の糸滝洞門付近で表 |
| 2. 5 | 糸魚川市小滝 | 雪 崩 | 2時ごろ、国道148号線の小長瀬洞門付近で |
| 2. 5 | 新津市日宝町 | 屋根雪 | 9時55分ごろ、同市立東保育園の木造平屋建雪で肋骨7本を折って2ヶ月の重傷。(女性55 |
| 2. 5 | 新潟市 | 寒 波 | 記録的な寒波に見舞われている県内で水道管道管の破裂事故は1,539件発生している。 |
| 2. 5 | 新潟地方同盟 | その他 | 新潟地方同盟(今井甚一会長)は、君知事に対 |
| 2. 6 | 北魚沼郡広神村 | 雪 崩 | 2時過ぎ、国道352号線小平尾一滝之又間でとなつたが6時に復旧した。 |
| 2. 6 | 糸魚川市根小屋 | 雪 崩 | 7時10分ごろ、国道148号線の唐沢洞門と糸ら崩れ落ちた約45m ³ の雪の塊が走行中のタ |
| 2. 6 | 山形県山形市 蔵王温泉 | 屋根雪 | どに1週間の切り傷を負ったほか、タンクロ17時10分ごろ、表に出たところ二階の屋根か人に2回目の氷雪が落下し、7人が下敷とな |
| 2. 6 | 糸魚川市東中 | 屋根雪 | 17時30分ごろ、自宅前で除雪作業中、屋根か |

事 の 内 容

雨を含んで重くなった屋根上の約1mの雪の重みに耐え切れなくなって倒れた。

験研究所を視察した。(所在地: 新潟県長岡市栖吉町字前山187-16)

渡内信号所近くで、長さ10m、幅4m、厚さ1mにわたって雪崩が発生線路をふさいだ。11列車2本、普通列車2本に影響が出た。

一客がゲレンデ整備用の圧雪車にひかれて、骨盤骨折やぼうこう破裂などの大けがをし、18(45才)

線上北町駅構内の上り踏切で、回送列車が線路上に積った雪に乗り上げ脱線、不通になった。上下10本の列車が1時間40分から17分遅れた。14時35分復旧した。

込んだ車の引き出し作業をしているところへ、トラックがスリップして突っ込み、1人が内た。男性(死亡・32才、重傷・28才)。事故当時、現場は濃霧で視界が10m前後だったうえ、

園芸振興議員連盟(岩村卯一郎会長)は、異常豪雪で果樹、施設野菜などに大きな被害が出てた。

層雪崩が発生、全面通行止めになったが9時に復旧した。

表層雪崩が発生、全面通行止めになったが9時に復旧した。

て物置の屋根の雪をスコップで落としていたところ、高さ2mの屋根から落ちてきた5m³の才)

の凍結・破裂事故が相次いでいるが、新潟市内では59年12月25日から60年1月31日までに水

して、雪害減税の実現など8項目22点の申し入れを行った。

雪崩が発生、600m³の雪が長さ40mにわたって国道をふさいだ。このため国道は一時不通

滝洞門の間で融雪雪崩が発生、約60m³の雪が国道をふさいだ。このうち斜面80mの高さからクローラー車を直撃、フロントガラスを破って一部が運転席に飛び込み、運転者が顔や胸なリーカー車の計器類など約200万円の損害。男性(41才)

ら落ちてきた氷雪の下敷になり1人が頭の骨を折って死亡。男性(29才)。救助に当っていたり2人が頭蓋骨骨折で重傷。男性(19才、20才)。5人が顔などに軽傷を負った。

ら落ちてきた約8m³の雪の下になり、全身打撲で21時半前に死亡した。女性(58才)

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|-----------|------|---|
| 1985. 2. 6 | 新潟県 | その他 | 県豪雪対策本部(本部長・金子副知事)は、上用した。 |
| 2. 7 | 西蒲原郡味方村 | 屋根雪 | 16時過ぎ、同村白根で屋根の雪下ろし中、滑僚が5分後に掘り出したため1週間の打撲症 |
| 2. 7 | 糸魚川市 | 雪崩 | 国道148号線小滝一平岩間は、雪崩の発生し滝間は18時から7時までの夜間は通行止とし |
| 2. 7 | 新潟県 | その他 | 県は今冬の異常豪雪に伴う除雪経費として、 |
| 2. 8 | 東頸城郡浦川原村 | 除雪 | 13時半前、同村中猪子田の工場敷地内で、除れ、ももを切ったうえ骨折する重傷を負った。 |
| 2. 8 | 長岡市 | 森林 | 今冬の雪で中越各地の杉林が大きな被害を受に例のない規模となっている。 |
| 2. 9 | 宮城県仙台市坪沼 | スリップ | 7時25分ごろ、東北自動車道下り線の4ヶ所が降り続き、同自動車道の路面の雪はシャー車もスリップして事故が重なった。 |
| 2. 9 | 宮城県白石市越河 | スリップ | 12時45分ごろ、東北自動車道下り線で大型トライ後続の車6台が玉突き衝突した。この事頭の骨を折って重体。 |
| 2. 9 | 岩手県岩手郡岩手町 | 視界 | 13時半ごろ、同町沼宮内の国道4号線でバス圧雪状態で、道路標示は雪に隠れ、降雪で視 |
| 2. 9 | 栃木県日光市 | 雪崩 | 13時45分ごろ、同市細尾の上り第2いろは坂後に復旧したが、道路は大渋滞が続いた。 |
| 2. 9 | 西頸城郡青海町 | 雪崩 | 15時ごろ、同町大沢の山中で発生した雪崩で、が、17時50分に復旧した。 |
| 2. 9 | 新井市小出雲 | 浸水 | 16時ごろ、片貝川(幅約10m、深さ3m)が、下浸水した。 |
| 2. 9 | 上越市中ノ俣 | 浸水 | 16時半ごろ、中ノ俣川(幅約5m)が雪で埋ま10日未明におさまった。 |
| 2. 9 | 岩手県花巻市 | 空港 | 19時ごろ、花巻空港に着陸したDC 9旅客機 |

事 の 内 容

越地方を中心とする降・積雪状況から、上越市など15市町村に対し再度県災害救助条例を適

り落ちた雪とともに約5m下に転落、さらに、その上に落ちた約1mの雪に埋まったが、同
で助かった。男性(64才)

やすい状態になったため、7日18時から15日12時まで全面通行止とした。また、根小屋一小
た。

22億4,725万円を専決した。

雪のため小型ロータリー除雪車を移動させていたところ、誤って右足が除雪機の回転部に触
男性(50才)

けた。同市の各地の森林組合がまとめた被害面積は750ha、折れた杉は約8,500本と過去

でトラック・乗用車など10台が衝突した。この事故で6人が重軽傷を負った。明け方から雪
ベット状になっており、いずれの事故も発端は雪によるスリップで、衝突を避けようとした

ラックが雪でスリップして乗用車に追突、乗用車は路肩に停車中の乗用車にぶつかった。さ
故でチェーンを巻くため車外に出ていた停車中の車の運転者がガードレールと車の間にはざまれ、

と大型トラックが衝突、バスの乗客15人が顔や腰を打って1～2週間だけがをした。路面は
界も悪かった。

明智平付近で雪崩が発生し、約100m³の雪が道路をふさぎ通行不能となった。約2時間半

特別高圧線(6万V)送電鉄塔が倒壊し、富山県朝日町の全域と青海町の約150戸が停電した

雪解け水の増水と川への排雪のためあふれ出し、小出雲3丁目、中央町で約40戸が床上、床

っていたところへ雨水と雪解け水が出たためにあふれ、2戸が床上、4戸が床下浸水した。

が、滑走路を外れ右側の着陸帯に突っ込んで車輪がこわれたが、乗員乗客(125人)は全員無

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|-----------------|-------|---|
| 1985. 2. 10 | 刈羽郡高柳町 | 浸水 | 事であった。事故当時の視界は2kmで、滑 |
| 2. 10 | 新井市猿橋 | 浸水 | 3時半ごろ、同町岡野町の中倉川が雪解け水未明、長沢川の水があふれ、5世帯が床下浸 |
| 2. 10 | 新井市長沢 | 浸水 | 未明、長沢川の水があふれ、4世帯が床下浸 |
| 2. 10 | 新井市下濁川 | 浸水 | 未明、馬場川の水があふれ、農協が床下浸水 |
| 2. 10 | 中頸城郡妙高村 | 浸水 | 未明、土路川の水があふれ、豊葦地区の8世 |
| 2. 10 | 中頸城郡板倉町 | 浸水 | 未明、同町久々野の大熊川の水があふれ、工 |
| 2. 10 | 北海道札幌市 定山渓温泉 | 除雪 | 9時15分ごろ、同温泉東3丁目の国道230号 めあけてあった直径65cmのマンホールに落 しただけで、無事救出された。男子(5才) |
| 2. 10 | 北海道茅部郡森町 | 列車 | 12時25分ごろ、国鉄函館本線石倉駅構内で、 とラッセル車は一部破損、乗客13人が座席に まっていたが、駅長が2番線のラッセル車が |
| 2. 10 | 東頸城郡牧村 | 避難 | 飯田川が融雪による増水で警戒水位を超えた 道405号線が1.1kmにわたって通行止めと |
| 2. 10 | 西頸城郡能生町 | 土砂崩れ | 14時半ごろ、鬼伏地内の国道8号線で土砂崩 なった。 |
| 2. 11 | 長岡市片田町 | 消雪パイプ | 9時過ぎ、市道T字路交叉点で消雪パイプを (19才、56才) |
| 2. 11 | 山形県山形市 蔵王温泉 | スキー場 | 10時55分ごろ、蔵王スキー場の蔵王スカイケ なり、スキー客80人が閉じこめられた。約100 |
| 2. 11 | 長野県上水内郡 戸隠村 | スキー場 | 12時10分ごろ、国設戸隠村営スキー場で、リ に振り落とされた。この事故で1人が肋骨を |
| 2. 11 | 中頸城郡板倉町 | 凍死 | 16時過ぎ、同町猿供養寺で、自宅から500m |
| 2. 13 | 南魚沼郡湯沢町 | 列車 | 未明、国鉄上越線越後湯沢駅構内で、列車か 転落、はい上ろうとしたところ、乗って来た |
| 2. 13 | 新潟県 | その他 | 今冬の異常豪雪に対する国の財政措置を求める など関係各省庁に陳情した。 |

事 の 内 容

走路は除雪されていたが、周辺には30cmの積雪があった。
であふれ住宅2戸が床上浸水した。
水し、車5台が水没した。
水した。
した。県道上小沢一北条線の大濁地内約1kmが夕方まで通行止めになった。
帶が床上・床下浸水した。
場と倉庫2戸が床上浸水した。
線のバス停近くで、除雪のため車道と歩道の間に積まれた雪山で遊んでいるうち、排雪のたち、直径50cmの下水管の中を約1.5km下流の下水処理場まで流されたが、右大腿部を骨折

停車中の小型ラッセル車に特急列車が追突、約150m走って止まった。この事故で特急列車頭をぶつけるなどして軽傷を負った。同駅構内の2番線と3番線にそれぞれラッセル車が止発車したのを、3番線のラッセル車が発車したと錯覚、3番線に特急列車を進入させたため、12時50分に流域の同村落田、宮田の2地区36世帯に避難勧告が出され、同川に沿う国なった。消防団員80人が出動、川の雪を機械排雪した結果、17時に避難勧告は解除された。これが発生、約10m³の土砂が山側車線を埋めた。なお崩れる危険があるため全面通行止めと

修理中、ライトバンにはねられ1人が左肋骨骨折、1人が左足首骨折の重傷を負った。男性

一ブルで、突風のため鉄塔の滑車からワイヤが外れ、上・下56台のゴンドラが宙づり状態と人が救助活動に当り2時間45分後までに全員地上に収容した。

フトのワイヤが突風にあおられて支柱の滑車からはずれ、スキーヤー6人が約5m下の雪面折るなど1ヶ月のけが(男性・42才)、1人が右腕に軽いけがをした(女性・28才)。

離れた猿又川(幅5m、水深50cm)に誤って転落、死亡(水死か凍死)した。男性(42才)らあわてて降りようとして、誤ってホーム反対側のドアから流雪溝(幅60cm、深さ1m)に列車が発車、左足をひかれさらに100m流されて救助された。左足ヒザ下切断。男性(23才)るため県議会克雪対策特別委員会(馬場潤一郎会長)の12人が上京、建設・自治・大蔵・農水

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|----------------|---------|---|
| 1985. 2. 14 | 東頸城郡牧村 | 地すべり | 6時半ごろ、同村池舟地内で地滑りがあり避難した。付近は雪のため亀裂がどこまで |
| 2. 14 | 小千谷市船岡町 | 火 災 | 12時過ぎ、木造一部二階建て82.5m ² を全焼。部屋まではい出して来たが間に合わず焼死し |
| 2. 14 | 北魚沼郡守門村 | 除 雪 | 14時半ごろ、破間川堤防で10トンダンプカーの上へ雪が落下、運転者が雪の下敷になり肋 |
| 2. 14 | 糸魚川市 | 雪 崩 | 雪崩の危険のため7日夕方から全面通行止めとなった。 |
| 2. 15 | 長岡市三俵野町 | 屋根雪 | 7時ごろ、自宅の壊れた屋根の雪どよ(雨樋) |
| 2. 15 | 西頸城郡青海町 | 土 崩 砂 れ | 18時半ごろ、同町玉の木国道8号線山側の南た、住家5棟、神社・寺・空家などの非住家とみられている。町は19時に災害対策本部を |
| 2. 16 | 西頸城郡青海町 | 土 崩 砂 れ | 新潟大学積雪地域災害研究センターの藤田至があり、そこに融雪水が浸透したのが引き金 |
| 2. 17 | 長野県北安曇郡 白馬村 | スキー場 | 同村八方の八方尾根スキー場で、スキーの板で死亡した。男性(22才) |
| 2. 18 | 栃尾市小貫 | 凍 死 | 7時半ごろ、自宅横を流れる用水堀に誤って |
| 2. 19 | 山梨県巨摩郡長坂町 | 列 車 | 20時過ぎ、同町の国鉄中央線の電源用高圧線た、甲府—長野・富士見間で19日夜から20日となり、特急・急行・普通列車計12本が運休、 |
| 2. 19 | 西頸城郡青海町 | 避 難 | 地すべり警報機が異常を記録し、熱田山中腹194人に避難勧告を出した。 |
| 2. 20 | 中越地方平野部 | 森 林 | 中越地方の平野部で、15~30年生の杉の木が |
| 2. 20 | 中頸城・東頸城 | 森 林 | は12月末から1月にかけて一気に2mの雪が今冬の豪雪による杉の幹折れ現象など例年に |
| 2. 20 | 西頸城郡青海町 | 避 難 | 樹木に付着し、重みを増していった。普通町は15日19時15分に避難勧告が出ている11世 |
| 2. 21 | 新潟市小針南台 | 踏 切 | 19時40分ごろ、国鉄越後線小針第一踏切で、 |

事 の 内 容

り、住宅の床下の地面に幅15cm、深さ90cmの亀裂が走っていたため、一家3人が夕方まで続いているか不明。

家の周囲は雪に閉ざされ、唯一の逃げ口となる玄関付近に先に火が回ったため、玄関わきのた。女性(74才)

に積んだ約7m³の雪を堤防下へ捨てたところ、堤防下で排雪作業をしていたブルドーザー骨を6本折って重傷。

となっていた国道148号線の小滝一平岩間約10kmが7時から18時までの昼間だけ通行可能

を修理中、誤って3m下に転落、首骨折などで死亡した。男性(64才)

斜面で土砂崩れが発生、5世帯21人が下敷となり、10人が死亡、4人が重軽傷を負った。ま9棟が全壊、住家2棟が半壊した。融雪水が引き金となって斜面が滑落した典型的な地滑り設置し、19時15分に11世帯48人に避難勧告を出した。

則、茅原一也、青木滋の三教授は玉の木の被災現地を調査し、長い間地下水がたまつた下地になったと分析している。

をはずそうとして転倒、頭を強く打って意識不明になっていたが、18日6時半くも膜下出血

転落、凍死した。男性(67才)

が雪のため切斷され、穴山一長野・富士見間の6駅で停電、信号機が作動しなくなった。また10時半にかけて、雪による倒木で2ヶ所にわたり架線が切斷された。このため同区間が不通計15本の列車に最高14時間10分から15分の遅れが出た。20日13時過ぎに復旧した。

に数本の亀裂が発生、時間とともに大きくなっているため、22時15分、町は残る51全世帯、

幹の中ほどから折れる被害が続出している。例年1.5mほどしか雪が積もらないのに、今冬降り、気温が低く風もなく枝に積もった雪が落ちなかった。

ない山林被害が各地で多発している。この冬は年末に北西の季節風もなく、降った雪が次々は強い風が適当に吹いて落雪するものだが、今冬は樹木に付着したままだった。

帶48人を除く全世帯の避難勧告を6時50分に解除した。

普通列車と乗用車が衝突、運転者が死亡した。男性(51才)。事故当時はうっすらと雪が積も

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事 項 | 記 |
|-------------|-----------|------|--|
| 1985. 2. 22 | 柏崎市米山台 | スリップ | っていた。乗用車は前輪がスパイクタイヤで8時ごろ、国道8号線を登校中の生徒が、雪子(13才)。事故当時は吹雪だった。 |
| 2. 22 | 南魚沼郡大和町 | スリップ | 20時半前、同町水尾新田の関越自動車道上り後ろから来た乗用車にはねられ、頭を強く打った。 |
| 2. 22 | 福島県安達郡大玉村 | 視 界 | 2時55分ごろ、同村玉井袋内の東北自動車道向きとなり走行・追越し両車線をふさいだ。走行車線にはみだし、前を走っていた乗用車く打って即死した。男性(28才)、女性(26才)。 |
| 2. 22 | 上越市高田公園 | 樹 木 | 今冬の豪雪で桜の木が折れるなどの被害が続また松の木5本も根こそぎ倒れた。今冬は集したのではないかと見ている。59豪雪の最高 |
| 2. 23 | 山形県最上郡最上町 | 地吹雪 | 8時ごろ、同町堀田付近の国道47号線の峠を現場付近は約130cmの積雪のうえ、7m／の圧雪状態だった。 |
| 2. 23 | 中魚沼郡津南町 | 雪 崩 | 11時10分ごろ、国鉄飯山線津南駅から500m |
| 2. 23 | 中魚沼郡津南町 | 雪 崩 | 11時25分ごろ、国鉄飯山線津南駅から500m埋まった。16時半前に復旧した。 |
| 2. 23 | 長岡市 | スリップ | 13時25分ごろ、同市千手1丁目の県道で、定この衝撃で約60人の乗客のうち7人が手や顔 |
| 2. 23 | 山形県 | 吹 雪 | 最上地方は22日夕方から猛吹雪となり、同県時まで全面通行止めとなった。 |
| 2. 24 | 糸魚川市今井地内 | 凍 死 | 4時半ごろ、酒を飲んで帰宅途中、道路に寝 |
| 2. 24 | 北魚沼郡入広瀬村 | 雪 崩 | 9時15分ごろ、同村大白川の大なせ沢地内で旧したが、普通列車2本が2時間半から40分 |
| 2. 24 | 中魚沼郡中里村 | 除 雪 | 15時過ぎ、路上で除雪の手伝いをしていて、ももを切るなど1ヶ月半の重傷を負った。男 |

事 の 内 容

後輪がラジアルタイヤだった。
のためスリップして突っ込んできたトラックにはねられ、鎖骨骨折などで2ヶ月の重傷。女
線で、乗用車が雪でスリップして道路中央付近で斜めに止まったため、車から降りたところ、
って死亡した。男性(61才)。現場付近は1～3cmの圧雪があり、50km/h速度規制をして
上り線で、大型トレーラーが突風による地吹雪で視界をふさがれ、中央分離帯に衝突して横
追越し車線を走っていた大型トラックが事故に気づいて急ブレーキをかけたためスリップ、
に追突、乗用車は押し出されたトレーラーとトラックにはまれ大破、家族3人が全身を強
女児(1才)
出している。被害を受けたのは桜3,000本のうち1,000本で、枝が折れたり幹が裂けたり、
中的に雪が降り、風が弱く枝に積もった雪が吹き飛ばされなかったうえ、雨で雪の重さが増
積雪深より30cm多い3mの雪が積もったため、59豪雪時の倍以上の被害が出た。
狭んだ約1.5kmの区間で、地吹雪のため乗用車やトラックなど約200台が立ち往生した。
secほどの西風が吹いて視界はゼロから30m程度。国道は幅約7mで路面は厚さ2～3cm
長野県寄りの西側斜面中腹から雪崩が発生20m³の雪が線路を埋めた。
長野県寄りで2回目の雪崩が発生、高さ6m、長さ50mにわたり約1,300m³の雪で線路が
期バスが前を走っていて急に車線を変えた乗用車を避けようとしてスリップ、急停車した。
を打ち軽いけがをした。
酒田市と宮城県古川市を結ぶ国道47号線は、県境付近の6km間が23日昼過ぎから24日朝7
込んで凍死した。男性(46才)
表層雪崩が発生、約400m³の雪が国鉄只見線を約70mにわたって埋めた。約2時間後に復
遅れた。
トラクター除雪機の前で雪に足をとられて転び、除雪機のロータリーに巻き込まれ、右足太
性(34才)

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事 項 | 記 |
|-------------|-----------------|-------|--|
| 1985. 2. 26 | 柏崎市西本町 | スリップ | 7時半ごろ、市道で乗用車がスリップして歩 |
| 2. 26 | 白根市 | 果 樹 | 白根市を中心とした果樹園で雪の被害が広が かっただけで、同市の被害額は10億円を超え |
| 2. 28 | 岩船郡神林村 | 凍 死 | 15時半ごろ、同村宿田の農道で動かなくなっ |
| 2. 28 | 東頸城郡浦川原村 | 除 雪 | 16時ごろ、同村熊沢で自宅わきの作業所入口 (65才) |
| 3. 1 | 中魚沼郡津南町 | 雪 崩 | 11時40分ごろ、同町上郷の国道117号線灰雨 トバンはボンネットとフロントガラスが壊れ、 国道わき山腹から発生、幅7.5m、長さ15m 時前に全面復旧した。 |
| 3. 2 | 福井県丹生郡織田町 | 郵便物 | 冬期集配員が足掛け5年にわたって計1,370 た。吹雪などで配達が面倒になったのではな |
| 3. 5 | 中魚沼郡津南町 | その他 | 冬期間の道路事情が悪かったことから、豪雪 路の約7割が除雪されるようになったなどの |
| 3. 8 | 古志郡山古志村 | 雪 崩 | 11時40分ごろ、地滑り防止工事現場の山腹斜 亡(肋骨圧迫骨折・出血多量、男性・50才), |
| 3. 9 | 中頸城郡板倉町 | 浸 水 | 1時半ごろ、同町上中島新田で融雪のため用 |
| 3. 9 | 東頸城郡松之山町 | 浸 水 | 4時ごろ、同町天水越の越道川が融雪水で増 |
| 3. 9 | 岩船郡山北町 | 地すべり | 13時過ぎ、同町熊田の県道山熊田一府屋停車 同県道は不通となった。 |
| 3. 9 | 北魚沼郡小出町 | 雪 崩 | 16時半ごろ、同町青島の通称行山で雪遊びを 迫で窒息死した。男子(10才, 12才) |
| 3. 10 | 加茂市下条甲 | 凍 死 | 8時半ごろ、前夜酒を飲んで帰宅途中、側溝 起こして死亡した。男性(56才) |
| 3. 10 | 佐渡郡相川町 | 土 崩 | 16時15分ごろ、同町稻鯨で住宅の裏手のガケ |
| 3. 11 | 長野県北佐久郡 軽井沢町 | 砂 積 雪 | 4時8分ごろ、同町長倉の国道18号線軽井沢 強く打って即死、男性(20才, 60才)。頭を強 上越市高田で最低気温が-2.8°Cだったのを |
| 3. 11 | 新潟県 | 寒 波 | |

事 の 内 容

行者をはね、右足骨折など1ヶ月の大けがを負わせた。女性(65才)
っている。雪の重みで果樹が枝折れしたり、ビニールハウスが倒壊するなど、これまでにわ
る。

た軽トラックから降りて、歩いて帰ろうとして寝込み凍死した。男性(39才)
に通じる高さ3mの雪壁にトンネルを掘っていた際、雪が崩れて埋まり窒息死した。男性

スノーシェッドの長野県側出口で雪崩が発生し、通りかかったライトバンを直撃した。ライ
運転者はガラスの破片などで顔と手に軽い切り傷を負った。女性(27才)。雪崩は高さ15mの
にわたり、厚さ約50cm(体積約255m³)の雪で国道が埋まり、一時通行止めとなつたが17

通の郵便物を配らず、自宅の押し入れなどに隠したまま行方不明になっていることがわかつ
いかとみている。

地の特例として津南町だけが軽自動車、農耕車などの軽自動車税を減免していたが、生活道
理由で、同税の減免を廃止した。

面で雪崩が発生、作業員10人のうち2人が生き埋めになり、15分後に掘り出されたが1人が死
1人が軽傷(全身打撲、男性・47才)を負った。

水路があふれ、住宅・作業小屋・車庫など7棟が床下浸水した。

水してあふれ、住宅2棟と車庫1棟に床下浸水した。

場線わきの山が融雪地すべりで幅60m、長さ40m、深さ4mほどにわたり約15mに崩れた。

していた小学生2人が、崩れた雪と一緒に大沢入川に転落、崩れた雪の下敷になり、胸部圧

に落ちてけがをした男性が発見され、病院に収容されたが疲れや寒さなどから急性心不全を

から約18m³の土砂が崩れ落ち、延べ177m²の木造二階建て住宅を半壊した。

バイパスで、乗用車に大型ダンプカーが追突、乗用車に乗っていた3人が死傷した。全身を
く打って重体、女性(44才)。道路には約3cmの積雪があった。

はじめ、新潟、長岡、佐渡相川でも軒並み氷点下を記録、日中も気温が上らず平年より6.6

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|---------|------|---|
| 1985. 3. 11 | 新潟県 | その他 | °C も低く肌寒い一日だった。 県豪雪対策本部(本部長・金子副知事)は、 5 屋根の雪下ろしなどによる死者は 9 日までに 130 戸(9 日現在)。 雪崩の発生は人を巻き込んだもの 6 件、 建物 (現在) |
| 3. 12 | 宮城県・福島県 | 列車 | 11日から12日にかけて東北地方で降った雪の 12本の列車が 3 時間53分から12分遅れた。 |
| 3. 15 | 東頸城郡大島村 | 雪崩 | 20時半ごろ、 県道上に長さ 12 m、 幅 4 m の雪 った。 |
| 3. 18 | 長岡市宮本町 | 凍死 | 10時過ぎ、 県道の深さ 1.1 m の雪に埋もれた 昨年12月24日の新聞があったことから、 同日 一気に埋めてしまった。 |
| 3. 18 | 中魚沼郡中里村 | 雪崩 | 夕方、 同村十二峰近くの猿倉トンネル付近で、 になっていたが、 12日に開通したばかりであ |
| 3. 18 | 新潟県 | その他 | 国鉄新潟鉄道管理局の調べで、 上越新幹線の高架 ②寒さが厳しく雪の多い地域で集中的に発生 結、 膨張し、 コンクリートを腐食した。 |
| 3. 19 | 糸魚川市 | 雪崩 | 2月 5 日から雪崩の危険性があるため夜間全 止めが 1箇月半ぶりに解除になった。 |
| 3. 20 | 柏崎市 | 倒壊 | 59年、 60年の 2 冬期続けて大雪に見舞われた では家屋の破損や倒壊が目立ち、 全市で廃屋 |
| 3. 24 | 長岡市 | 水死 | 夜、 帰宅途中に長生橋から転落死亡した。 男 |
| 3. 25 | 南蒲原郡 | 倒壊 | 南蒲原農業改良普及所の調べによると、 豪雪 ハウスの半分以上に当たる 155 棟が全壊また 茂市や田上町の園芸用ハウスも被害を受けた。 |
| 3. 26 | 新井市長沢 | 土砂崩れ | 12時半過ぎ、 国道 292 号線沿いの斜面で、 高 行止めになったが、 19時復旧した。 |

事 の 内 容

日現在の今冬の豪雪被害の概要を発表した。

43人、重軽傷者は233人、住家被害は半壊1棟、一部破損558棟、床上浸水20戸、床下浸水

に被害を及ぼしたもの3件、踏切事故は18件発生し、死者2人、負傷者5人を出した（9日

影響で、福島、東仙台などの国鉄各駅でポイントが動かなくなったり、このため東北・奥羽線の計

崩が発生、通りがかった乗用車を直撃、フロントガラスなどを壊し、運転者が手に軽傷を負

乗用車の運転席に男の人が死んでいるのを、道路除雪中の作業員が見つけた。死因は凍死で、深夜死亡したものとみている。長岡市では12月24日から集中降雪が続き、このドカ雪が車を

雪崩といっしょに土砂崩れが起き、国道353号線は不通となった。同国道は冬期間通行止めだった。

下の橋脚や橋台部分に凍結による被害が多発していることがわかった。被害は①風の強い所、している。新潟一長岡間で40ヶ所となっている。表面の小さな亀裂からしみ込んだ水分が凍

面通行止めが続いている国道148号線糸魚川市根小屋一平岩間約12kmは、19日夜から通行

柏崎市の山間部で、雪解けとともに家屋の被害がつぎつぎと判明しはじめた。特に過疎地帯230戸にも及ぶ深刻な状況になっている。

性(27才)。（4月3日12時過ぎ水死体で発見）

による鉄骨またはパイプ製ビニールハウスの被害は、下田村が最も多く水稻育苗用ビニールは大破した。三条市では約600m²の鉄骨製の半永久施設が全滅に近い被害をうけ、また加

さ12m、幅31m、深さ2mにわたって土砂崩れが発生、約740m³の土砂が同線をふさぎ通

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|-----------------|------|--|
| 1985. 3. 26 | 糸魚川市小滝 | 水死 | 17時過ぎ、散歩中に約3mの残雪に足を滑ら |
| 3. 27 | 東蒲原郡津川町 | スリップ | 10時過ぎ、同町鳥井の国道の下り坂で、乗用 いた家族5人が重軽傷を負った。肋骨骨折 才、10才) |
| 3. 28 | 刈羽郡高柳町 | 陥没 | 7時ごろ、同町寄合の県道高柳一板山線で長 日朝から普通車通行可能となった。) |
| 3. 28 | 上越市門田新田 | 除雪 | 7時45分ごろ、農耕用中型(28馬力)トラクタ れ2人が即死した。(内臓破裂 男性・31才、 |
| 3. 28 | 西頸城郡能生町 | 土崩砂れ | 同町浜徳合の国道8号線は1月6日夜発生し 日ぶりに2車線が開通した。 |
| 3. 30 | 長野県上水内郡 鬼無里村 | 地すべり | 2時50分ごろ、同村和田沖の山林で、長さ、 谷沢をせき止め、桑畠など2ヘクタール以上が冠 土砂で鉄骨平屋建て資材置場兼車庫97m ² が |
| 3. 30 | 東頸城郡牧村 | 土崩砂れ | 22時ごろ、同町高谷地内で土砂崩れがあり約 町小黒間が不通となった。(4月2日10時に |
| 3. 30 | 新潟県 | その他 | 県は昨年12月28日に設置した「県豪雪対策本 が対策本部を設置した。 人的被害は死者47人、重傷者110人、軽傷者 153戸、非住家では公共建物2棟、その他113 これらの被害で災害救助法が適用されたのは |
| 3. 31 | 国 鉄 | その他 | 東海道・山陽新幹線が1年間運休ゼロを達成 あげている。 |
| 4. 1 | 青森県 | スキー場 | 9時45分ごろ、八甲田山田茂泡岳(1,324m) された。中学生は3月31日10時ごろ、スキ 込み滝つぼに転落した。 |
| 4. 2 | 群馬県 | 雪崩 | 群馬県は新潟県との県境にある谷川岳が融雪 |
| 4. 3 | 東頸城郡松代町 | 除雪 | 15時前、同町蓬平の自宅前で、除雪作業をし |
| 4. 4 | 中頸城郡板倉町 | 土崩砂れ | 6時半ごろ、同町菰立の町道の斜面で長さ30 |

事 の 内 容

せて、幅2m、深さ1mの用水路に転落して水死した。女性(82才)
車が雪のためスリップして対向車線に入り、トラックと正面衝突、乗用車は大破し、乗って
の重傷 男性(44才)、脳挫傷の重傷 男子(12才)、手足などに軽傷 女性(36才)、男子(6

さ10m、幅2mにわたって陥没した。このため同町石黒地区への車が通行不能となった。(29

ーの後部に除雪用ローターを付けて、2m近い残雪を除雪中、誤まってローターに巻き込まれ
全身打撲 女性・54才)

た土砂崩れのため1月9日から交互通行となっていたが、28日15時過ぎ規制解除となり、80

幅それぞれ100mの地すべりがあり、土砂約200,000m³が崩れて、幅10mの裾花川支流の深
水した。沢はダム湖の状態になり、鉄砲水の恐れもあったため7世帯22人が避難した。また、
倒壊し、中にあった車3台が埋まった。

180m³の土砂が延長10mにわたって国道405号線を埋めた。このため同国道は高谷一安塚
開通した。)

部」を解散した。設置期間は93日で、昨冬の127日より1ヶ月間短かった。今冬は78市町村

126人に及び、建物被害では住家が半壊1戸、一部破損625戸、床上浸水25戸、床下浸水
棟が半壊以上となった。雪崩は9件発生し、うち死者1人、軽傷3人を出した。

16市町村、県災害救助条例の適用は32市町村となった。

した。これについて国鉄では「大地震や台風、雪害など天災がなかったこと」などを理由に

山ろくの八甲田山スキー場南側の通称寒水沢の滝つぼ(水深2.5m)で、中学生が死体で発見
場から南へ500m離れた山中でスキーをしているうち同級生とはぐれ、吹雪のため沢に迷い

期を迎えて雪崩の危険があるため4月5日から5月7日まで同岳の登山を禁止した。

ていたブルドーザーが押した雪に埋まり窒息死した。女性(57才)

m、幅80m、高さ2mにわたって土砂崩れが発生、約600m³の土砂が町道を埋め通行止め

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|---------|-------|---|
| 1985. 4. 4 | 長野県飯山市 | 土崩 砂れ | となつたが、15時復旧した。 15時50分ごろ、同市飯山堂平で、幅50m、長 平線と田畠約15アールを埋めた。また、崩れ が孤立している。この日15mmの雨が降り、 |
| 4. 4 | 新潟県 | 森 林 | 県糸魚川林業事務所の調査では、今冬の豪雪 億9千万円にのぼるとみられ、激甚災害法が |
| 4. 7 | 新井市長沢 | 地すべり | 12時ごろ、通称霧谷沢で地すべりが発生、新 に解除された)。また、国道292号線も現場 行止めは解除された。) |
| 4. 7 | 佐渡郡赤泊村 | 土崩 砂れ | 17時ごろ、同村徳和の田んぼで土砂崩れが発 その人は死亡した。男性(69才) |
| 4. 9 | 中頸城郡妙高村 | その他 | 10時半ごろ、同村下樽本の村道で、杉丸太の たトラックの側部に頭を強く打ちつけ、頭の |
| 4. 10 | 長岡市濁沢 | 地すべり | 民家裏山に地割れが発見され、その後広がっ 内の県道柏崎一高浜一堀之内線は同日21時か |
| 4. 10 | 長岡市川崎 | 屋根雪 | 18時ごろ、雪でこわれた自宅屋根の修理中、 才) |
| 4. 10 | 長岡市 | 樹 木 | 昨年末の集中豪雪で杉の折損など植林被害が |
| 4. 15 | 刈羽郡小国町 | 地すべり | 未明、同町芝ノ又の県道小千谷一柿崎線の通 mにわたって埋めた、この地すべりで県道は 3台が今回の地すべりで埋まった。 |
| 4. 15 | 中頸城郡板倉町 | 地すべり | 8時ごろ、同町別所の通称大平で地すべりが 新井砂防事務所の調査では、長さ200m、幅 まで亀裂が広がっていた。(5月29日17時解 |
| 4. 15 | 長岡市 | 除 雪 | 市道路管理課の調べでは、道路の穴、ひび割 た。同課では雪の降り方が、昨冬はじわじわ を付けた重量除雪車が例年より集中的に反復 によるものと推測している。 |

事 の 内 容

さ 100 m, 厚さ 4 m の地すべりが発生, 山の斜面から 20,000 m³ の土砂が崩れ落ち, 市道堂た斜面の中腹 3 ケ所から大量の地下水が噴き出した。この地すべりで民家 2 戸が避難, 8 戸長野県警は融雪によるものとみている。

による糸魚川市と西頸城郡の人工林の雪害は, 倒伏 1,812 ha, 幹折れ 23 ha で, 被害額は 2 適用された昨冬の被害額 2 億 2,500 万円を上回っている。

井市は 8 日 9 時, 現地対策本部を設置, 1 世帯 4 名に避難勧告を出した。(4 月 30 日, 17 時付近で通行止めになった。地すべりの規模は 100,000 m³ とみられている。(9 日 10 時 30 分通

生, 高さ 2 m のところから直径約 30 cm の石が落ち, 田で作業をしていた人の頭に当たり,

積み込みをしていた作業員が道路わきの高さ 2 m の雪壁の上から転落して, 下に止めてあつ骨を折って死亡した。男性(49才)

ているため, 市は 18 時に現地対策本部を設置, 4 世帯 8 人に避難勧告を出した。また, 同地ら 3 日間通行止めにした(避難勧告は 12 日 12 時解除された)。

足を滑らせ 6.5 m 下のコンクリート地面に転落, 頭を強く打ち脳挫傷で死亡した。男性(50

発生していたが, 同市では公園樹 1,158 本, 市道街路樹 273 本の被害が出ている。

称田島崎付近で地すべりが発生, 約 75,000 m³ の土砂が道路を長さ 500 m, 幅 30 m, 高さ 5 不通になった。現場は昨年 5 月にも大規模な地すべりがあり, 復旧工事をしていた大型特殊車

発生, 同町では 9 時に地すべり対策本部を設置, 16 時に 5 世帯 15 人に避難勧告を出した。県 100 m, 深さ 5 m にわたって約 50,000 m³ の土砂が滑落, 別所川沿いの民家の 40 m のところ除した。)

れ, 摩耗などで補修が必要となった面積は 35,000 m² で, 昨冬の 29,000 m² を大きく上回っ毎日降ったが, 今冬は 1 日 50 cm を超す量が 1 週間も連続する短期集中型で, 太いチェーン出動し道路を削り取ったこと, 道路が乾いた 2 月以降もスパイクタイヤ装着車が走ったこと

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|-------------|----------|------------|---|
| 1985. 4. 17 | 両津市片野尾 | 落 石 | 7時30分過ぎ、同所の民家裏山から最高3ト 3日前の雨で、地盤がゆるんでいたため落石 |
| 4. 17 | 北蒲原郡安田町 | 落 石 | 11時15分ごろ、同町丸山の大蛇山山中のガケ 折って重体。男性(58才)。6人で働いていた |
| 4. 18 | 三条市 | 果 樹 | 市議会経済常任委員協議会の3月末現在のま ルで、6割以上の樹木が枝折れなどの被害を |
| 4. 20 | 西頸城郡青海町 | 避 難 | 同町玉の木の土砂崩れ災害直後から、国道8 |
| 4. 22 | 西頸城郡能生町 | 地すべり | 16時ごろ、同町溝尾の通称ヨシソウレイ地内 たって約45,000m ³ の土砂がすべった。この た。水田1ヘクタール、山腹工、谷止め工な |
| 4. 24 | 小千谷市岩沢 | 土 崩 砂 れ | 3時半過ぎ、国道117号線わきの斜面から融 め、全面通行止めになった。(26日22時解除) |
| 4. 24 | 西蒲原郡巻町 | 土 崩 砂 れ | 17時ごろ、同町角田浜のシーサイドラインで の際通りかかった乗用車に落石が当り、乗用 |
| 4. 25 | 東頸城郡松代町 | 地すべり | 25日未明、同町儀明地内の国道253号線で、 早くても今年の降雪前ころになる見込み。 |
| 4. 29 | 糸魚川市 | スキー ヤー | 11時30分ごろ、同市と長野県境の風吹岳(標 て、県警ヘリコプターで病院に収容された。 |
| 4. 30 | 東頸城郡松代町 | 土 崩 砂 れ | 17時30分ごろ、同町犬伏で土砂崩れがあり、 も土砂で埋まったが、人家には被害はなかっ 因とみている。(国道は5月1日18時30分に |
| 5. 6 | 両津市久知河内 | 土 崩 砂 れ | 8時30分ごろ、雨のため、市道藤巻線で土砂 幅30mにわたって崩れ、幅6.6mの市道をふ |
| 5. 7 | 新井市濁川 | が 崩 土 崩 | 9時40分ごろ、市道で長さ10mにわたり約 |
| 5. 7 | 北魚沼郡堀之内町 | け れ 砂 れ | 11時ごろ自宅近くの針が倉沢へ山菜採りに出 た。 |
| 5. 7 | 三島郡寺泊町 | 土 崩 砂 れ | 12時ごろ、同町山田の国道402号線の海岸道 通行止めになった。(8日12時ごろまでに復 |

事 の 内 容

ンもある岩石が崩れ落ち、民家の屋根を突き破り10畳間に落ちた。両津署の調べでは、2～したらしい。

崩れ防止工事現場で落石があり、作業員のヘルメットをかぶった頭に落石が当り、頭の骨をがだれも落石に気づかなかった。

とめによると、今冬の豪雪による果樹園の被害は、モモで作付面積の4割に当る15ヘクター受け、推計減収額も含んで約2億6千万円と史上最高にのぼった。

号線の山側11世帯43人に出されていた避難勧告も64日ぶりに解除された。

の山林で地すべりが発生、高さ60mの山腹から幅約100m、厚さ2～5m、長さ130mにわうち15,000m³の土砂で、下を流れる神明川(幅約4m)が、もう少しで埋まるところであったが被害を受けたが、同地区の集落からは約1km離れており、人家への危険はない。

雪水の浸透による小規模な土砂崩れが発生、約150m³の土砂が国道を幅12mにわたって埋

土砂崩れがあり、約6m³の土砂が道路を埋め、角田一五ヶ浜間が不通となった。土砂崩れ車は小破したが運転者は無事であった。(27日8時に開通した。)

長さ170m、幅40mの地すべりが発生、路肩決壊で27日から通行止めとなっている。復旧は

高1,880m)でスキー滑走中の男性(46才)が雪の下に隠れていた切株に衝突、左足を骨折し

国道253号線が長さ60mにわたって土砂に埋まり不通となった。国道わきの苗代田20アールた。土砂は高さ50m、幅60mにわたって約2,400m³が崩れ落ちており、融雪水の浸透が原因開通した。)

崩れが起き、約450m³の土砂で埋まり、通行止めになった。土砂は高さ15mの山の斜面がさいだ。復旧の見通しは立っていない。

300m³のがけ崩れがあり、通行止めとなつたが、16時に復旧した。

かけた女性(54才)が、同町田戸の一の沢土砂崩れ現場から、10日14時半ごろ遺体で見つかっ

路で土砂崩れがあり、幅7mの同国道25mにわたって約150m³の土砂が崩れ落ちて埋まり、復旧した。)

| 発生年月日 | 場所・機関等 | 事項 | 記 |
|------------|----------------|---------|---|
| 1985. 5. 7 | 岩船郡朝日村・ 山北町 | 落 石 | 大須戸一大毎間の国道7号線(区間約9km) 面通行止めとなった。さらに同区間のう回路 行止めとなった。両国道の通行止めで村上市 た。) |
| 5. 7 | 新津市蒲ヶ沢地内 | 出 水 | 17時20分ごろ、国道403号線が出水のため冠 |
| 5. 7 | 西蒲原郡弥彦村 | 土 崩 砂 れ | 弥彦スカイラインと越後七浦シーサイドライ となった。(8日7時30分に復旧した。) |
| 5. 15 | 南蒲原郡下田村 | 決 壊 | 4月末、県三条土木事務所の現地調査で、県 していることが判明したため、同県道を通行 |
| 5. 15 | 糸魚川市上出 | 樹 木 | 県内のフジの名所「月不見の池」の周りにあ ケヤキの大木や杉の木などが根元から折れ、 県は、ほぼ最終的な今冬の豪雪被害状況を明 の実質被害額に比べて約50億円少なかった。 |
| 5. 30 | 新潟県 | その他 | 雪崩は9件で死者3人、軽傷5人を出した。 |

事 の 内 容

は、5日夜から降り始めた雨量が150ミリを超える落石などの危険があるため、13時から全である国道345号線も山北町寒川一鶴泊間3kmにわたって落石が発生したため、21時から通や岩船郡朝日村方面と山北町間の往来ができなくなった。（両国道は8日12時までに復旧し

水し、一時通行止めとなった。（20時45分に復旧した。）

ンは、警戒降雨量80ミリを超え、土砂崩れの危険が生じたため、17時30分から全面通行止め

道鞍掛一八木向線で幅員約3mのコンクリート舗装道路下の土砂が、雪解け水で決壊、流出止めにした。復旧は秋になる見込み。

るフジの木が今冬の豪雪で幹折れや枝折れの被害を受けた。また、フジの枝がからみついた無残な景観となってしまった。

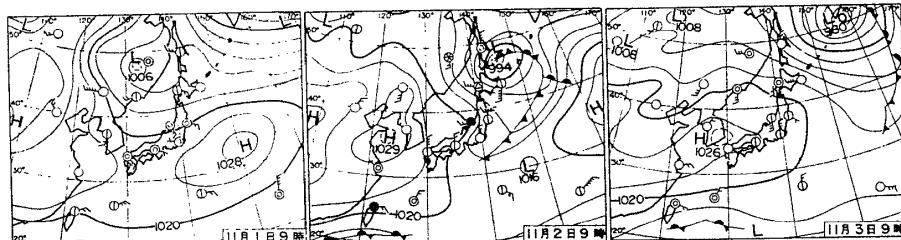
らかにした。それによると、県内の被害総額は295億7,300万円で、同じく豪雪だった前年人的被害は死者が48人で前年に比べ14人増えた。重傷159人、軽傷214人、人を巻きこんだ建物被害は住家の全壊4棟、半壊13棟、一部損壊3,290棟などであった。

付図（1984年9月～1985年4月）午前9時の天気図と気象概況

1984年11月

渦水後半もち直す

- ・月降水量、北海道の一部、山陰、九州の一部で平年並の他はほぼ半分、北海道東部は極端に少なく釧路0.0mmで1位。
- ・平均気温、東海以西で高目、九州は2°C前後高い、北日本は1°Cの1部で1°C低目の他は並。
- ・千天、高溫目立ち、東日本でも早出しハクサイ大暴落。



1日（木）古徳沼に白鳥

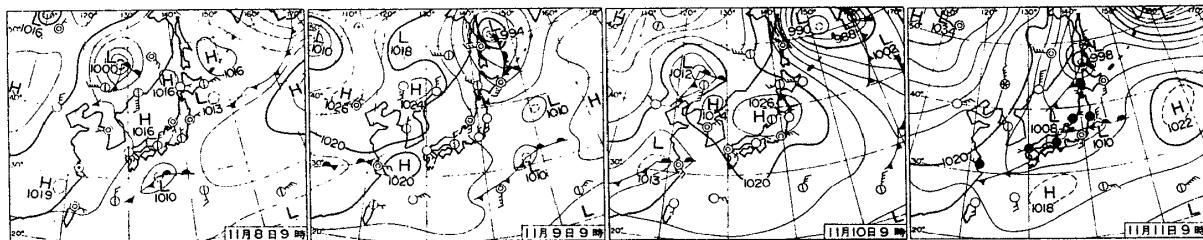
15羽飛来。沿州のL、夜には下を伴い北海道通過。北日本は、始め日本海側で、後には太平洋側も雷交えた●で局地的に50mm超す所も。日本南部も雲多い1日。台風第24号発生。

2日（金）青森初雪

平年より9日早く。秋田帯広なども冬型の配置、分布で、太平洋側よく①れる。北陸40～50mm。北日本、日本海側中心に寒さ厳しくなる。1745頃東京II。関東以西に少雨情報出る。

3日（土）冷込み強まる

min平比、1部を除いて、-3～6°C。前橋平年より14日早い初霜。北陸以北のシグレも南から次第に上る。①～○の所が多かったが、南西諸島はFの影響で終日●。高山初氷。



8日（木）多摩川サケ4匹目

3年前放流のもの。南岸沿いの海域、東日本まで移動したがこれも少量で量には止む。沖縄含め全国的によく①れて、終日暖か。東京のmin13.4(+3.5)は月の最高。

9日（金）スマッグ

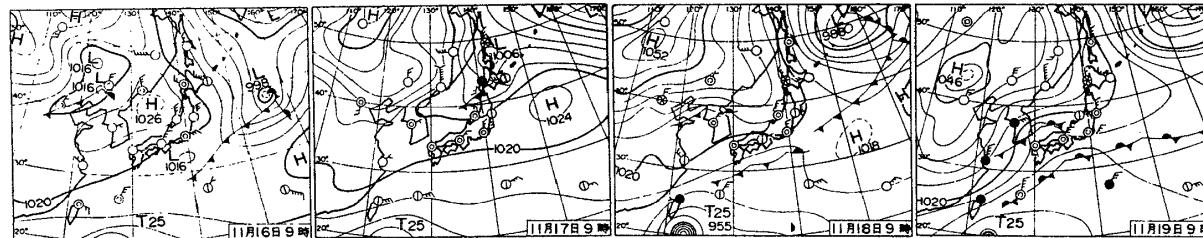
東京○続きで暖かく22.7(+4.8)は月のmax。風も弱くスマッグひどし。北日本をF通過したが、●の所も、量も少ない。全国的に○～①でmax平比も+5°前後。夜、赤味帯びた満月。

10日（土）移動H足早や

明け方まで全国的に①れていたが、H速度はやく、昼にはFの影響で九州で●降り出す。雨域夕方には近畿まで拡がったが量、東日本午後は○で寒くなる。秋田初霜初氷。

11日（日）●恵みなし

雨域、未明に東北まで。L本州を通過して夕刻まで●の所多く30～50mmの所も多かったが、関東～近畿の水不足地帯は微量。夜は北海道で○の他○～①。一の西、宇都宮II。



16日（金）電話ケーブル火災

東京世田谷の地下ケーブル、10時間燃える。加入回線、専用線など9万回線あまり不通。オンライン大打撃。移動Hに掩われ全般に①れて陽気回復の所多い。東京北東風で小雨模様。

17日（土）弱い冬型

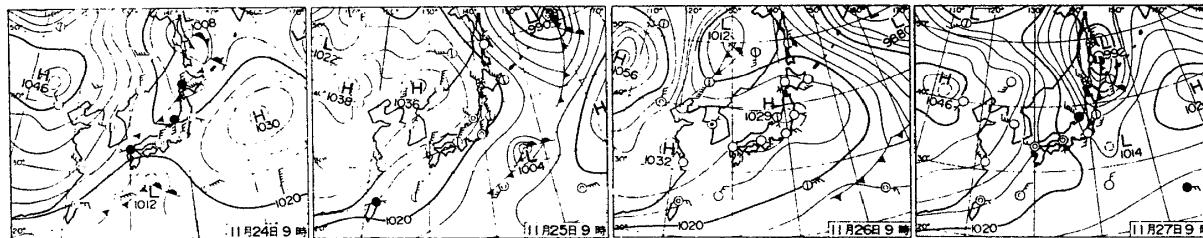
F午後には東海上へ。関東以西は1時的に○ってにわか●の所もあったが全般に①～○。よわい冬型に戻ったが、気温は北日本の1部を除いて+2°前後。沖縄台風の雲で●、少量。

18日（日）台風25号転向

未明に北進。午後北東進。これに伴う雲で南西諸島●だが少々、南海上F帶で関東以西もぐずつき気味だが、●は少量。北日本は冬型で冷気強く、max平比-5°前後の所。

19日（月）台25号南東進

やがて26号に吸収される。●らしい●を降らせざ一向役に立たぬ台風だが、洋上での変化面白い。関東以西の太平洋側、南西諸島ぐずつき。メキシコでガスタンク群爆発死300人。



24日（土）あいにくの週末

南北に長い気圧の谷の通過で、朝から全国的に●。九州、南西諸島は午後から回復。夜は全般に冬型、●のわりには寒からず。東京あたりは北東風で、翌未明まで小雨模様。

25日（日）東京木枯し1号

朝まで①っていた東京も、昼前に吹出して①、平年より17日遅い木枯し第1号。冬型で、日本海側は山陰までシグレ、北日本を中心にはまだ寒さ戻る。札幌-0.2(-6.0)の真冬日。

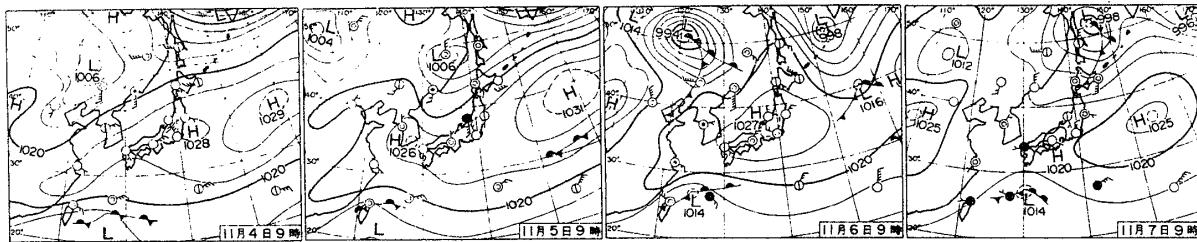
26日（月）奈良京都初氷

平年よりや、遅く、Hに穏かに掩わされて、1部を除き冷蔵しく、また東日本を中心に日中も寒い。東京のmax10.4(-4.2)。アムール河中流のL東進中だが夜まで全般に○～①。

27日（火）新潟平年並の初雪

L東進して、これに伴うF～気温に南下。冬型気圧配置に戻る。日本海側、午後には北陸まで○～①に変る。山陰もシグレ。降水は20mm前後。沖縄もシグレがち。その他○～①の冬空。

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

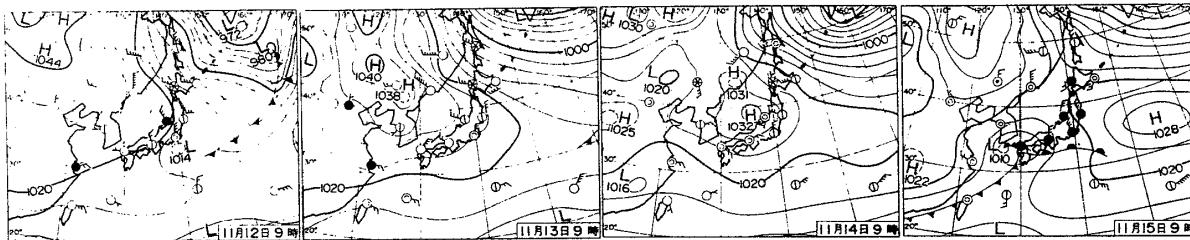


4日（日）奈良京都初霜
東西に長い帶状Hに掩われてよく①され、東～西日本で放射冷却強い。名古屋は初霜初氷、北陸、東北の日本海側も午後はよく①。その他終日①されてmaxほぼ並。沖縄はぐずつく。

5日（月）Hベルト優勢
沿海州のL、寒気を伴って東進。北日本は次第に不安定となったが●は少量。本州～九州はH圏内で①～○。日中の気温は全国的に3～6°高い。南西諸島はきょうもぐずつく。

6日（火）台湾低気圧
昨夜台湾付近に発生したが動き鈍く、本州～九州は南岸で②程度。南西諸島は暖湿流が入って所々で大雨。名瀬101沖永良部168mmなど。その他は①～○。全国的に暖か。

7日（水）頼みの●降らず
しゃ、北上したが、日本をはさんで東西にのびる高圧場強くLの頭押さえる。早朝九州で●降り出し、午後は西日本一帯雨域に入ったが小雨程度。東・北日本①続きで暖かな立冬。

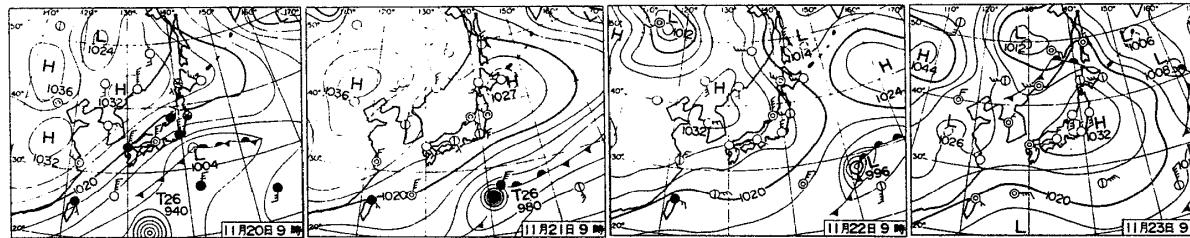


12日（月）雪でスリップ
雪凍結の青森県で、早くも車スリップ事故、5人死傷。奥穂でも滑落死1人、2次谷通って崖から冬型強まり山陰～北陸30mm前後。北日本は太平洋側も②の所。東京北東風の○空。

13日（火）寒波襲来
樺太空に-42°の寒気中心、北日本は太平洋側含めて②。旭川09の積雪25cm、空知地方今冬初の大雪警報。日光-3.3号都宮-0.3。九州南部、南西諸島も不安定性1部で強雨。

14日（水）「しらせ」出航
2度目の船出、大陸東岸に谷、午後、揚子江にL発生、西日本は朝から③。昼には九州で●。しかし本州上のH強く、気圧系の動きゆっくり。東・北日本は日中寒い晴天続く。

15日（木）待望の雨
L、対馬海峡から本州を横断、北九州～北陸で50mm前後。東京15mm25日ぶりの●。水不足の関東～近畿20mm程度だが恵みの●。西日本除いて冷気厳しいあいにくの七五三。

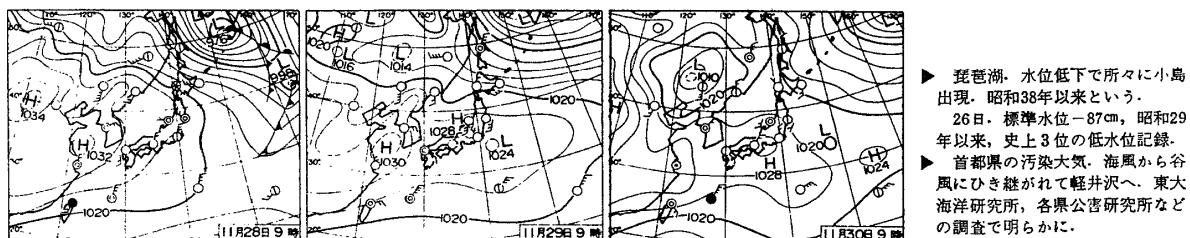


20日（火）東京身にしむ冷雨
気圧の谷底の●降らせながら東進。日本海側を残して次第に●は上るが、北高型の東日本は終日冷雨。東京のmax7.8(-7.9)で月の最低。東奥摩道路雪で交通止。コアラ初公開。

21日（水）日光で除雪車
第1・第2いろいろは坂で、一見北高型だが、H強く、東京も朝から①。南西諸島の●も次第に上って全般に④～○。東・北日本は寒さ続く。北方の弱い谷で、北日本夜は②の所。

22日（木）冷え込み厳しい
昨夜の弱い谷通過で冬型の配置、分布に戻ったが、東日本風強からず冷え込み厳しい「小雪」千葉、輪島初霜。日中は北日本の日本海側を除いて④～①、暖かな所が多くなる。

23日（金）行楽日和
移動Hに掩われて①～○、maxも東日本で低目だが他は暖か。天神平スキー場など賑わう。午後は谷の接近で北海道、九州で●降り出した所も。インド豪雨で500人超す死者。



28日（水）H帯状に
寒気強く、東・北日本のmax平年比-3～5°。冬型の天気分布だが、H次第に東に拡がって帶状に。日本海側のシグレも南の方から次第に上り、午後は①の所多くなる。大阪初霜。

29日（木）Hベルト
優勢なHに掩われて①の所多く、東日本～近畿、厳しい冷込み続く。浜松初霜初氷。南西諸島はぐずつき型の天気続く。上空寒気中心のひとつ通過本州の日本海側にもわか●の所。

30日（金）東京冷込み一番
3.7(-2.0)、10月に続き寒気に、月末にその月のminを記録している。銚子、館山、横浜で初霜。帯状Hで①～○の中は各地とも暖か。沖縄にド带あり北上気配、夜九州南部②の所。

▶琵琶湖、水位低下で所々に小島出現。昭和38年以来という。

26日、標準水位-87cm、昭和29年以来、史上3位の低水位記録。

▶首都圏の汚染大気。海風から谷風にひき継がれて軽井沢へ、東大海洋研究所、各県公害研究所などの調査で明らかに。

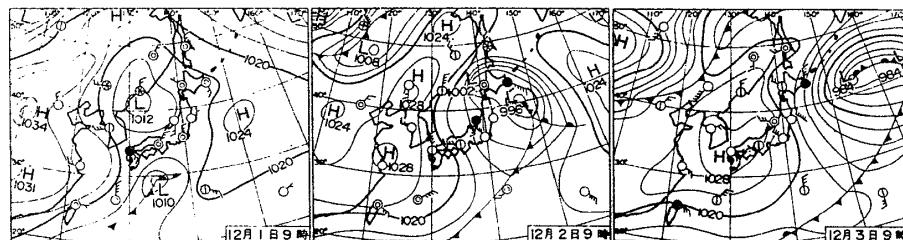
▶沖縄本島北部のヤンバルテナガコガネ、戦後最大の、といわれる昨秋の発見だが、業者、マニアの密猟で早くも絶滅の危機。

▶ジャコウジカ絶滅の危機に対し、ジャコウの輸入量の削減を決める（漢方薬業界）

1984年12月

少雨の1984年

- 年間降水量 東京879.5(60%)
札幌725.0(63%)mmで史上最少、仙台819.5、高松768.0も少い方で2位の記録。
- 12月 年末、猛烈な寒波に襲われたが、月平均では、北日本的一部を除き、気温ほぼ平年並。
- 米国は91年ぶりの暖冬の由。



1日(土)東日本冷雨

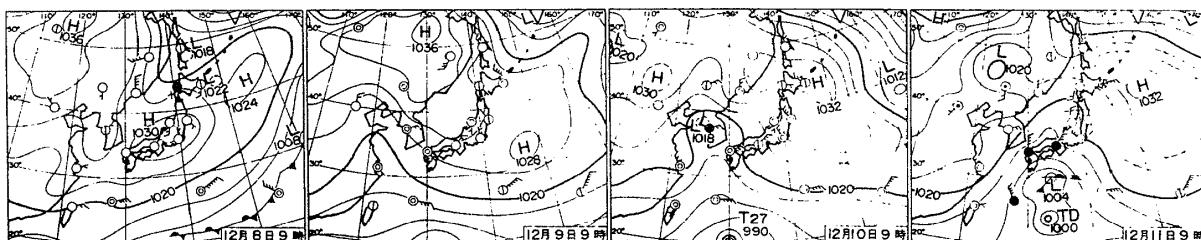
南海上の低気圧は北東進、日本海の低気圧は東進。全国的に●はあったが、発散場としての性格強く、東日本で寒い雨となったほかは①～④で暖かさ目立つ。南大東島88mmの他は少量。

2日(日)インド・ガス惨事

(現地)殺虫剤工場で有毒ガス漏れ、死者3000人とも。冬型気圧配置で日本海側は●。西日本は寒く、京・北日本暖か。寒気入って北陸で●。東京郊外も午後大粒の天氣雨。

3日(月)地震続発

1309頃、根室Ⅲ盛岡Ⅱ宇都宮Ⅰ・20時頃、広尾Ⅱ・2027頃、大船渡宮古Ⅱ・朝方季節風強い、暖かだが落葉おびただし、移動Hに穩かに掩われた西日本冷込み、鹿児島、長崎初雪。



8日(土)冷込む

北日本は弱い気圧の谷に入りて●や◎の所、その他はよく①れて朝方久しぶりの冷込み。東京3.0 大阪1.5 福岡2.5など今冬のmin. 南西諸島は終日ぐずつき、和歌山初霜。

9日(日)台風やや北上

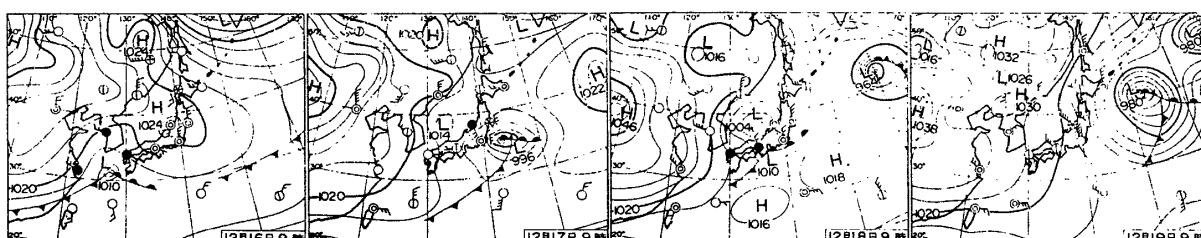
大陸から谷東進、台27号、進路を北西から、夜には北東に変えてやや北上。九州～南西諸島①～④で●も。北海道の日本海側除き①れて全国的に暖か。1201頃、東京、日光Ⅲ。

10日(月)暖雨

台27号の間接的な影響もあって、四国、九州南部から南西諸島にかけ、50mm前後の●。Hの後面で全国的に暖かく、中部以西のmax平気7°前後。東京など、夜まで①。

11日(火)尾鷲334ミリ

24時間降水量では355mmでともに12月としての新記録。宮川171熊野120mm。その他も朝から全国的に●、東日本40mm前後。夕方から西日本では回復。1256頃、日光Ⅳ。



16日(日)八王子で初雪

平年より3日早く、L動き遅く、夜半に紀伊半島沖、九州未明より、関東は夕方から●。広島、甲府なども初雪。北九州～中国で40mm前後の他は並雨。沖縄諸島は好天。

17日(月)首都圏深夜地震

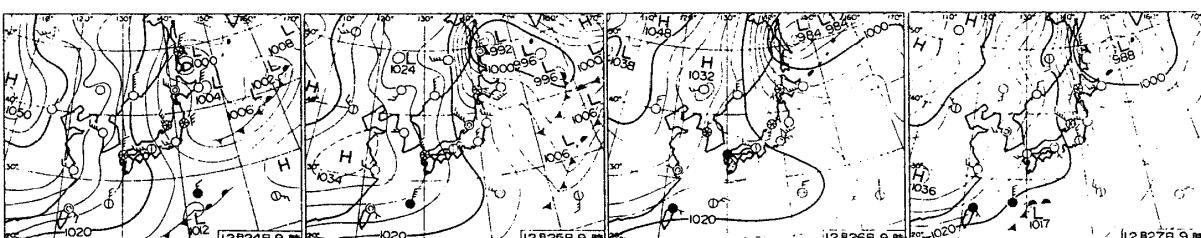
2350頃、東京、千葉Ⅲ、東京で3人ケガ。1455頃にも東京Ⅱ。東京も昼前に●上り、全国的に○～④の所多くなる。日本海小Lの東進で山陰などにわか●も。夜はよわい冬型に。

18日(火)大阪初雪

平年より10日早く、日本海西部に小L発生して、午前中に関東以西で●、夜はまた冬型に戻って、山陰でも◎、雷など変化小さきみ。東京など並だが寒さ目立った所も。深浦Ⅲ。

19日(水)京都初雪

平年より2日遅く、気圧傾度のゆるい冬型だが、上空の寒気やや強く、北陸など降水30mm前後の所も。太平洋はよく①れたが寒く、maxは軒並平年下。0435頃、水戸、小名浜Ⅲ。



24日(月)稚内-53.8°C

上空5000m、史上最低記録。東京も平年より3～4週間遅く初霜初雪。名古屋初雪。北海道から九州まで、太平洋側を除いて◎、降雪多い所は50mm前後。旭川max -8.0(-5.6)。

25日(火)東京初雪

平年より8日早くチラつく。富士山-30.4でこの月のmin. 東京も5.6(-5.4)-1.1(-3.4)といずれも今月のmin. 降雪、北陸～山陰で50cm前後の所。国鉄、航空大混乱。

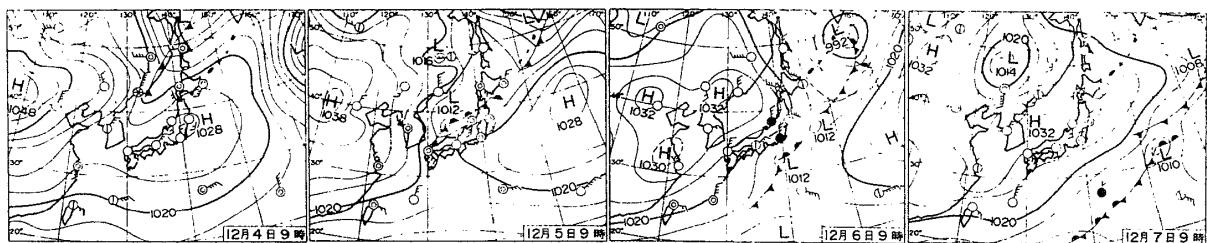
26日(水)大雪で犠牲者

新潟で、雪かき中に死者2人。相変わらず強い冬型だが、上空の寒気ややよわり、◎も西の方から勢いよわまる。しかし積雪多く国鉄の混亂は続く。太平洋側貢冬空。

27日(木)北陸の大雪続く

南海海上をよわい谷東進、西日本では冬型がゆるんで日本海側も天気回復の所、上空の寒気もやや衰えているが、北陸の降雪状態相変らず。太平洋側は①だが寒さ相変らず。

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐



4日（火）大型移動H

本州～九州は終日ほゞ○。その他も①～⑩だが、北海道はF南下して夜●や◎の所多くなる。朝方は西日本中心に冷えて、福岡初霜、鳥取初氷。日中は東日本平年並の他は暖か。

5日（水）台風第27号発生

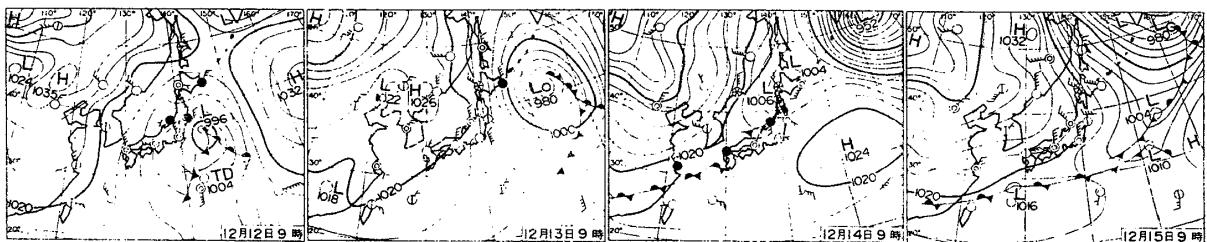
上陸台風①は新記録だが、発生数はようやく平年並に追いつく。F南下して夜は冬型に。日中南風で暖かくmax平比+5～8°の所多い。東京も19.8(+6.4)でこの月のmax。

6日（木）寒気入る

ゆっくり冬型に戻り、北日本など寒くなる。いったん回復した太平洋側も、午後は不安定性の●あちこちで。東京17.2°と暖か。0447頃、水戸Ⅲ、小名浜、宇都宮Ⅱ、国鉄乱れる。

7日（金）奥多摩道路不通

冬型は次第にゆるんできたが、関東南部は前日来北高気味で●など続く。奥多摩有料道路、2cmの雪で全面通行止め。昼には東京もよく①れる。max平年下の所多くなる。「大雪」



12日（水）多摩にユリカモメ

秋川、多摩川の合流点にかけて40羽の多数という(11日現在)。L動き遅く、東京など昼から回復、よわい冬型で、山陰でまとまつた●もあったが、日中は全国的に高温。

13日（木）引きの冬型

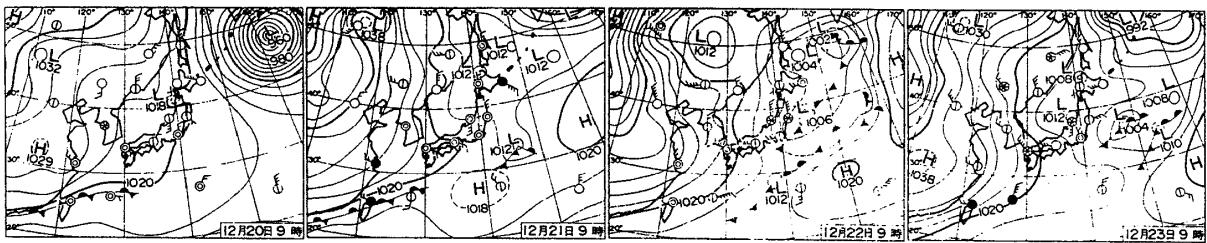
二次的な谷東にぬけてし発達。冬型で、東京は瞬間20m/s超す季節風、23%と空気乾く。しかし寒気よわく吹出しによる降水は少量。H移動性となり、午後は日本海にL。

14日（金）気圧の谷

北海道のLから南西にのびる谷の通過で、朝から全国的に●や◎。南関東は一時●もあったが①～⑩。全国的に暖か。東京17.8(+5.4)、ワビスケ咲く。南西諸島は終日○。

15日（土）北陸以北は雪

北日本中心の冬型で、北陸以北の日本海側は、6日に次いで今冬2度目の全般的な雪、札幌max-4.7(-6.8)。太平洋側、西日本はゆっくり回復、北高気味の東日本は終日○。



20日（木）H移動性に

冬型くずれて北日本の◎もいったん上のしかしよわい谷の東進で昼からまた降り出すなど、相変らず小さざみな変化。太平洋側①～⑩が低温。尾鷲、平年より26日遅い初水。

21日（金）よわい冬型

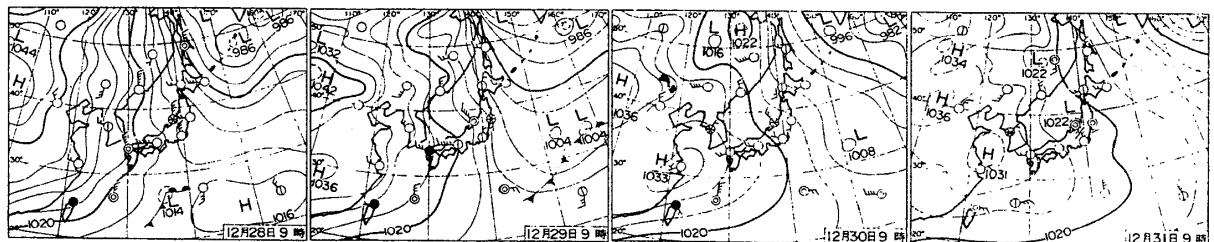
日本海がよわい谷、上空に寒気あってこれも冬型。この日あたりから、なだれ状に年末寒波入り始める。谷の東進で、太平洋側も次第に◎。降水は北陸中心に20～30mm。

22日（土）冬型強まる

谷東海上へ出て冬型はっきり。日本海側は全般に◎で、福岡は平年より8日遅い初雪。降水は北陸中心に40mm前後、太平洋側は①。貯への済に日の射す冬至かな 山口冬男

23日（日）里雪型

日本海に小L、沿岸州上空には-50°以下の寒気、典型的な里雪型。輪島上空-37°。新潟の積雪35cmで12月としては11年ぶりの大雪。東海道新幹線、今冬初の◎による徐行運転。



28日（金）記録的大雪

よわい谷通過後、冬型再び強まり、北陸の◎いっそう激しくなる。高田15時184cmで12月として3位、青森も117cmで同3位、18年ぶりの大雪、帰省列車大混乱。

29日（土）大雪続く

北海道から九州まで、日本海側を中心①～⑩。北陸中心に、前日よりやや勢い落した程度で大雪続く。長野県森宮野原、積雪270cm。①の太平洋側含めmax平比-5前後。

30日（日）大雪被害続出

北陸中心の降雪など、大勢やらず。積雪、森宮野原340高田223cm。北ア明神でナダレ2人死1人不明。列車混亂、雪による倒木列車襲い20人ヶガ。降雪中の死者この日迄に13人。

31日（月）雪、岐阜

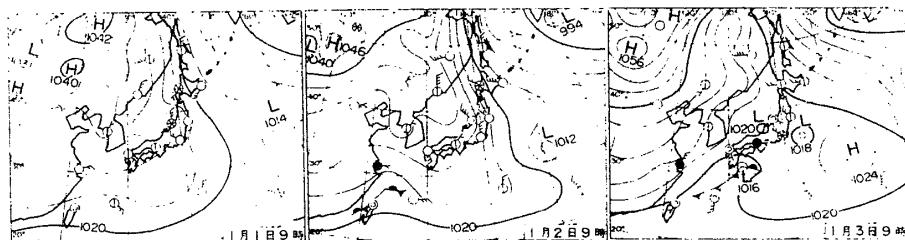
冬型ゆるみ始め、降り続いている◎も、山陰では●に、北陸以北も次第に小降りに。ナダレなどの北ア、南信で1人死、鹿島槍で6人不明。太平洋側○～①寒気ゆるみ穏かな除夜。

1985年1月

寒冬

予想外の寒い1月で、月平均気温は、沖縄で半年並の他は、北陸、北日本で1~2°。その他も1°前後半年より低かった。

多雪地帯は、ごく一部を除いて豪雪なく、降水平年を下まわる。本州~九州の太平洋側は極端に少なく、10%前後の所も多かった。東京4.5mmで9%。



1日(火)元旦穏か

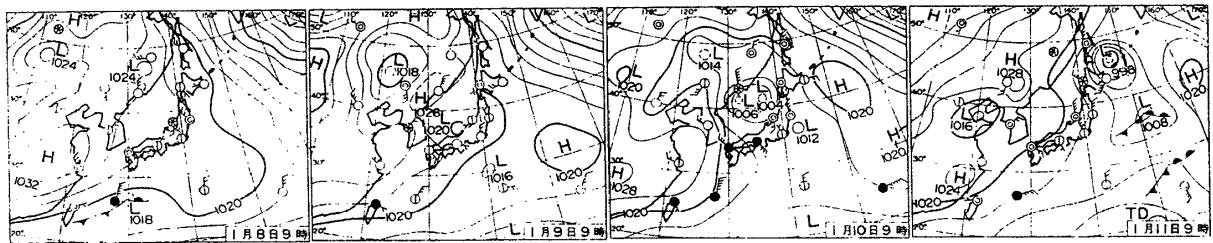
弱い冬型で、日本海側は○や●が続いたがお、むね小降り。大雪被害の交通網もほぼ復旧して穏かな正月和。初詣の人8175万人で史上最高maxも北日本を除きほぼ平年並。

2日(水)西日本に雨

東シナ海のウェーブゆっくり東進して、夕方から九州で●。鳥取大山、ナタレで死者1人。北日本中心の冬型次第にゆるんで、夜は関東も○。広島、呉、ひと月あまり遅く初雪。

3日(木)雨期待外れ

南海上のL東進して関東以西も●~○だが、関西~関東は微量。東京も○になったが0.0mm。夜はっきりした月量もかかったが、北日本は西高東低変らず、分布も冬型。



8日(火)「さきがけ」打上げ

ハレーすい星探査機、打上げ成功。東北、北陸、大雪による列車運休相次ぐ。しかし冬型はゆるみ、西日本~南西諸島は、谷の東進による●。寒気、西からゆるみ始める。宮古II.

9日(水)寒気ゆるむ

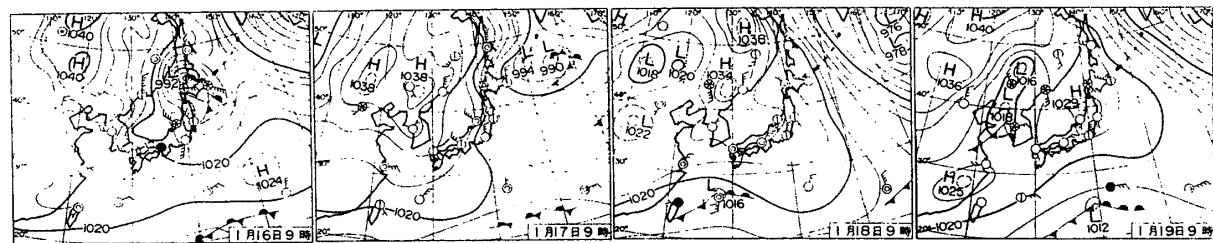
日本海に少しはある冬型だが、北陸以北の日本海側も○~○、○の所もmax全国的にはほぼ平年並。東京終日①れて0.9(+0.2)9.3(-0.3)。ロウバイ咲く。三宅島雄山初雪。

10日(木)日本海L

日本海L中心の谷通り、関東以西①~○から●も。しかし水不足地帯にはほとんど降らず。千歳空港④で混乱。東京11.4°で19日ぶりに平年を上まわる。皇后東御苑の冬至梅咲く。

11日(金)冷込みゆるむ

L昨夜半に北海道通過。冬型に戻っているが暖かな朝。札幌min 3.3(+5.6)。東京は4.6(+4.1)でこの月のmax。冬型よわく、日本海側の降水は少量。



16日(水)関東以西暖か

すでに冬型に戻っているが、谷の暖気残って特に東日本で暖かく、東京13.5(+4.0)はこの月のmax。Hはり出し弱く、引きの冬型。○は北陸中心。

17日(木)名神で40台激突

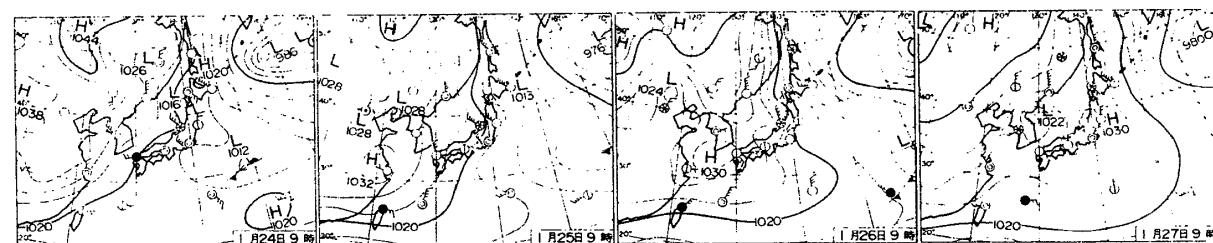
吹雪の滋賀県下で、10か所で次々追突の同時多発、重軽傷9人。H勢力を増し冬型強まる。山陰まで○となり、信越40mm前後の降水続く。信越線8本運休。東日本も寒くなる。

18日(金)Lオジギ型

未明、東シナ海南部にL発生。しかし日本にはり出すH根強く、Lを押さえ寄せつけず。夕刻には関東まで○ったが●は九州南部止り。名瀬93mm。大勢は冬型で、札幌43cm。

19日(土)H移動性に

中国東北部に谷現われて、午後にはH東海上にぬけ、北日本の○も止む。全国的に○~①から、夜は西日本から雲を増し、●○の所もあったが少量。日中寒気ややゆるむ。勝浦初雪。



24日(木)関東以西ぐずつく

大勢は冬型だが、南海上が前線帶、上層の谷が東進して関東以西の太平洋側も所々●。千葉では1日小雪チラつく。米異常寒波でスペースシャトルの打上げ延期(凍結事故)。

25日(金)北海道冷込む

内陸好天で冷込み厳しく、俱知安で-29.4(-17.7)、旭川は前日と同じ-27.8(-13.7)。日本海側は九州北部まで○。信越で30mm前後の所もあったが、夜、西日本は止み間も。

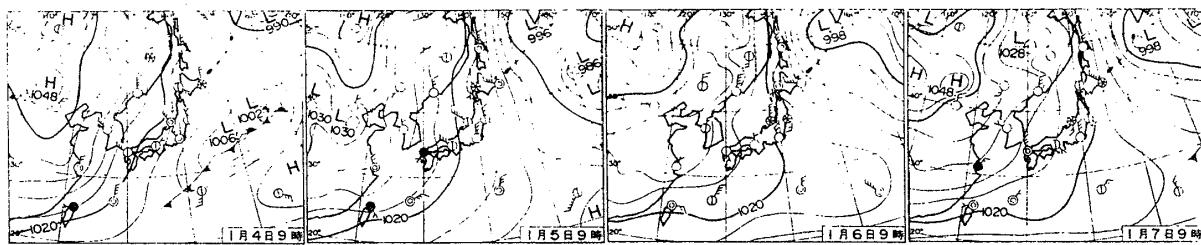
26日(土)野鳥の草原焼く

東京大井野鳥公園の後背地30ha焼く。たき火からの飛び火。冬型は西の方からゆるもうとしているところだが、日本海側の○も、全国的な寒さも相交らず。旭川-24.6(-10.5)。

27日(日)日本海L

冬型くずれてL日本海に入る。冷込み続きから、次第に雲を増したので日中の気温上らず。東日本は昨日より寒い。東京max4.9(-4.6)。午後西日本から●降出し、夜東海まで。

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐



4日（金）帰省列車混乱

谷が東にぬけて冬型強まり、日本海側は山陰まで④、列車遅れ混乱目立つ中、東北、上越新幹線は乱れなし。北東流の影響もあって大島④、東京④がちだが、太平洋側はおむね①。

5日（土）ゲレンデにナダレ

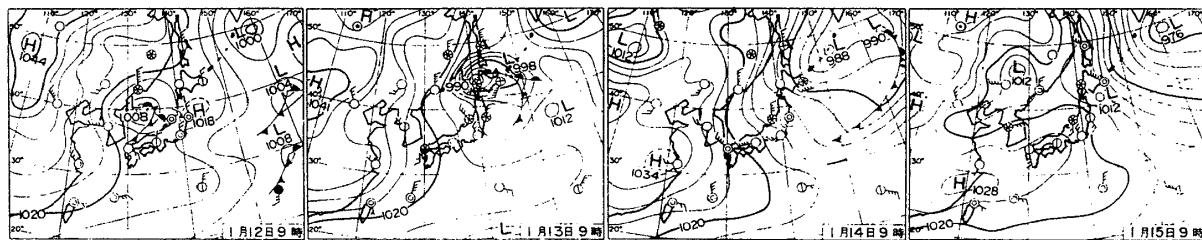
長野県信濃平で、1人死。同所で過去3回同じ事故。北陸以北で30cm前後の④もあり、帰省列車の混亂さらに大きくなる。フィリピン東海上に台風第1号発生。水不足、華厳の滝止る。

6日（日）大阪で震度IV

0445頃、奈良、京都Ⅲ、横浜Ⅰ。信越など50cm前後の新雪、帰省ランクの混亂もピーク。国道8号、土砂崩れで不通に。紋別、北見枝幸、前日は雄武で、10日前後早い流氷初見。

7日（月）台風第2号発生

15時、トラック島の南東に、冬型ひみ始め、北海道、山陰など④止んでも青空抜がった所も多い。しかし信越は始め④強く、高田の新積雪88cm。0708頃、網代Ⅲ、東京、横浜Ⅱ。



12日（土）また日本海L

L、日本海に入った段階で閉塞しており、夜この閉塞点にできたしが北海道の西で発達。日本海側中心の降水、多い所で20mmの程度。関東も沖合のLで●～④だが微量、暖か。

13日（日）鹿児島初雪

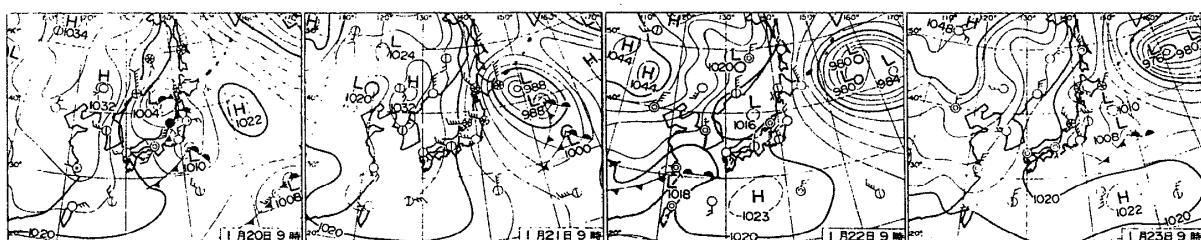
半年より5日遅く。L、午後にはオホーツク海に出てさらに発達。九州の北部から午後には西部まで④となる。輪島-42.3°C、北陸の④40cm前後の所。都内火災46件で今冬最悪。

14日（月）豪雪で屋根落ちる

新潟県の工場で、8人ケガ。前日上まわる④で、降雪高田56新潟42cmなど。鹿児島も昼まで④。八丈島、静岡など初雪。日中も氷点下の所多い。東京の湿度14%でこの月の最少。

15日（火）寒さ厳しい成人式

min、maxとも4°C前後平年よりも低い所が多い。Hのはり出しうるんできたが、高田の新雪72cm、富山52cm。昼、日本海西部にし発生。冬型解消し夜は日本海側の④もいったん止む。



20日（日）「大寒」暖か

南海上のLの影響小さく、関東以西ほぼ終日①～○。日本海Lの後面で吹出し、次第に冬型に戻るが、一部を除いてmax比+3°C前後。熱海早咲梅満開、水戸偕楽園もチラホラ。

21日（月）引きの冬型

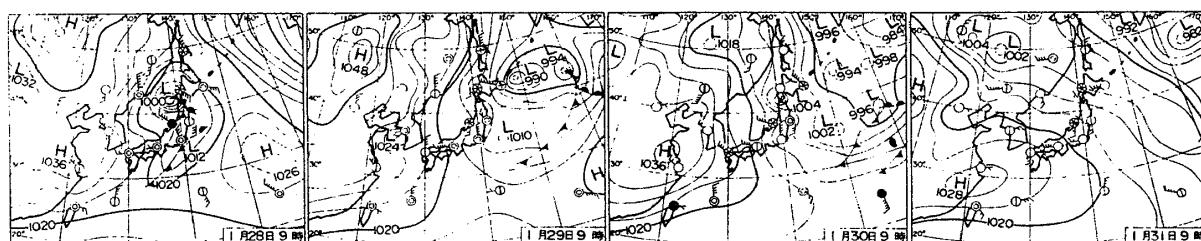
東京未明。20m/sを超す突風もあったが、寒気、Hとも弱く、冬型は西の方からゆるむ。北陸以北の降水も10～20mmの程度。太平洋側、南西諸島とも①～○。

22日（火）沖縄サクラ開花

緋寒桜、半年より27日遅い。日本海から東シナ海にかけ気圧の谷となっており、北日本ははじめ日本海側で、夜に太平洋側でも④が少し。関東以西も天気崩れたが●らしい●無し。

23日（水）イタリア地震警報

北部山岳地域で48時間以内に大地震の可能性と。5万人避難して、パニック状態の由。弱い冬型で北日本は寒くなつたが、その他は暖か。冷込み大幅にゆるむ。湯島の梅ほころぶ。



28日（月）スキーパス転落

長野市信更町の国道19号でダムに転落、25人死亡。深い氷柱の谷の通過で全国的に●、○。東京31日ぶりの●4.5mm。日中暖か。気象庁の近くをアカタテハ舞う。

29日（火）日中寒く

大勢は冬型だが、南海上に谷の残るタイプで、関東～近畿登すぎまでぐずつく。御前崎初雪。暖かな朝だが日中気温上らずmax全国的に4°C前後低い。北陸以北30～50cmの所。

30日（水）高田積雪298cm

戦後の最深記録、歴代では6位。北海道上空に-45°Cの寒気。富士山今冬minの-33.2°C。日本海側全般に、あちこちで50cm前後の④。東京-2.5(-2.9)3.9(-5.5)はとともに月の最低。

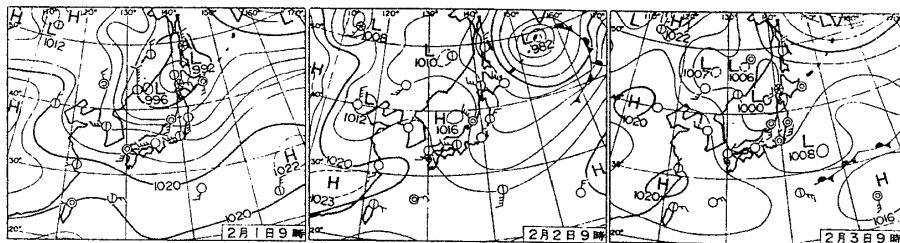
31日（木）冷込一段と厳しく

関東など、本州中部は前日上まわる冷込み。横浜-3.3、水戸-10.6°など今冬一番。H、南偏して移動Hになりつつあり、冬型ゆるむ。④も峰を越して次第に小降りに。

1985年2月

春順調 水不足解消

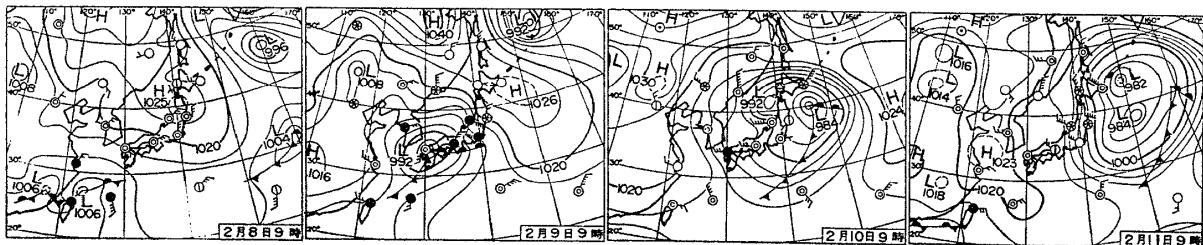
- 上旬末から周期変化にかわり、水不足もやっと解消。
- 月降水量、北陸以北の日本海側で平年よりやや少なかった程度。その他150~200%を超えた所も多い。
- 月平均気温、北海道の内陸で2~3°C高く、その他はおむね平年並。



1日（金）寒さ和らぐ
東日本は冷え込み強く、東京 -1.3 (-1.7)はこの月の min. 日中は全国的に暖かく、東京も13.4 (+3.9)と彼岸頃の陽気、冬型に戻りつつあり北日本ではまとまった降水の所も。

2日（土）愛媛で山火事
前夜L東海上に出て、引きの冬型。前日来の①、北海道で20cm前後。冬型ゆるみ速く、午後には東北の日本海側もぼぼ①。乾燥下、愛媛で山火事発生、香川県にも延焼。

3日（日）西日本に黄砂
谷短周期で通り、またいたん弱い冬型。北陸以北の日本海側、降水は少量。西日本に今年初の黄砂。一部を除き暖かな節分。母棲み木戸に移設しにけり 宮下翠舟



8日（金）南西諸島強雨

このところFに向って南から暖湿流が入り易く、南西諸島は頻繁に強雨に見舞われている。宮古島113屋久島136mm、関東以西ぐずつき。隠岐島沖で漁船転覆10人死1人不明。

9日（土）春あらし

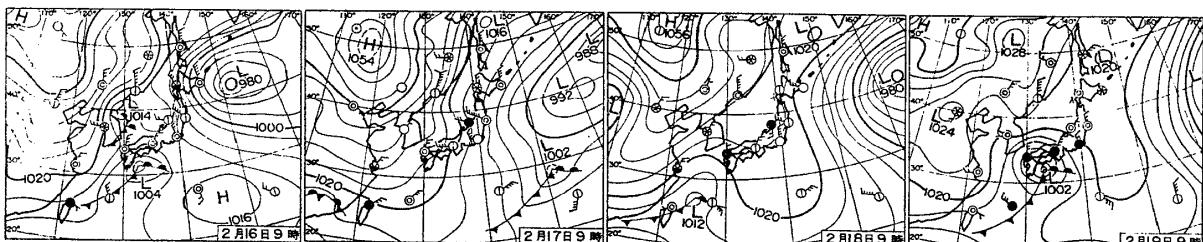
幾つかのしの集合だが、見かけ上台湾L日本海へ、関東以西の南岸へ南西諸島100~200mmの所。日本海側除き東北南部まで50mm超す●。恵みの●だが、沈没、ナダレなどの被害もある。

10日（日）回復遅れる

日本海側は冬型の天気、2次谷東進して夜東日本へ。太平洋側も天気回復遅れ、上層寒気で●の所も。関東北部で落雷による停電、電車ストップなど、ひまわり回線にも被害。

11日（月）強風被害

谷すっかり東海上へ出て引きの冬型。東・北日本で風強く、ゴンドラ宙づり、リフト外れ、ツリ客高波で死ぬなどの事故。東京未明21.8m/sの突風。典型的な冬型分布。



16日（土）Lオジギ

南海上のL、台湾付近に発生したもののだが、日本海との間、Hの性格強く北上できず。雨域は朝方近畿まで拡ったが次第にしほむ。●一時①の東京神田でジンショウゲほころぶ。

17日（日）タンカ一座礁

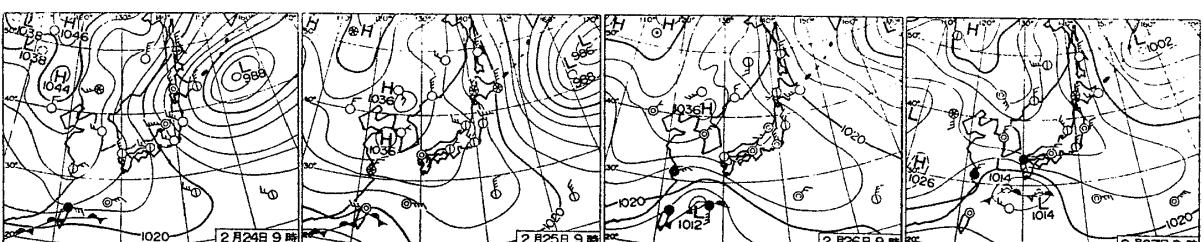
播磨灘で5万トンのLPGタンカー。冬型で、本州中部上空にやや寒気も入っているが、日本海側全般に小雪の程度で止み間も多い。気温は関東以西で平年並、北日本は暖か。

18日（月）台湾L

未明、台湾の北に発生。雨域、朝には九州全域、夜近畿まで。午後は関東も●で夕刻にわか●。この日の●は九州中心に30mm前後。北日本は終日弱い冬型の天気。

19日（火）南岸で大雨

足摺岬116mm川123mmなど。典型的な台湾Lで、夜には房総沖で閉塞、停滞気味に。奥多摩道路●で通行止。中央線列車●で寸断。関東以西全般に50mm前後、前橋積雪10cm。



24日（日）桜島爆発

車43台、噴石被害。最大級の規模で、被害規模も昭和53年8月以来という。冬型ゆるまず、多い所は30~40cmの新雪。東海道新幹線も遅れが出る。東京の湿度15%でこの月の最少。

25日（月）冬型崩れる

午後台湾付近にし発生。これを含む谷東進したが、大陸Hの北西へ南東のはり出し強く、谷の動き遅い。昼には九州の一部で●降り出したが、雨域拡がらず、東・北日本は冬型。

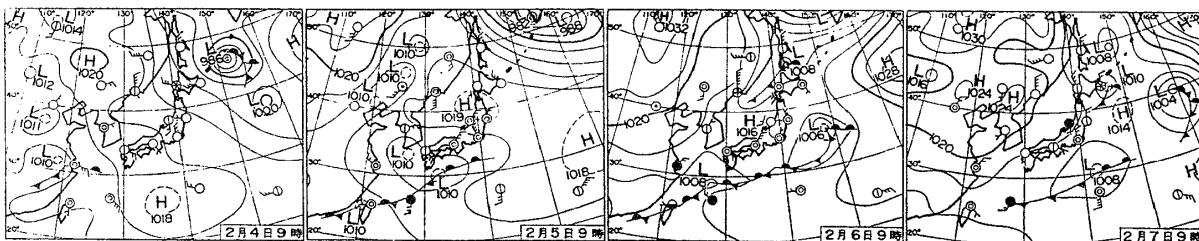
26日（火）北転船沈没

千島最北端で、死不明20人。台湾Lの動き遅く、雨域は夜に入れてやつと九州全域に。しに向って暖湿流入り、与論島145伊是名261mmの短時間豪雨も。北日本冬型、関東以西●。

27日（水）台湾Lオジギ

分裂してひとつは停滞気味、閉塞点に出来たLはオジギして東進。九州は早朝から●、雨域は南岸づたいにゆっくり東進。夜は西日本一帯と東日本の南岸で●。北日本終日冬型。

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐



4日（月）東京ウメ開花

平年より2日遅く。北日本は弱い冬型。その他南高気味で暖か。黄砂さらに広範囲に近畿まで。都心近くでヒバリ鳴く。大陸の谷、動き早く、夜は四国まで●、南西諸島で強雨も。

5日（火）四国山火事鎮火

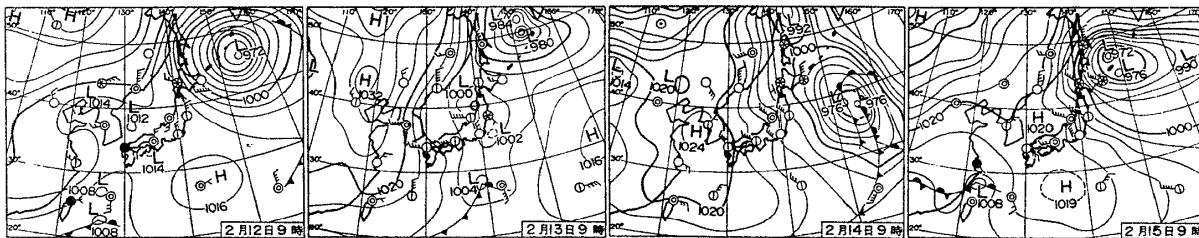
2県で358ha焼く。西日本は●に明け午後からゆっくり回復。雨域は南岸沿いに東日本まで拡がったが、降水は各地とも少量。東京2mm。春雨にイワヒバ初めてひらく。

6日（水）屋根ナダレ

藏王の山の家、屋根からのナダレで8人死傷。東北は①れて高温。南海上のF、ゆっくり南下しながらしほ。東進。南西諸島、早朝に強雨。関東以西ぐずつきだが●は少量。

7日（木）札幌雪まつり

谷通過後だが、朝方の暖かさが残って全国的に高温。札幌-3.4(+5.2)0.5(+1.3)。東京min7.0(+6.3)で今月1番の暖かな朝。本州以西max平年比+5°C前後。東京Ⅱ、横浜Ⅰ。



12日（火）H, L動き速し

大陸Hちぎれて移動性に。谷は夜本州中部まで。九州～南西諸島は朝から●が少量。谷不活発で、午後関東まで○った程度。北海道は発達したしの引き風で終日冬型分布。

13日（水）弱い冬型

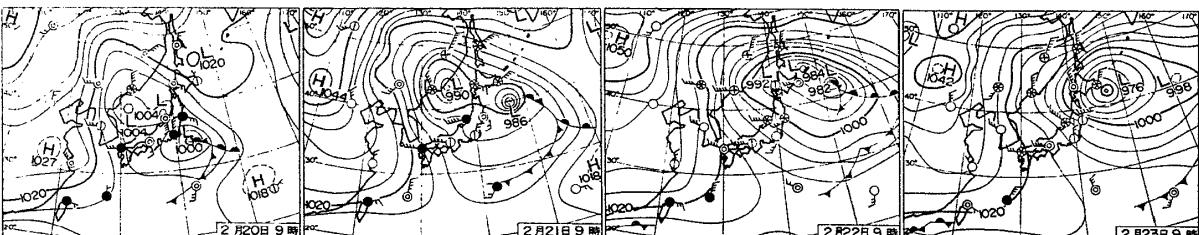
日本海の小L、午後には東海上へ出て、全般に弱い冬型配置、分布。上層の2次的な谷が東進して、午後には西日本の、夜には東日本の太平洋側でも●の所。東日本暖か。

14日（木）出水ツル北帰行

前日の谷通過後、寒気入り、冬型やや強まる。一転して寒くなり、東、北日本のmax平比-3~5°。日本海側は山陰まで○で、所々20~30cm。南西諸島は①れて気温平年並。

15日（金）新潟で土砂崩れ

富山との県境青海町。雨で融雪、地盤がゆるんでいたらしい。民家の9人死1人不明。Lの発達で、中部以北は冬型の配置分布続く。東シナ海上にL発生、夜は九州でも●。



20日（水）鹿児島にツバメ

平年より24日早く。日本海しにみられる谷があって、関東付近のL停滞。谷の東進で夕刻から北東に動き始める。回復遅れ、夕刻から関東以西①。房総内陸砂崩れで国鉄ストップ。

21日（木）首都圏濃霧

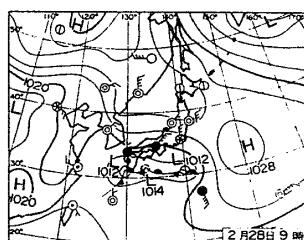
雨の後、夜晴天の典型的タイプで、昨夜から関東一円に濃霧、埼玉で視界0の所も。日本海側全般に○、九州西部も、南の突風、東京17、千葉26m/sで春一番。北関東は午後暴。

22日（金）寒さぶり返す

西日本は昨日から、きょうは東北まで。max平比-3~7°。東京のmin0.6(-1.9)3週間ぶりの平年下。冬型強まり30~50cmの新雪も。大阪湾で木材運搬船、強風で横倒し。

23日（土）西日本寒さ続く

東日本はよく①れて気温や、上向く。西日本は相変わらずの寒さ。南海上をよわい谷通過。西日本ははじめ雲が多かったが、Lもできず午後次第に①。日本海側の○続き30cm前後の所。



28日（木）東京3度目の雪

今冬3度目だがミソレ、八王子2cm。南海上にF停滯。小L次々東進。東北以西○～●で降水30mm前後。冷雨。東京4.8(-6.1)で月のmin。ベランダに育つバセリや春の雪。阿部洋子

スクラップより

- ▶ **核の冬** 欧米の都市に計100メガトンの核兵器が投下された場合、北半球中。高緯度の気温は15°C以上低下（広島で開催の「核の危機に関するセミナー」で、米学者の試算報告（朝日2/6）。
- ▶ **第5福竜丸の死の灰** 31年前、第5福竜丸から採取、保存していた死の灰に、放射性元素アメリシウム241が多量に残存していたことが確認された（清水栄博士の分析検査で）。ブルトニウムの核反応で作られ、原水爆実験の際に放出されるが、分析検査ではっきりとその存在が確認されたのははじめてという（読売3/1）。
- ▶ **国際「深海掘削」** 米、仏など6か国参加の国際協力事業、10か年計画でスタート。日本は10月から参加。日本近海海底巨大地震の発生機構の解明などを目指す。
- ▶ **ヤンバルテナガコガネ** 天然記念物に指定される。
- ▶ **ハクビシン** 北海道の奥尻島

反応で作られ、原水爆実験の際に放出されるが、分析検査ではっきりとその存在が確認されたのははじめてという（読売3/1）。

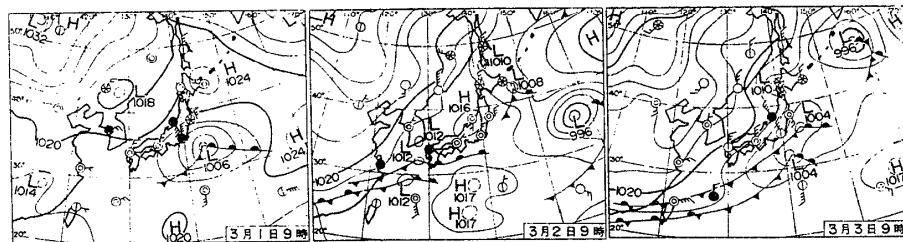
で見られる。南方系のジャコウネコの仲間で、東北が北限といわれていた。もともと日本での生息のものが、在来と人手で移植されたとの説が対立しており、さらに議論が活発化しそうだという。

▶ **スギ花粉症** 有力な治療法。首に麻酔薬を注入する方法で、関東通信病院の1400治療例に対するアンケート調査で、他の治療法に比べて効果的、が61%、否定的な回答は4%という。

1985年3月

暗い3月

- 関東以西で月日照時間非常に少ない、東京74時間で史上最少、平年の41%。他に館山、八丈島、足摺も最少記録。
- 月平均気温は中部以西で平年よりやゝ高く、東・北日本はほぼ平年並。
- 2月末以来、ガラバゴス島で大火災、貴重生物の絶滅は避けられそうだというが。



1日(金) 地震頻発

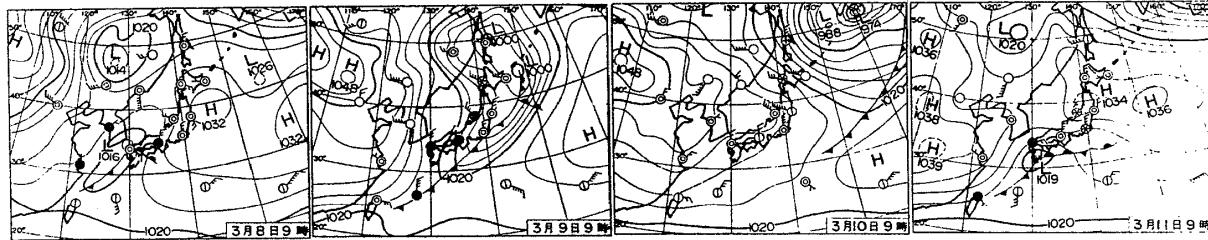
0554, 沖永良部IV, 那覇II, 1135頃、盛岡, 大船渡III, 八戸II, 南岸I, 朝東海上にぬけ、昼には東海以西は①～⑩。日本海に小しあり、東・北日本、日本海側は回復遅れる。

2日(土) 菜種梅雨

南海上前線帶、華南のI東進で、関東以西の南岸、九州で未明から●。北日本も谷が短周期で通過し～⑩。南西諸島は午後から①れたが、石垣島大富で積乱雲による●129mm。

3日(日) 冬空のひな祭り

谷通過後、小型のHはり出し寒気もやや南下してこれでも冬型。山陰の1部含めて日本海側、北日本は◎や●。冬型分布だが、北東風の東日本⑩、東京夜、月1番の吹出しの後①。



8日(金) 西日本大雨

日本海しだが、Fに向って吸湿流入り、暖域でも広範囲に●。四国、九州50～100mm近い●。山陰北陸も50mm前後、徳島南風39.7m/s。夜には東北全般も●。ボタン芽色づく。

9日(土) 関東も春の嵐

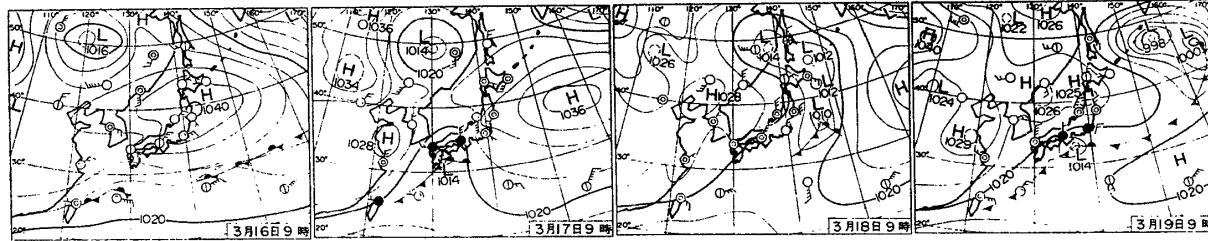
c・f南下。はじめ南風強く、大島、千葉で30m/s超す突風。雨量は近畿、中部で50mm前後。その他は並雨だが、2次谷残って関東は夜まで●。北日本は早々と冬型に戻り日本海側は◎。

10日(日) 青函トンネル貫通

着工以来21年ぶり。春嵐のあと冬型の典型的変化。北陸以北の日本海は◎。ただし北高気味で、東京は○、東海以西も午後は○。全国的に低温。出水のツル北帰行第4陣。

11日(月) 関東雪景色

静かな雪の夜明け、昼すぎまで降り積る。小河内15、八王子6、前橋、熊谷3cm。小Lで西日本も未明から●。のちF北上して午後は関東も●。東京31mmで月のmax。水戸などⅡ。



16日(火) 科学万博開会式

移動Hが本州付近で発達して、東京も日中①たが、Hの足速く、午後西日本で●降り出す。陽気は回復した所が多いが、東日本は低温続き。東京9.2(-3.8)、総代Ⅱ。

17日(水) 西日本強雨

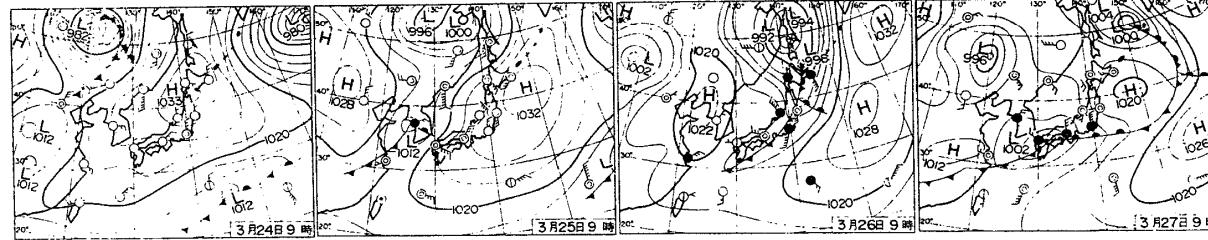
L南岸沿いを進んで夜半過ぎ関東の東海上へ。関東以西の太平洋側で50mm前後の所多い。未明より暖湿流の流入あって四国九州南部局地的に●交え強雨。内浦151佐喜浜118mm。

18日(木) 彼岸入り暖か

谷東海上へぬけて北日本は冬型の配分分布だが午後にはゆるむ。気圧傾度ゆるく、未明、東日本一円で放射霧、1部を除いて暖かな彼岸入り。東京17.0(+3.8)1週間ぶり平年上。

19日(金) また冷雨

南海上のF復活しても発生。九州は昨夜から●。雨域は未明に関東まで。東風による冷たい●で紀伊半島東部で雨量や・多い。尾鷲61mm。北海道①～⑩の他、東北南部も午後●。



24日(日) 高知サクラ開花

平年より1日早く、移動Hが本州上で発達、北海道から沖縄まで①れて暖か。北東流の関東は昼過ぎまで○や●で気温も上らず。午後には①れたがmax 平比-3°前後。

25日(月) 関東も暖か

Hの後面に入りて久しぶりに暖かな晴天。東京1週間ぶりにmax 平年上16.6(+1.1)。深い谷近づき、西日本は昼から●。南風で暖か。宿毛、松山でもサクラ開花。

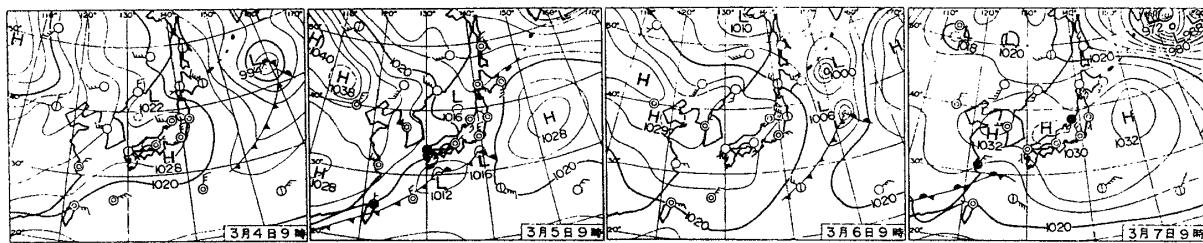
26日(火) バカ陽気

全国的な●で明ける。四国南部、南紀、東海で50、1部で100mmの他並雨。午後は①の所多くなり暑い位の所も。静岡24.1、甲府23.5+8°。東京20.3(+5.7)で月のmax。

27日(水) 東海以西で大雨

揚子江I東進してF活発に。西日本、昨夜半から●。雨域は朝のうち関東まで。東海～南九州の所々で80mm前後。えびの132、新島も129mm。2148頃、根室IV、釧路などⅢ、東京I。

昭和59～60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐



4日(月)チリ、M 7.4

死者135負傷約2,000人。H移動性となって日本を掩いおむね①～②。しかし上空の寒気の状態変らず、北日本は冬型分布、F北上して沖縄の天気回復、代って九州で夜●降出す。

5日(火)チリ地震津波届く

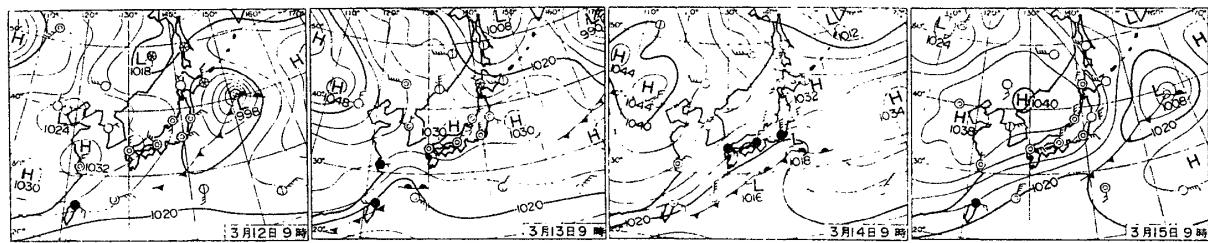
尾鷲19、徳島、根室15前後、館山、八丈島10cm前後、L南海上を通過、南岸中心の並雨だが八丈島は107mm。東京湾でタンカーと貨物船衝突死1。北海道は終日●の所が多かった。

6日(水)啓蟄

冬型で寒気もやや南下。北陸～山陰で降水50mm前後の所も。太平洋側は○～①の好天だが、関東は北東流、東京終日○で、8.0(-3.5)、皇居御苑マンサクサンショウ花盛り。

7日(木)一見帶状H

沖縄は前線帯の南にあって朝から①。前線帯は次第に強まり、夜東シナ海上にL発生。北方には寒気を伴った谷ありゆっくり東進、北海道は①～②で所々○。その他般に○で所々小雨。



12日(火)お水取り

西日本のmin平年並かや、高日。東京は前日の寒さひびいて1.3(-2.2)でこの月のmin。北日本は冬型分布。その他Hに掩われてはいるが、上空の谷東進しており夜になってから①。

13日(水)ぐずつき模様

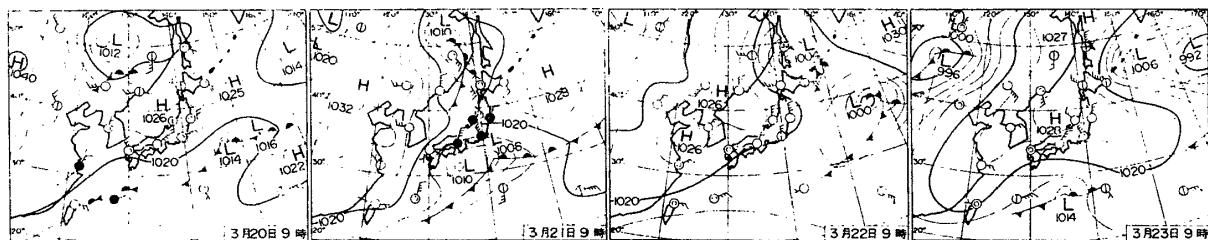
図からは北高型といえないが、きょうも南海上が前線帯、谷短周期で遡るパターンで全般に○所々小雨。北海道は冬型分布。南西諸島は暖湿流入り石垣島で●、また大富で100mm。

14日(木)新幹線上野発

東北・上越両新幹線、大宮開業より2年9ヶ月ぶり。F上を小しお次々東進して南岸中心の●。関東南部30～40mm、東京22mm、一時暴。中庭に舞ふ春の雪ビルディング 深川正一郎

15日(金)食中毒しきり

千葉群馬など、また山形では358人。北日本は冬型、関東以西は北高型の影響で雲が多い。関東は日中いったん①れたがまた○。うすら寒い1日だが東京郊外でボタン出芽。



20日(水)変化せわしく

谷通過後おむね天気回復。東日本、北東流の影響ではじめ○、西から谷近づいて風系変りのちもち直す。この弱い谷で九州は朝から●降り出す。気温は高低まちまち。宇都宮Ⅳ。

21日(木)冷雨の春分

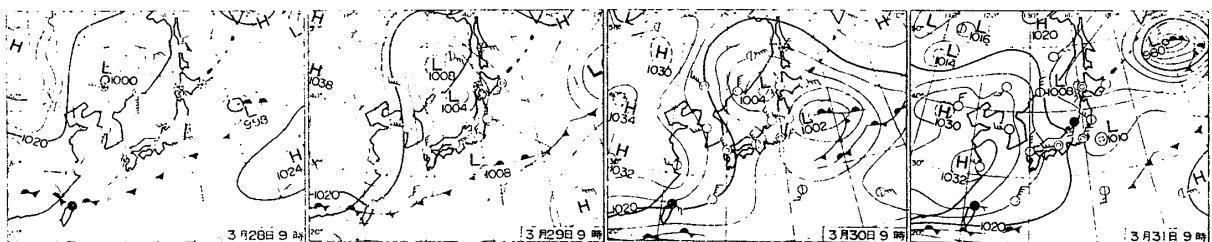
南海上のし動き速く、昼には東海上へ。しかし北方の谷がこれに次いで東進、東日本の●が上がったのは夜、max5°以上も低い冷雨。前半①の北海道、回復早かった西日本は暖か。

22日(金)短周期変化

Hに掩われて全国的に①～②で、気温もほぼ平年並、上空の谷が小ささに東進するので北方と南方から天気崩れやすい。北海道でまた○。夜は関東以西また小雨模様。

23日(土)北高型

前日までの型と違い、ひと眼でみてとれる北高型。北陸、北日本は終日○～①。関東以西の太平洋側は小雨模様。甲府でナノハナが咲いたというが、今年の菜種梅雨はしつこい。



28日(木)高校野球漸く開幕選抜戦●で2日順延。大正13年以来はじめて、オホーツク海H退いたが、本州上の谷動き遅く、東・北日本の天気つきりせず。

北日本は終日小雨模様で低温、北海道は○。中部以西は①れて曇か、和歌山、八丈島サクラ開花。

29日(金)黄砂東北まで

オホーツク海H退いたが、本州上の谷動き遅く、東・北日本の天気つきりせず。しかし偏西風に運ばれた黄砂、午後には東北まで拡がる。0102頃、盛岡、八戸Ⅳ、東京Ⅱ。

30日(土)甲府サクラ開花

三島、絹代なども、谷の中、昨夜関東付近で発生したしが三陸沖に進んでいる。関東の●午後に上ってゆくなり回復へ。北日本は冬型分布。日本終日①。沖縄はぐずつく。

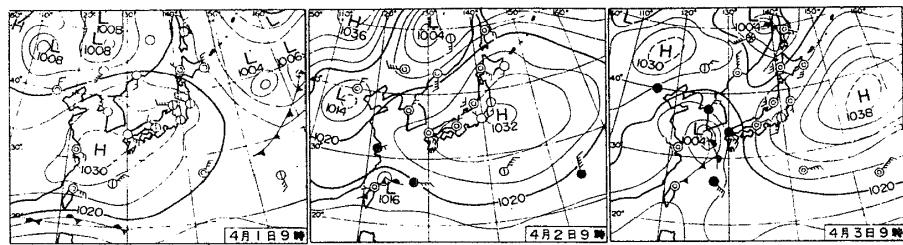
31日(日)釣り船27人遭難

波浪注意報下の鹿児島飯島付近で、定員超過の釣り船転覆死9不明18人。北日本中心の冬型で、-39°の寒気中心北海道まで南下。冬型分布だが関東すっきりせず、全般的に寒い。

1985年4月

春、ほぼ正常に

- ・月間日照時間、東北と道南を除き100%を超す。
- ・月降水量は本州の大部分で平年を上まわり、その他はやゝ少な目。
- ・月平均気温はおむね平年並。
- ・月平均値からみると、ほぼ平常な天候の4月。



1日(月) 福岡サクラ開花

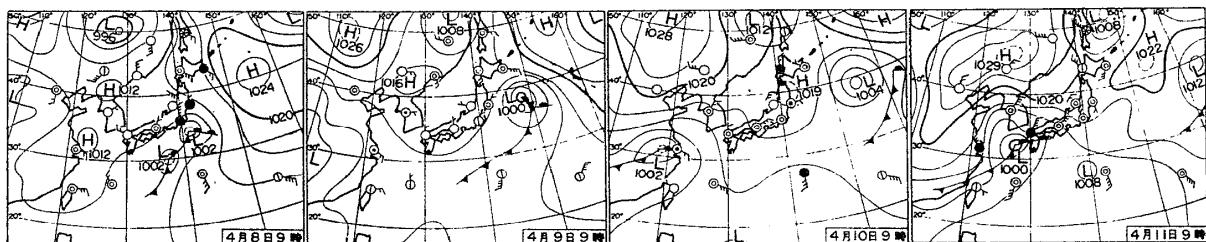
横浜も。気温は前日をやゝ上まわる程度で全国的に寒い。北日本の冬型は解消に向っているが、北海道は平野部でも終日 \oplus の所。その他全般に○～①。東京3.3(-3.6)で月のmin.

2日(火) 気温平年並に

大型の移動Hに掩われて全般に①で陽气回復。東シナ海のLで、沖縄は未明から \ominus 、●になった所もあるが、H強く、Lの動き遅い。奈良、京都で平年並のサクラ開花。

3日(水) 東京サクラ開花

平年より5日遅く。Hさらに発達。全般に南風入って暖かく、東・北日本のmax平比+5°前後。西日本は未明から降り出し、雨域夜には関東まで。九州など100mm超えた所も。



8日(月) 東日本ぐずつく
Lの動き遅く、東よりも風吹き抜けで関東や東北の太平洋沿岸は夜までぐずつき低温。その他は①で暖かく、沖縄も午後には回復。寒さの中、きょうもウグイスさかんに鳴く。

9日(火) 桜島大降灰

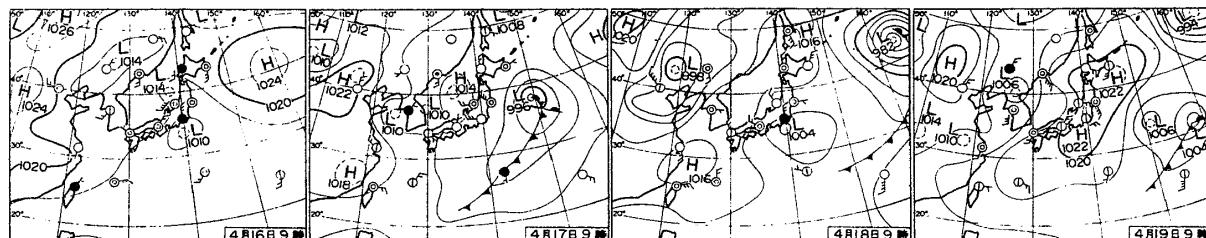
1827の爆発に伴い、鹿児島で12時間に1596g/m²の新記録。40分にわたる火山雷も。北日本も次第にもち直し、全般に①で暖か。横浜、大島Ⅱ。チリでM5.7.4とも。

10日(水) 新潟サクラ開花

平年より3日早く。東・北日本も①～②から下り坂。西日本は朝のうち①れただけで②となり夕刻には●も降り出したがこの日は少量。昨日、今日と沿岸の広範囲でキリ。

11日(木) 宇都宮IV

0127、東京、福島などⅢ、帯広、長野、浜松Ⅰ。暖湿流で沖縄南部●もあったが50mm前後。九州中・北部で100mm前後。関東も午後は●。東・北日本の太平洋沿岸、今日も移流雲。



16日(火) 北日本ぐずつく
妙な二つ玉で東日本も午前中は所々●。関東の東海上のしかも南西にのびる谷があって、これに混った空気が入り、近畿以西の太平洋側もすっきりしない。都心にツバメ。

17日(水) 不安定

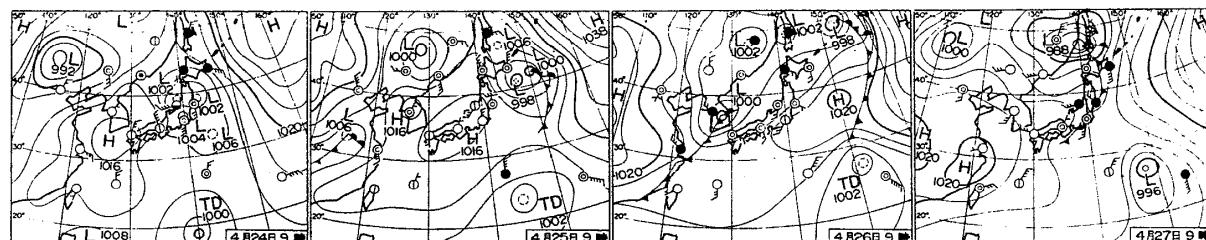
北日本は小Lの影響で午後まで●が残ったあと回復。関東以西は朝から①たが寒気が入って夜にはあちこちで●。阿蘇山で6cmの雹。東京郊外で落雷火災。仙台サクラ開花。

18日(木) 寒冷なL

昨夜九州にあった、空に寒気を伴うL、南東進して関東の海上に。東日本は午後まで●を交えた●。寒さ厳しくmax平比-6°前後。天气回復の九州に黄砂。郊外ヤマブキ咲く。

19日(金) 気圧系動き速し

大型の移動性Hに掩われて全国的に①～②。朝は全般に寒かったが、日中は東日本を除いて暖か。夜はしが日本海に入り、これに伴うc-f西日本に達し●交えた●に。



24日(水) 三菱高島磁火災
11人死亡。L上空に寒気入って東・北日本は不安定。雷雨頻発。北海道50mm前後。東京も●のあと夕刻から①れて寒く5日の月夜える。関東電害、青森では5cmの雹。

25日(木) 春たけなわ

移動性Hに掩われて○～①、気温も平年以上の所多く。ことに東日本の内陸で暖か。前橋26.1(+6.4)。東京郊外アメリカハナミズキ咲く。北海道はLの影響でぐずついて低温。

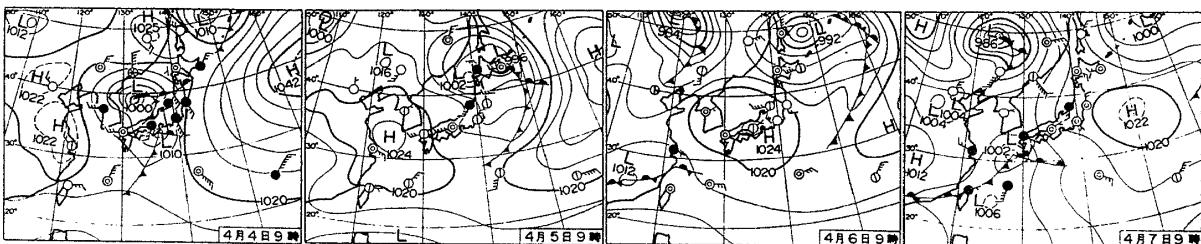
26日(金) 弘前サクラ開花

H次第に東に遠ざかり、朝鮮半島のLを中心とする気圧の谷が近づいて、全国的に南風で暖か。平比+6～8°の所も。午後は全般に○～②。九州、北海道から次第に●。

27日(土) 東日本ぐずつく

未明まで全国的に●の所が多かったが次第に回復。関東は降り出しが遅れたが、このあとF上関東付近にL発生して●。その後も北東流入って終日すっきりしない天気。

昭和59~60年冬期の積雪に伴う被害 — 五十嵐

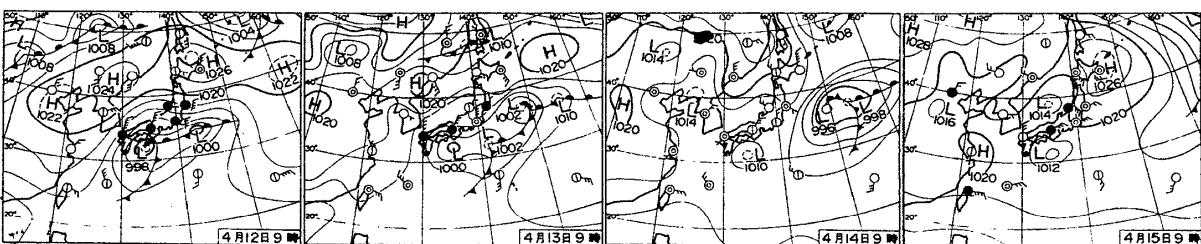


4日(木)紀伊、東海で大雨
L, 二つ玉となってゆっくり東進。
北日本も朝から●。紀伊~東海中心
の大雨、岐阜107天城224mm。西日本
は朝から回復し始め畳には近畿まで
①~⑤。父島II、青森、横浜I。

5日(金)茶摘み
静岡で、例年より2~3日早い初摘
みという。関東以西は朝から①~⑤
で暖か。静岡23.2(+5.7)。北日本
の太平洋側も畠から回復。日本海側
は山陰まで吹出しの●だが少量。

6日(土)北海道は雪
L, オホーツク海で発達。この引き
風で北海道は昨夜来かなり広範囲で
④。少量で午後まで残った所もある
が昼にはおむね回復。南西諸島、
暖湿流で50mm。午後西から又下り坂。

7日(日)南西諸島強雨
Fの南に暖湿流入って南西諸島100
mm前後。屋久島159, 1時間56mm。
し閉塞して動き遅くなり、九州も夜
まで●残る。雨域畳までに東北南部
へ。郊外でウグイスさかんに鳴く。

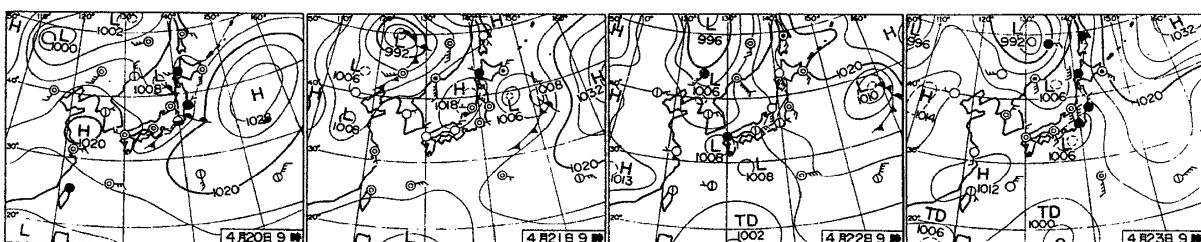


12日(金)冷雨
L, 南海上で閉塞して動き遅く、今
日も九州から東北南部まで●。東風
吹きつづけて寒くmax平比-5°前
後。東京13.0(-4.9)は月のmin。
北海道は帯状Hの圏内で①れて暖か。

13日(土)八丈島310mm
1時間雨量64mmでともに4月の記録。
紀州沖のL東進して、関東を除いて
ほどんと雨は上ったが、北高続。
夜は関東以西全般に①。関東、東北
東部の低温昨日より戻し。横浜II。

14日(日)サクラ前線陸奥入
福島で平年より3日遅く開花。西日
本は、南海上にしあってまた●の所
多くなる。東・北日本はよく①れた
が、関東は寒い。気圧系全般に東進
して夕刻には東北まで④。大島I。

15日(月)二つ玉L
未明、日本海にL発生して二つ玉の
形、ゆっくり東進するに従い雨域も
西日本から東へ。九州畳前から①。
午後西日本全般に①。関東、東北は
●。郊外でカエデの花咲く。

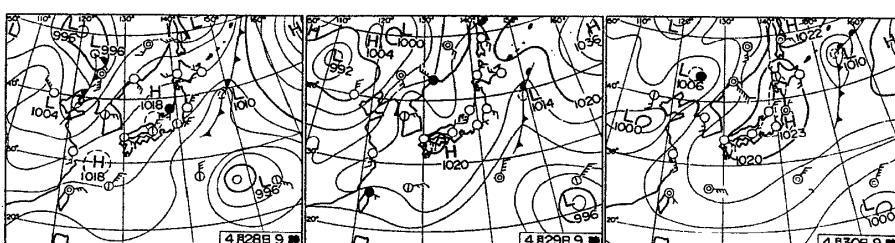


20日(土)3年続々・穀雨荒
日本海L東進して、これに伴うFも
はやい速度で本州通過。あちこちで
●も落雷による火災、電車遅れ。
静岡では2万戸停電、竜巻など。大
降りはなし。富士山も落雷で欠測。

21日(日)移動H
東北は東海上のLの影響が残って雲
が多く気温も低目。その他は移動H
に掩われ、①れて暖か。しかし大陸
のしから南にのびる谷が東進して、
九州は夜●の降り出した所も。

22日(月)小L東へ
小Lに伴う雨域、夜には関東まで。
三重で50mm前後の他は10~20mmの程
度。小Lは大陸の寒冷渦に伴う短波
に対応するもので次々と発生してお
り、西日本も夜まですっきりしない。

23日(火)漁船遭難
サハリン沖で、16人絶望とされたが、
16日後、3人救助される。本州付近
の谷、ようやくはっきりした動きみ
せ、西日本は回復。東海、関東、東
北南部50mm前後。東京55.5mm。



28日(日)連休日和
日本付近は、北東から南西に連なる
Hベルトの圏内。関東の北東流も朝
から解消、全国的に○~①。気温は
北日本を除いて低目の所が多い。東
京19.0(-1.6)甲府16.6(-5.2)。

29日(月)青森サクラ開花
平年より1日遅く。沖縄南部が○で
1部●の他は、全国的に帯状Hに掩
わればほ○。東日本の陽気も回復し
てmax平比+3°前後の所多い。1120,
むつIV, 青森III, 札幌IIなど。

30日(火)移動H
帯状Hに切れ目みえ、北海道は谷の
接近で次第に○。午後から●の所
も。タンチョウヅルの営巣地、釧路
湿原 2200ha 焼ける。本州以西は
い変らず①れて暖か。

- ▶ 房総海底地震システム 実施設
階へ、勝浦沖110km、水深4000m
の海底と勝浦測候所を結んで、8
月から敷設、来年4月に始動の予
定。御前崎に次いで世界で二番目。
- ▶ 干魃の続いているエチオピアで、
3日、新たな災害となる暴雨。
- ▶ 鳥島のアホウドリのヒナ、今春
の巣立ちちは51羽で過去最多。
- ▶ オキナエビス産卵 鴨川シーワ
ールドで、生きている化石といわ
れる巻貝のオキナエビス、飼育下
の産卵は世界初という。